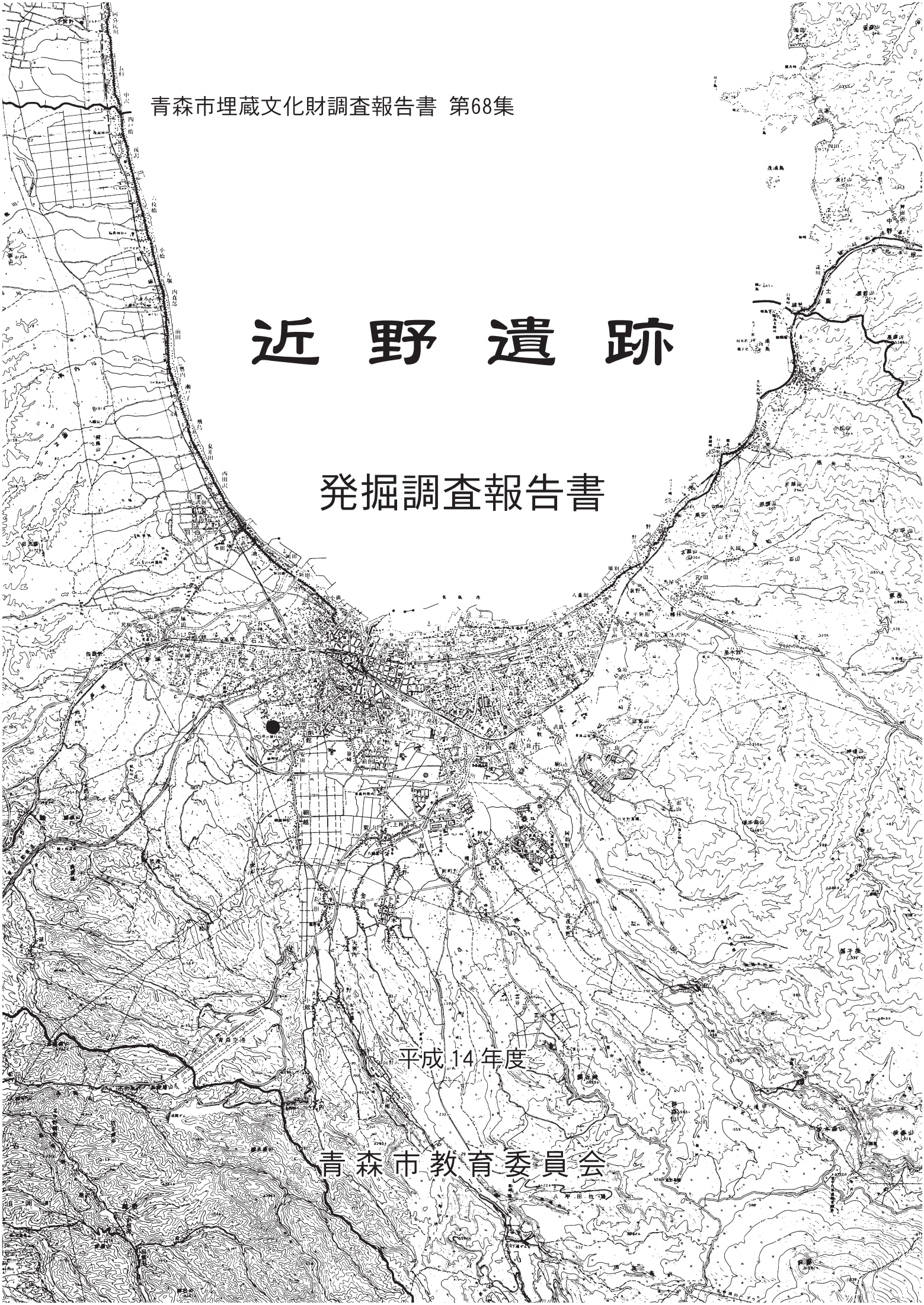


青森市埋蔵文化財調査報告書 第68集

近 野 遺 跡

発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第68集

近野遺跡

ちかの

発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会

序

青森市西部は、国指定特別史跡三内丸山遺跡をはじめとし、多数の遺跡が確認されている、市内でも有数の遺跡密集地帯であります。

これまで、東北縦貫自動車道建設など、大規模な発掘調査が度々行われております。

そのような中、当委員会においては、三内丸山遺跡に隣接する近野遺跡について分譲宅地開発に先立ち遺跡の記録保存を図るため、今年度発掘調査を実施いたしました。本書はその発掘調査の成果をまとめたものであります。

近野遺跡は、広範囲にわたる遺跡でありますが、今年度は青森県においても別地点において発掘調査を実施しており、水さらし場遺構が検出され広い注目を集めております。

当委員会では、近野遺跡の東端に相当する地点の調査を実施しており、調査の結果、竪穴式住居跡、土坑などの遺構を検出し、また、縄文時代前期、中期の土器や石器等の遺物が出土しております。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用に役立つことができれば幸いと存じます。

最後となりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる、調査員、関係各機関並びに各位からのご指導、地元各町会からのご協力、さらに工事主体者であります 手 塚　宇一郎 氏のご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成15年３月

青森市教育委員会

教育長　角　田　詮二郎

例　　言

1．本書は、民間事業（分譲宅地開発）に係り平成14年度に青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字安田字近野に所在する近野遺跡の発掘調査報告書である。

2．本遺跡の遺跡番号は、01065である。

3．本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行った。小野貴之が担当した。

4．調査区におけるグリッドの設定については、平成14年度青森県が実施した近野遺跡発掘調査における設定を譲り受け、それを拡張した。従い、遺構図等における方位は、平面直角座標第Ｘ系の座標系上の北となる。(青森県教育委員会　2002　『近野遺跡VI』）磁北については、約８°西偏する。なお第１図及び第３図は上辺が真北である。測量原点(Ｂ.Ｍ.)は、青森市地盤沈下観測用水準点№64より原点移動を行い設置した。

5．土層の注記については、「新版標準土色帳」(小山正忠、竹原秀雄1993）に準拠した。

6．各遺構の計測値については、原則的に確認面から計測した数値である。

7．遺構番号は、原則的に遺構の種別毎に、確認順に番号を付した。

8．図版番号及び表番号は、原則的に「第〇図」、「第〇表」とし、順番に通し番号を付した。

9．挿図の縮尺は、各図毎に示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。

10．石器の石質鑑定については、青森県総合学校教育センター指導主事　工 藤　一 彌 氏に依頼した。

11．発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森市教育委員会で保管している。

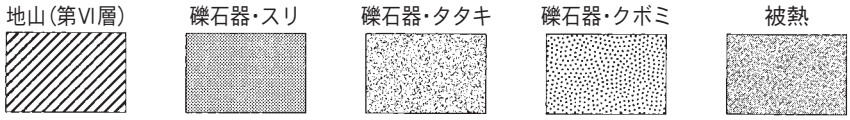
12．発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各氏からご指導・ご教示・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する（順不同・敬称略)。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・西近野町会・太田原　潤・成田　滋彦

凡　　例

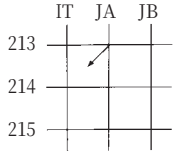
1．本報告書内で使用する、スクリーントーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

（1）図中で使用したスクリーントーン



（2）グリッドの呼称

（例）ＪＡ―213グリッド



（3）図中、表中で使用した遺構の略称

「第○号竪穴式住居跡」→「○住」「第○号土坑」→「○土」　「第○号小ピット」→「ピット○」

（4）図中で使用したアルファベットを用いた略称

Ｐ…土器　　S…石器　ＬB…ロームブロック

（5）石器計測表中の器種の略称

「不定形石器」→「不定形」、「半円状扁平打製石器」→「半円」

（6）石器計測表中の石質の略称

「珪質頁岩」→「珪・頁」　「頁岩」→「頁」　「玉髄」→「玉」　「砂岩」→「砂」
「安山岩」→「安」　「泥岩」→「泥」　「凝灰岩」→「凝」　「閃緑岩」→「閃」
「輝緑凝灰岩」→「輝・凝」　「変朽安山岩」→「変・安」　「溶結凝灰岩」→「溶・凝」
「赤鉄鉱」→「赤」

2．出土遺物の分類

（1）出土土器の分類

第Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器
第Ⅱ群土器　縄文時代前期の土器
　　1　縄文時代前期前半の土器
　　2　縄文時代前期後半の土器
第Ⅲ群土器　縄文時代中期の土器

（2）出土石器の分類

・石鏃　・石槍　・石匙　・石篦
・不定形石器　・その他の剥片石器
・剥片　・石核　・磨製石斧　・石錘
・敲磨器類　・半円状扁平打製石器
・石皿

（3）出土石器の掲載にあたり、点数が多数であるもの、欠損が激しいもの等は、一部を計測表の記載に留めた。

目　　次

序
例言
凡例
本文目次
図版目次
表目次
写真目次

第Ⅰ章　調査の概要
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
　第３節　調査方法 …… 2
　第４節　調査経過 …… 5
第Ⅱ章　遺跡の環境
　第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
　第２節　基本層序 …… 8
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物
　第１節　検出遺構 …… 9
　　１．竪穴式住居跡 …… 9
　　２．土坑 …… 15
　　３．小ピット …… 18
　第２節　出土遺物 …… 30
　　１．土器 …… 30
　　２．石器 …… 39

　まとめ …… 58
　引用・参考文献 …… 60
　写真図版 …… 61
　報告書抄録 …… 71
　既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

図版目次

第１図　調査範囲図 …… 3
第２図　遺構及びグリッド配置図 …… 4
第３図　遺跡位置及び周辺の遺跡図 …… 7
第４図　基本層序 …… 8
第５図　竪穴式住居跡(１) ……12
第６図　竪穴式住居跡(２) ……13
第７図　竪穴式住居跡(３) ……14
第８図　土坑(１) ……22
第９図　土坑(２)・小ピット ……23
第10図　遺構内出土土器(竪穴式住居跡)(１) ……24
第11図　遺構内出土土器(竪穴式住居跡)(２) ……25
第12図　遺構内出土土器(土坑・小ピット)(１) …26
第13図　遺構内出土土器(土坑・小ピット)(２) …27
第14図　遺構内出土石器(１) ……28
第15図　遺構内出土石器(２) ……29
第16図　遺構外出土土器(１) ……33
第17図　遺構外出土土器(２) ……34
第18図　遺構外出土土器(３) ……35
第19図　遺構外出土土器(４) ……36
第20図　遺構外出土土器(５) ……37
第21図　遺構外出土土器(６) ……38
第22図　遺構外出土石器(１) ……41
第23図　遺構外出土石器(２) ……42
第24図　遺構外出土石器(３) ……43
第25図　遺構外出土石器(４) ……44
第26図　遺構外出土石器(５) ……45
第27図　遺構外出土石器(６) ……46
第28図　遺構外出土石器(７) ……47
第29図　遺構外出土石器(８) ……48
第30図　遺構外出土石器(９) ……49
第31図　遺構外出土石器(10) ……50
第32図　遺構外出土石器(11) ……51
第33図　遺構外出土石器(12) ……52

表目次

第１表　遺構内出土土器観察表 ……53
第２表　遺構内出土石器計測表 ……53
第３表　遺構外出土土器観察表 ……54
第４表　遺構外出土石器計測表 ……55

写真目次

写真１　調査前風景・基本層序・竪穴式住居跡(１) …61
写真２　竪穴式住居跡(２)・土坑(１) ……62
写真３　土坑(２)・調査風景 ……63
写真４　遺構内出土土器(１) ……64
写真５　遺構内出土土器(２)・石器(１) ……65
写真６　遺構外出土土器(１) ……66
写真７　遺構外出土土器(２) ……67
写真８　遺構外出土土器(３) ……68
写真９　遺構外出土土器(４)・石器(１) ……69
写真10　遺構外出土石器(２) ……70

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成12年度、土地所有者である手塚宇一郎氏の依頼を受けた木商建設より青森市教育委員会文化財課へ、分譲宅地開発予定地である青森市安田字近野276－１の地点について埋蔵文化財包蔵地有無確認の照会がなされた。当委員会では、近野遺跡に該当し、事前の協議が必要との回答を行った。協議の結果、遺跡の現状保存が困難であり、事前の本発掘調査が必要と判断された。工事予定地は、遺跡範囲の縁辺部に相当し、内容確認のため、当委員会が試掘調査を実施することとなった。

当委員会では、工事予定地8,364㎡を対象に平成12年10月16日～10月20日にわたり試掘調査を実施し、縄文時代前期、中期の遺物及び遺構を確認し、工事予定地内について発掘必要対象区を設定した。(青森市教育委員会　2001)

本発掘調査は、次年度に実施予定であったが、他事業との調整の結果、平成14年度に、実施することとなった。平成14年５月３日付けで委託契約を締結し、平成14年７月26日から９月18日までの期間、発掘調査を実施した。

第２節　調査要項

１．調 査 目 的

分譲宅地開発事業に係る造成工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

２．遺跡名及び所在地

近野遺跡(ちかの)

青森市大字安田字近野276－１

３．事業実施期間　　平成14年５月３日～平成15年３月31日

(発掘調査期間　　平成14年７月26日～平成14年９月18日)

４．調 査 面 積　　1,614㎡

５．調査委託者　　手　塚　宇一郎

６．調査受託者　　青森市教育委員会

７．調査担当機関　　青森市教育委員会文化財課

８．調査指導機関　　青森県教育庁文化財保護課

９．予 算 措 置　　調査委託者側で措置

10．調 査 体 制

調査事務局　　青森市教育委員会

教　育　長	角 田 詮二郎
教 育 部 長	大 柴 正 文
教 育 次 長	竹 内 　 徹
参事・文化財課長事務取扱	遠 藤 正 夫
課 長 補 佐	工 藤 勝 則
主　　査	木 浪 貴 子
文 化 財 主 事	小 野 貴 之 (調査担当)
〃	木 村 淳 一
〃	児 玉 大 成
〃	設 楽 政 健
主　　事	足 澤 愛 子 (庶務担当)

第３節　調査方法

グリッドの設定は、青森県総合運動公園内で青森県が実施していた近野遺跡発掘調査におけるグリッド設定を譲り受け、それを拡張して調査区内に４ｍ×４ｍのメッシュを組んだ。グリッド杭の表示は、ＩＴ－215を起点とし、北へ214、213…、南へ216、217…、の順に算用数字を付し、また、東へＪＡ、ＪＢ…、西へＩＳ、ＩＲ…、の順にＡ～Ｔまでを組み合わせ、アルファベットを付した。

各グリッドの呼称は、アルファベットと算用数字を組み合わせて示した。(凡例参照)。北東隅のグリッド杭の表示によるものとした。

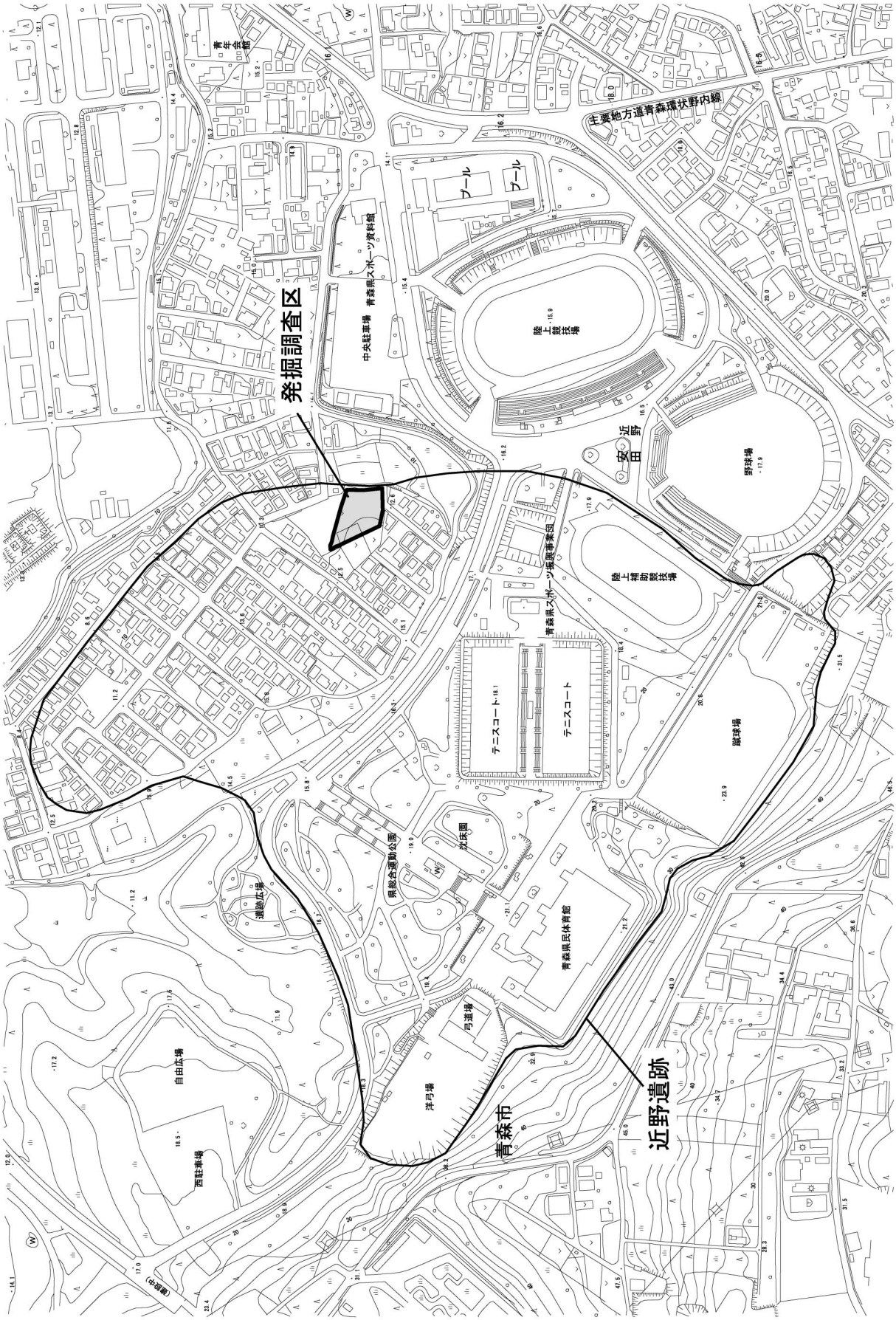
調査区域での測量原点（Ｂ.Ｍ.）は、市内浪館地区の青森市地盤沈下観測用水準点№64（標高5.898m)より原点移動を行い、標高11.996mの原点（Ｂ.Ｍ.１）を設置した。これを基準として調査区全域に対処するため適宜数個所に設置した。

各遺構は、種類別、確認順に１番から遺構番号を付した。

遺構精査にあたっては、原則として４分法、２分法を用いることとし、その他必要に応じ土層観察用のベルトを設定した。

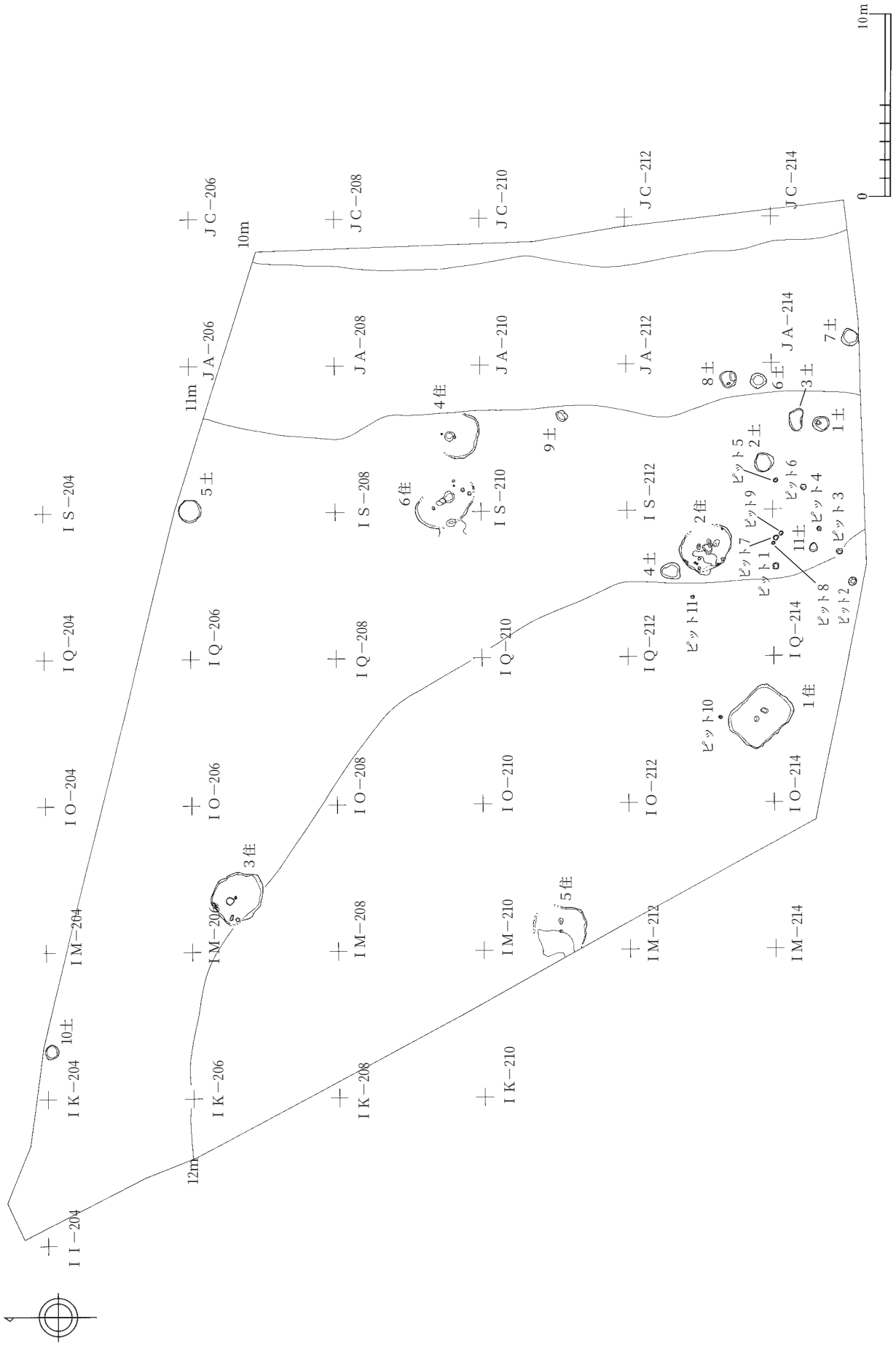
遺構の実測図作成においては、平面図、断面図を主体に作成した。また、遺構内出土遺物については、必要に応じ、微細図、分布図を作成した。実測にあたっては、基本的に簡易遣り方測量で行い、縮尺については、原則として20分の１としその他必要に応じ10分の１とした。写真撮影については、土層断面、完掘状況を主体に撮影し、必要に応じ、遺物出土状況を撮影した。フィルムは、モノクロームとカラーリバーサルを併用した。

出土遺物の記録は、遺構内外の遺物ともに、必要に応じ出土状況図、分布図を作成し、出土位置を記録した。図面の縮尺については、基本的に20分の１もしくは10分の１とした。その他、必要に応じ写真撮影を行った。



※青森市教育委員会作成「青森市遺跡地図（数値地図）」を一部複写の上、加工・転載した。

第１図　調査範囲図



第２図　遺構及びグリッド配置図

出土遺物の取り上げに関して、遺構内出土遺物は、基本的に覆土の各層位毎に一括して取り上げた。遺構外出土遺物は、原則的にグリッド単位で層位毎に一括して取り上げた。石器については原則的に、加工痕、使用痕の認められるものを現地調査時に選択した。

第４節　調査経過

７月26日　調査区域内の草刈を行い、調査の開始とした。
７月31日　浪館地区の水準点より原点移動を行い調査区内に測量原点を設置した。
８月１日　発掘作業員の雇用開始日であり、調査開始式を行い、また、調査区内外の環境整備を行った。
８月２日　調査区南側より表土剥ぎを始めた。
８月５日　表土剥ぎを終えた地点から遺構確認を行った。
８月12日～15日までは、お盆休みとし、現地調査を中断した。
８月16日　現地調査を再開した。盆休み前に確認していた遺構について精査を開始した。
８月23日　第１号竪穴式住居跡より、住居跡の精査を開始した。
８月27日　第３号竪穴式住居跡において、土器片囲炉を確認した。
９月２日　調査区東側の調査が終了した。以降調査区東側に排土移動を行い、これまで、排土を仮置きしていた、調査区中央部の表土剥ぎ、遺構確認作業を行い、随時遺構精査を進めた。
９月18日　調査終了日であり、調査終了式を行い、現地調査を終了した。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡

本遺跡が所在する青森市は、北の陸奥湾に面する青森平野とこれを取り囲む、東部の山地、南部に広がる火山性台地、西部の丘陵地からなる。本遺跡は、青森市西部の丘陵地の北東縁辺、開析の進んだ浪館段丘上に位置する。

調査対象区は、本遺跡の東端にあたり、地形的には、南西から北東に緩やかに下る斜面となっている。標高は、９～13mである。浪館段丘の低位段丘に相当すると思われる。調査前には、休耕畑地となっていた。調査区外東側は、旧湿田及び廃材等による盛土であるが、当委員会が平成12年度に実施した試掘調査において、現在の地表面から最深５m以上に至る深い沢ないし谷状の地形となっていることが判明した。沖館川に流れ込む支流と思われる。調査区も西側から東側は比較的緩やかな傾斜であるが、東側は、沢に向かい幾分傾斜が強まっている。

本遺跡は、青森市安田字近野及び三内字丸山に所在する。これまで総合運動公園建設等に係り度々の発掘調査が実施されている。これまでの調査で縄文時代中期、後期、平安時代を主体とする遺構、遺物が検出されている。当委員会調査区の南側では、縄文時代後期の遺物包含層の他、平安時代の集落跡が確認されている。

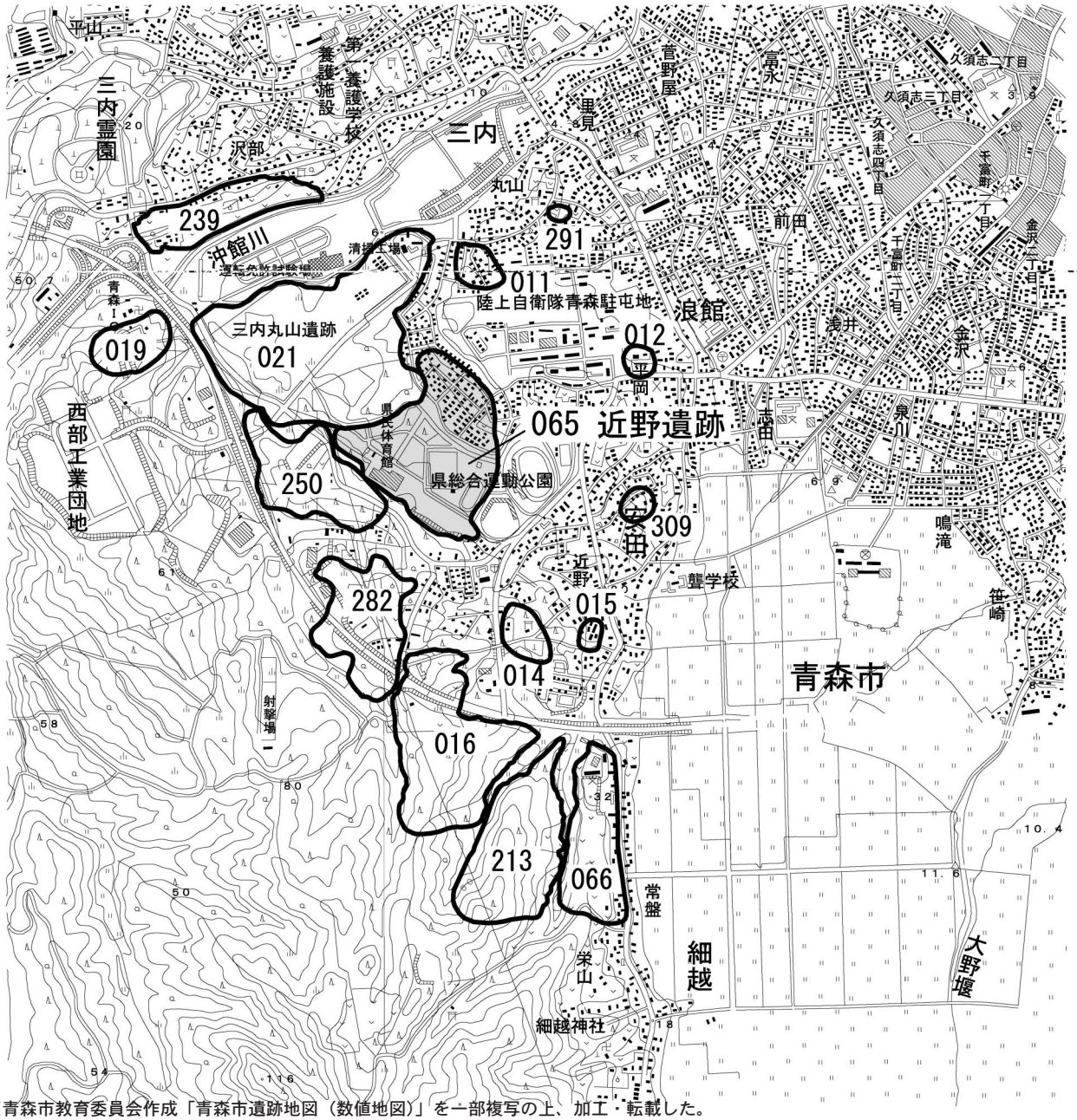
また、本遺跡の周囲にも多数の遺跡が所在しているが、比較的近辺の15個所の遺跡を図示した(第３図)。近年、遺跡の統合に伴い名称等が変更になった遺跡も多々見られる。

本遺跡にほぼ隣接して２個所の遺跡がある。北西側には国の特別史跡である三内丸山遺跡が所在する。旧小三内遺跡、旧三内丸山(１)、(２)遺跡及び近野遺跡の一部が統合されている。また、西側には、三内丸山(５)遺跡が所在する。旧三内丸山(３)遺跡と統合されている。調査において中期中葉、末葉の竪穴住居跡等の遺構や縄文時代前期から後期、平安時代の遺物が確認されている。また、三内丸山遺跡の西側、丘陵地上には、三内遺跡が所在している。

本遺跡の東側には、本発掘調査は実施されていないが、６個所の遺跡が所在する。北東側には、縄文時代前期の浪館(１)遺跡、縄文時代中期、晩期の浪館(２)遺跡、平安時代の三内丸山(３)遺跡が所在する。なお、三内丸山(３)遺跡は、名称が旧三内丸山(７)遺跡から変更となっている。南東側には、縄文時代前期の安田近野(１)遺跡、安田近野(２)遺跡、安田(１)遺跡が所在する。安田近野(１)遺跡では、土師器片が採取されたとの報告も見られる。また、平成９年度に旧安田水天宮(１)遺跡から名称が変更されている。

本遺跡の北東、三内丸山遺跡を挟んだ沖館川北側には三内沢部(３)遺跡が所在している。縄文土器片及び土師器片が確認されている。三内沢部(３)遺跡の西側、現在のインターチェンジ付近には、三内沢部(１)遺跡が所在しており、縄文時代前期中葉円筒下層ｂ式期の遺物包含層や中期中葉、末葉の集落跡が確認されている。

本遺跡南側の丘陵地上には、三内丸山(６)遺跡、安田(２)遺跡、栄山(３)遺跡、細越館遺跡が所在している。近年では、縦貫自動車道建設に係る発掘調査が行われている。三内丸山(６)遺跡では、縄文時代中期、後期の集落跡が検出されている。また、縄文時代早期から晩期、平安時代の遺物が出土している。安田(２)遺跡では、鉄生産に係る鍛冶炉を有する住居跡など平安時代の集落や縄文時代中期、後期の住居跡が検出されている。また、弥生時代の遺物が出土している。また、平成９年度に旧安田水天宮(２)遺跡と統合されている。栄山(３)遺跡では、縄文時代前期、後期、平安時代の竪穴住居跡や、落とし穴と考えられる土坑が検出されている。なお、三内丸山(６)遺跡は、安田(２)遺跡の一部及び旧三内丸山(４)遺跡と統合されている。



※青森市教育委員会作成「青森市遺跡地図（数値地図）」を一部複写の上、加工・転載した。

第３図　遺跡位置及び周辺の遺跡図

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　　代
011	浪館(１)遺跡	三内字丸山	縄文(前)
012	浪館(２)遺跡	浪館字平岡	縄文(中・晩)
014	安田近野(１)遺跡	安田字稲森	縄文(後)
015	安田(１)遺跡	安田字近野	縄文(前)
016	安田(２)遺跡	安田字近野、細越字栄山	縄文(前・後)
019	三内遺跡	三内字丸山	縄文、平安
021	三内丸山遺跡	安田字近野	縄文(前・中・後)、平安
065	近野遺跡	三内字丸山、安田字近野	縄文(前・中・後・晩)
066	細越館遺跡	細越字栄山	平安
213	栄山(３)遺跡	細越字栄山	縄文(前～後)、弥生、平安
239	三内沢部(３)遺跡	三内字沢部	縄文、平安
248	三内丸山(３)遺跡	三内字丸山	平安
250	三内丸山(５)遺跡	三内字丸山	縄文(前・晩)
282	三内丸山(６)遺跡	三内字丸山	縄文(中・後)
309	安田近野(２)遺跡	安田字近野	縄文(前)

第２節　基本層序

調査区域の基本層序は、次のとおりである。

第Ⅰ層　黒褐色土（主に10YR2／2）表土、耕作土である。重機等によると思われる削平の痕跡が下位の層との間に明瞭である。

第Ⅱ層　黒色土（10YR2／1）ＪＣ－215グリッドのみの確認である。

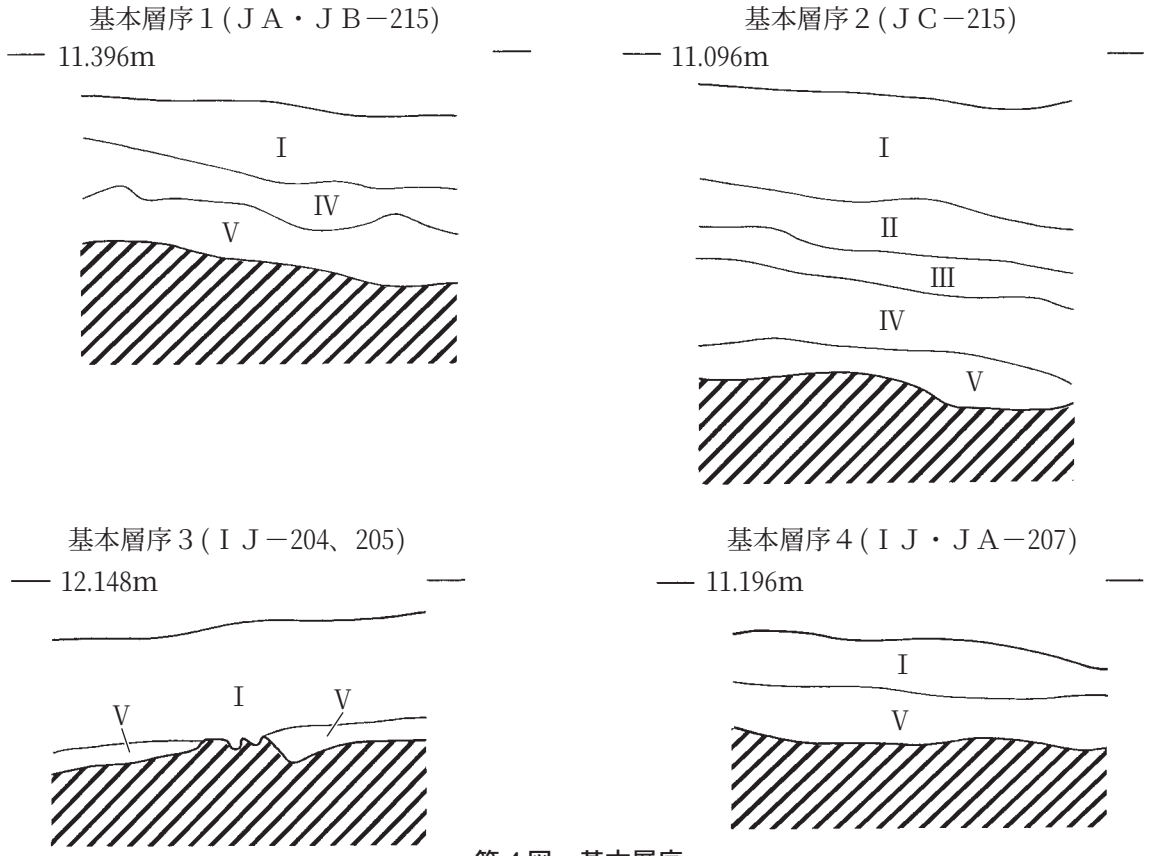
第Ⅲ層　暗褐色土（10YR3／3）ＪＣ－215グリッドのみの確認である。

第Ⅳ層　黒褐色土(主に10YR2／3)　縄文時代の遺物を包含する。

第Ⅴ層　漸移層

第Ⅵ層　地山として一括した。上位には、月見野火山灰に相当すると思われる黄褐色浮石質火山灰が堆積する。下位には、大谷火山灰と思われる赤褐色粘土質火山灰が堆積する。

調査区は、畑地であったためか、グリッドラインＩＴ以西の大半は、およそ10～30㎝の層厚で堆積する第Ⅰ層下において第Ⅴ層ないし第Ⅵ層まで削平を受けていた。地点によっては、最大８～10㎝ほど、第Ⅳ層が堆積する状況を確認したが、ごく部分的なものに留まる。また、ＩＴライン以東については、調査区外の沢地形に至る斜面となっており地表面から第Ⅵ層上面まで最大約80㎝に至るが、耕作の影響が第Ⅳ層中まで見られた。そのため、第Ⅱ層、第Ⅲ層は、土地境界付近のため耕作が深く至っていない、ＪＣ－215グリッドにおいてのみの確認である。



第４図　基本層序

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

１．竪穴式住居跡

第１号竪穴式住居跡（第５図）

［位置・確認層］ＩＰ・ＩＱ－213、214グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は隅丸長方形で、長軸330cm、短軸252cm、深さ26cmである。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［床］若干の起伏を有するが、ほぼ平坦である。

［柱穴］２基のピットを確認した。配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ピット１が25cm、ピット２が14cmである。

［炉］なし。

［その他の附属施設］なし。

［堆積土］暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、第１層より第Ⅱ群土器（第10図５～21）、ピット２第１層より第Ⅱ群土器（第10図４）が出土している。石器は、第１層より石匙が１点（第14図２）、不定形石器が５点（第14図１）、石核が１点、敲磨器類が１点（第15図７）出土している。

［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第２号竪穴式住居跡（第５図）

［位置・確認層］ＩＳ－212、213グリッドに位置する。第Ⅴ層、第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は楕円形で、長軸302cm、短軸226cm、深さ25cmである。

［壁］全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側は、壁を確認していない。

［床］若干の起伏が有するがほぼ平坦である。

［柱穴］15基のピットを確認した。ピット１、２、５、６は、配置より主柱穴の可能性が考えられる。ピット10～13等壁際に位置する６基のピットは、壁柱穴と思われる。床面からの深さは、ピット１が３cm、ピット２が23cm、ピット３が25cm、ピット４が22cm、ピット５が９cm、ピット６が14cm、ピット７が８cm、ピット８が４cm、ピット９が３cm、ピット10が10cm、ピット11が10cm、ピット12が５cm、ピット13が６cm、ピット14が７cm、ピット15が３cmである。

［炉］明確に炉と思われる施設は確認していないが、床面中央部に位置するピット１は、規模、配置より炉の可能性が考えられる。

［その他の附属施設］なし。

［堆積土］暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より第Ⅱ群土器（第11図23～25、30）、第Ⅲ群土器（第11図26～29）、ピット

３第１層より第Ⅱ群土器（第11図22）が出土している。石器は、覆土より敲磨器類が１点（第15図８）出土している。

［時期］出土土器より縄文時代中期末葉以降の可能性が考えられる。

第３号竪穴式住居跡（第６図）

［位置・確認層］ＩＮ・ＩＯ－206グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、長軸295㎝×短軸259㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［床］起伏が見られるが全体として平坦である。

［柱穴］４基のピットを確認した。ピット１は配置より主柱穴の可能性が考えられる。ピット２～４は、壁柱穴と思われる。床面よりの深さは、ピット１が８㎝、ピット２が22㎝、ピット３が５㎝、ピット４が６㎝である。

［炉］床面中央部から北西よりで土器片囲炉を確認した。

［その他の附属施設］なし。

［堆積土］３層に分層した。第１、３層は黒色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第２層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。なお、第１層と第２層の間には、焼土ブロックが住居跡東側で広範囲に広がっており廃棄されたものと考えられる。

［出土遺物］土器は、第２層より第Ⅱ群土器（第11図36）、覆土より第Ⅱ群土器（第11図38、42）、第Ⅲ群土器（第11図37、39～41、43～46）、炉覆土より第Ⅲ群土器（第11図31～35）が出土している。

［時期］土器片囲炉に用いられた土器から、縄文時代中期末葉の竪穴式住居跡である。

第４号竪穴式住居跡（第６図）

［位置・確認層］ＩＴ・ＪＡ－209グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不明で、最長257㎝、深さ18㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［床］若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ傾斜が見られる。

［柱穴］３基のピットを確認した。ピット２、３は、配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ピット１が８㎝、ピット２が14㎝、ピット３が10㎝である。

［炉］明確に炉と思われる施設は確認していないが、ピット１は、規模、配置より炉の可能性が考えられる。

［その他の附属施設］なし。

［堆積土］２層に分層した。第１層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。第２層は、暗褐色土と褐色土の混合土が堆積する。壁面の崩落土の可能性が考えられる。

［出土遺物］土器は、第１層より第Ⅱ群土器（第11図47）が出土している。

［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第５号竪穴式住居跡（第７図）

［位置・確認層］ＩＮ－210、211グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な円形と思われ、残存最大幅は302㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［床］若干の起伏が見られるが、ほぼ平坦である。

［柱穴］２基のピットを確認した。ピット１は配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ピット１が21㎝、ピット２が９㎝である。

［炉］なし。

［その他の付属施設］なし。

［堆積土］暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より第Ⅱ群土器（第11図48～63）が出土している。石器は、覆土より不定形石器が１点（第14図３）出土している。

［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第６号竪穴式住居跡（第７図）

［位置・確認層］ＩＳ・ＩＴ－209グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は楕円形と思われ、残存部最大幅は352㎝、深さ12㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［床］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

［柱穴］８基のピットを確認した。ピット３、４は配置より主柱穴の可能性が考えられる。ピット５～８は壁柱穴と思われる。床面からの深さは、ピット１が７㎝、ピット２が９㎝、ピット３が19㎝、ピット４が13㎝、ピット５が16㎝、ピット６が７㎝、ピット７が11㎝、ピット８が10㎝である。

［炉］明確に炉と思われる施設は確認していないが、ピット１、２は規模、配置より炉の可能性が考えられる。

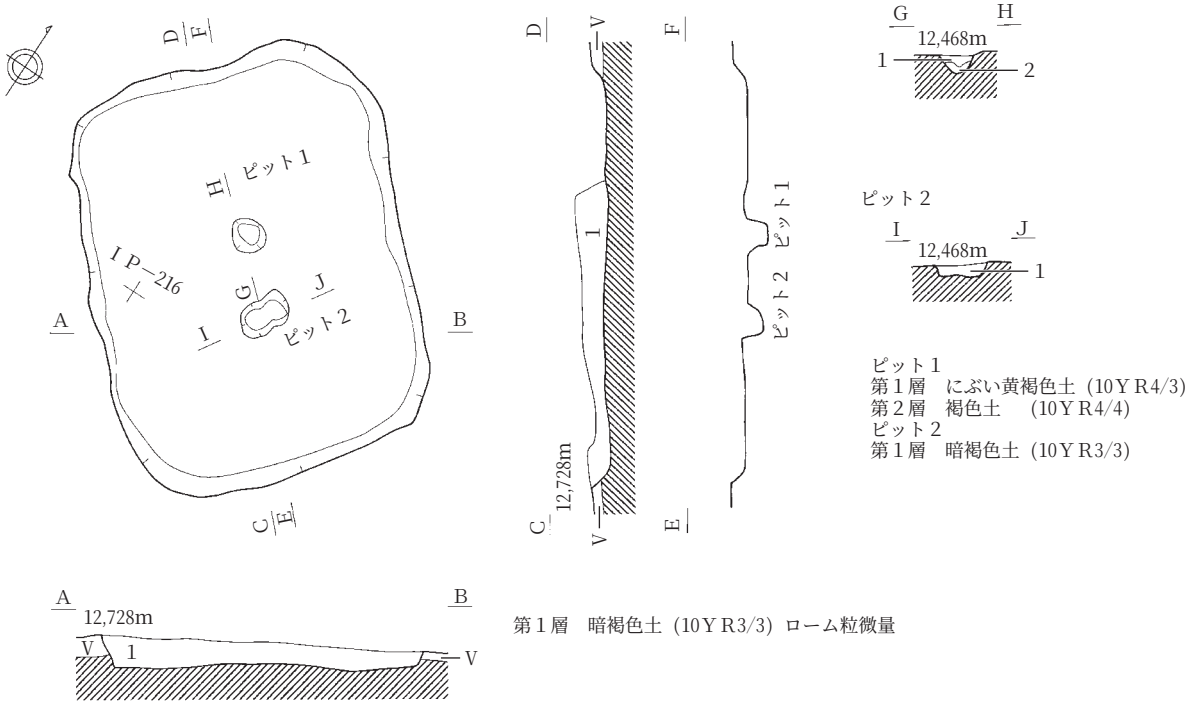
［その他の付属施設］なし。

［堆積土］暗褐色土が堆積し、ロームを少量、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より第Ⅱ群土器（第11図64～67）が出土している。石器は、第１層より不定形石器が２点(第14図４)出土している。

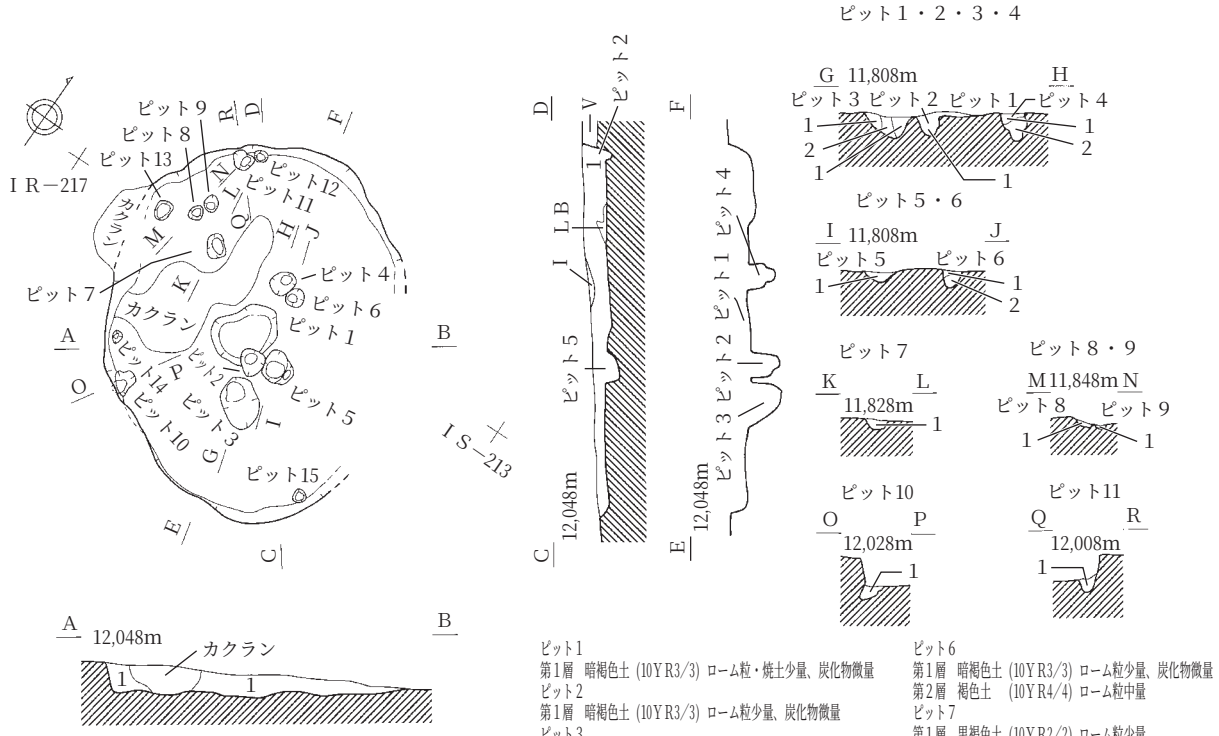
［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第１号竪穴式住居跡



ピット１
第１層　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）
第２層　褐色土　（10ＹＲ4/4）
ピット２
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）

第２号竪穴式住居跡

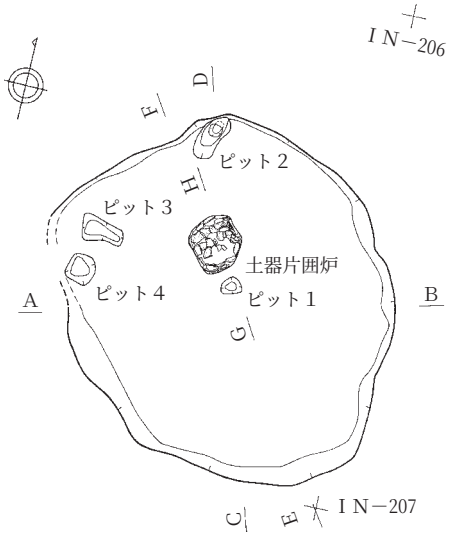


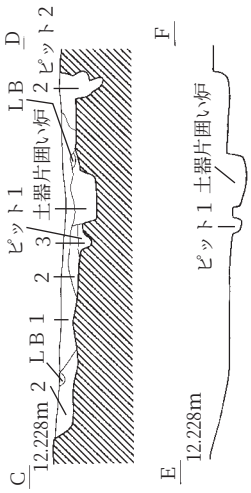
ピット1
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・焼土少量、炭化物微量
ピット2
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット3
第1層　褐色土　（10YR4/4）ローム粒中量
第2層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット4
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化物微量
第2層　褐色土　（10YR4/4）ローム粒中量、炭化物微量
ピット5
第1層　褐色土　（10YR4/4）ローム粒中量、LB微量
ピット6
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化物微量
第2層　褐色土　（10YR4/4）ローム粒中量
ピット7
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
ピット8
第1層　灰黄褐色土（10YR4/2）ローム粒多量
ピット9
第1層　灰黄褐色土（10YR4/2）ローム粒多量
ピット10
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット11
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量

0　2m

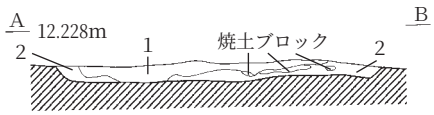
第５図　竪穴式住居跡（１）

第３号竪穴式住居跡

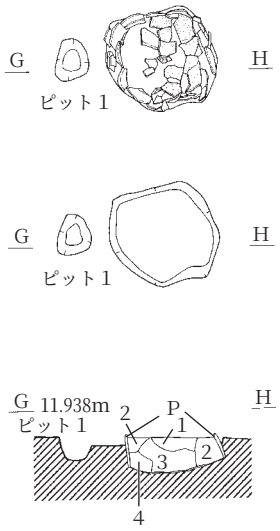




第１層　黒色土　(10ＹＲ2/1) ローム粒微量
第２層　暗褐色土 (10ＹＲ3/3) ローム粒少量
第３層　黒色土　(10ＹＲ2/1) ローム粒・炭化物微量

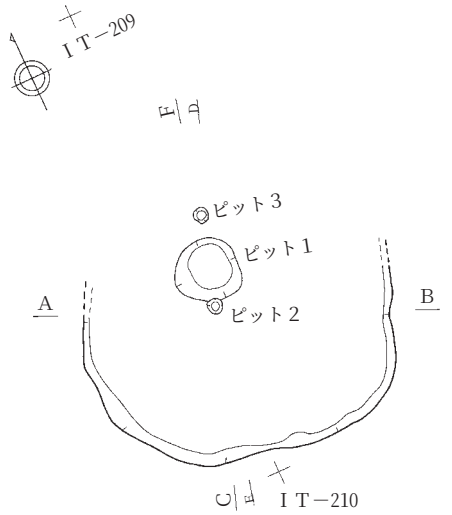


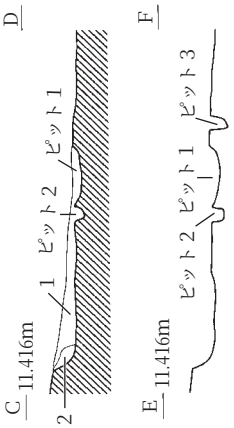
住居跡内土器片囲炉

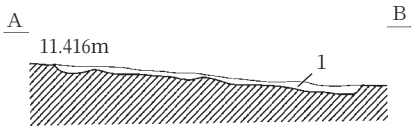


住居跡内土器片囲炉
第１層　黒褐色土 (10ＹＲ2/3) ローム粒少量、炭化物・焼土微量
第２層　黒色土　(10ＹＲ2/1) 炭化物少量、ローム粒微量
第３層　赤褐色土 (５ＹＲ4/6) と暗赤褐色土との混合土。焼土の層。炭化物少量
第４層　黒色土　(10ＹＲ2/1) ローム粒少量、炭化物微量

第４号竪穴式住居跡



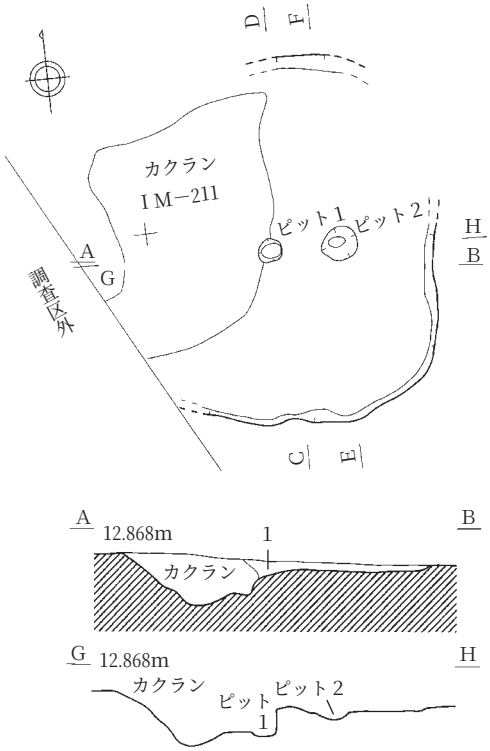


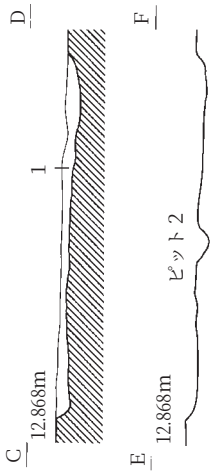


第１層　暗褐色土 (10ＹＲ3/3) ローム粒少量
第２層　暗褐色土 (10ＹＲ3/3) と褐色土 (10ＹＲ4/4) の混合土

第６図　竪穴式住居跡（２）

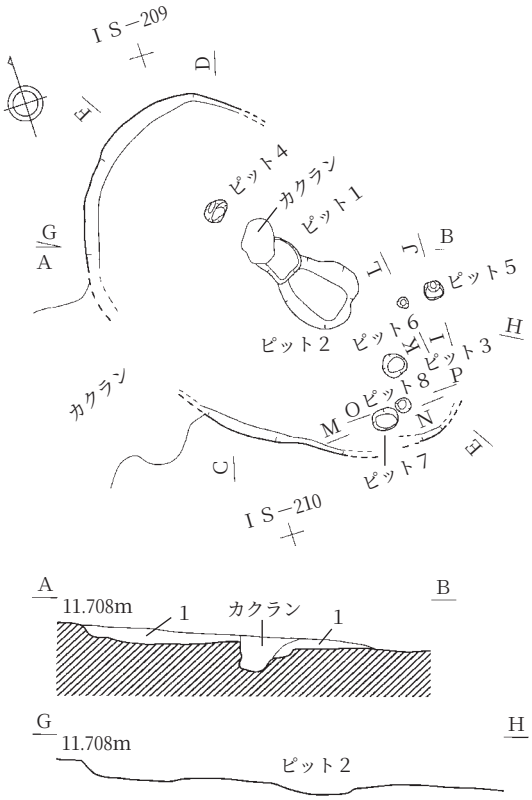
第５号竪穴式住居跡



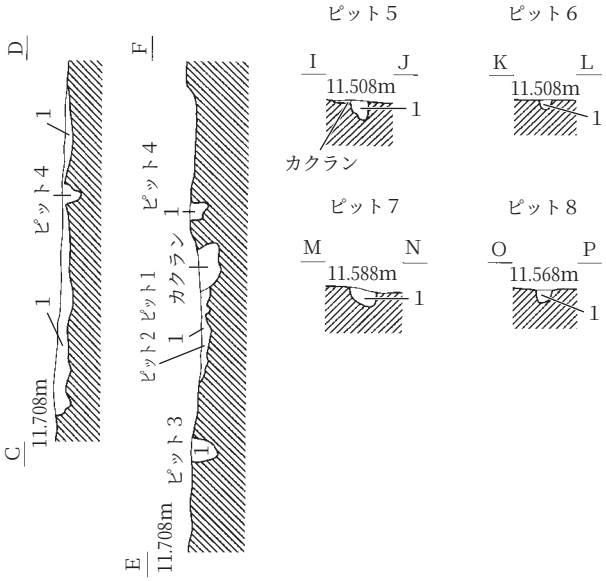


第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒・炭化物微量

第６号竪穴式住居跡



第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量



ピット1、2
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）黒褐色土（10ＹＲ2/3）が上部に中量、ローム粒・炭化物微量
ピット3
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒、炭化物微量
ピット4
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット5
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット6
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット7
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量
ピット8
第１層　暗褐色土（10ＹＲ3/3）ローム粒少量、炭化物微量

0　2m

第７図　竪穴式住居跡（３）

2．土　坑

第１号土坑（第８図）

［位置・確認層］ＪＡ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は楕円形で、開口部は90㎝×80㎝、底面は72㎝×64㎝、深さは25㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［底面］丸みを帯びる。

［堆積土］２層に分層した。第１層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第２層は、黄褐色土と褐色土の混合土である。壁面直上からの崩落土の可能性が考えられる。

［出土遺物］第１層より破損した石皿が１点（第15図９）出土している。

［時期］不明である。

第２号土坑（第８図）

［位置・確認層］ＩＴ－213、214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径107㎝、底面は長径98㎝、深さは11㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［底面］若干丸みを帯びる。また、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

［堆積土］２層に分層した。第１層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第２層は、黄色褐色土と褐色土の混合土である。掘りすぎた可能性もある。

［出土遺物］第１層より第Ⅱ群土器（第12図68）が出土している。

［時期］出土遺物より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第３号土坑（第８図）

［位置・確認層］ＪＡ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は125㎝×67㎝、底面は116㎝×60㎝、深さは16㎝である。

［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。

［底面］起伏が見られる。また、全体として西側から東側への傾斜が見られる。

［堆積土］２層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］第１層より第Ⅱ群土器(第12図69～71)が出土している。

［時期］出土遺物より縄文時代前期前半以降の可能性が考えられる。

第４号土坑（第８図）

［位置・確認層］ＩＳ－212グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は102㎝×88㎝、底面は86㎝×78㎝、深さは22㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
［堆積土］２層に分層した。第１層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第２層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第５号土坑（第８図）
［位置・確認層］ＩＳ・ＩＴ－205、206グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は円形で、開口部は長径125㎝、底面は長径115㎝、深さは16㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
［堆積土］２層に分層した。第１層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第１層中のロームブロックは、壁面直上からの崩落土の可能性が考えられる。第２層は、黄褐色土が堆積し、ロームを多量含む。
［出土遺物］覆土より第Ⅱ群土器（第12図72）が出土している。
［時期］出土土器より縄文時代前期末葉以降の可能性が考えられる。

第６号土坑（第８図）
［位置・確認層］ＪＡ－213グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径86㎝、底面は長径58㎝、深さは25㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。
［堆積土］３層に分層した。第１、２層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第３層は、黄褐色土が堆積し、ロームを少量含む。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。
［出土遺物］覆土より第Ⅱ群土器（第12図73～77）、及び不定形石器が１点（第14図６）出土している。
［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第７号土坑（第８図）
［位置・確認層］ＪＢ－215、216グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径96㎝、底面は長径75㎝、深さは19㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。
［堆積土］３層に分層した。第１、２層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第３層は、黄褐色土が堆積する。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。
［出土遺物］第２層より第Ⅱ群土器（第12図78）が出土している。
［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第８号土坑（第８図）
［位置・確認層］ＪＡ－213グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は円形で、開口部は91㎝、底面は長径83㎝、深さは10㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ傾斜が見られる。底面南壁際及び西壁よりに底面ピットを有する。
［堆積土］暗褐色土が堆積し、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
［出土遺物］覆土より第Ⅱ群土器（第12図79～84）が出土している。
［時期］出土土器より縄文時代中期末葉以降の可能性が考えられる。

第９号土坑（第８図）
［位置・確認層］ＪＡ－211グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は楕円形で、開口部は66㎝×51㎝、底面は44㎝×23㎝、深さは15㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］２層に分層した。第１層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第２層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
［出土遺物］覆土より第Ⅱ群土器（第12図85、86）が出土している。
［時期］出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

第10号土坑（第９図）
［位置・確認層］ＩＬ－203、204グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は円形で、開口部は長径78㎝、底面は長径64㎝、深さは10㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］若干丸みを帯びる。
［堆積土］暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第11号土坑（第９図）
［位置・確認層］ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径46㎝、底面は長径37㎝、深さは14㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。
［堆積土］４層に分層した。第１、４層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第２、３層は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。
［出土遺物］覆土より第Ⅲ群土器（第13図87～94）、及び破損した石皿が１点（第15図10）出土している。
［時期］出土土器より縄文時代中期末葉と思われる。

３．小ピット

第１号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は32㎝×28㎝、底面は24㎝×19㎝、深さは19㎝である。
［壁］やや外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］３層に分層した。第１層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第２、３層は、黒色～褐色土が堆積する。崩落土の可能性が考えられる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第２号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＲ・ＩＳ－215グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は円形で、開口部は長径47㎝、底面は長径28㎝、深さは23㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第３号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は楕円形で、開口部は33㎝×27㎝、底面は長径18㎝、深さは21㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第４号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径28㎝、底面は長径14㎝、深さは27㎝である。
［壁］やや外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］２層に分層した。第１層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第２層は、黄褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
［出土遺物］覆土より石箆が１点（第14図５）、不定形石器が１点出土している。
［時期］不明である。

第５号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＴ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は円形で、開口部は長径22㎝、底面は長径12㎝、深さは43㎝である。
［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。
［堆積土］暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第６号小ピット（第９図）
［位置・確認層］ＩＴ－215グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径34㎝、底面は長径14㎝、深さは26㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］丸みを帯びる。
［堆積土］２層に分層した。第１層は、褐色土が堆積する。崩落土の可能性が考えられる。第２層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。

[時期] 不明である。

第７号小ピット（第９図）
[位置・確認層] ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は長径28㎝、底面は長径22㎝、深さは22㎝である。
[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 丸みを帯びる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

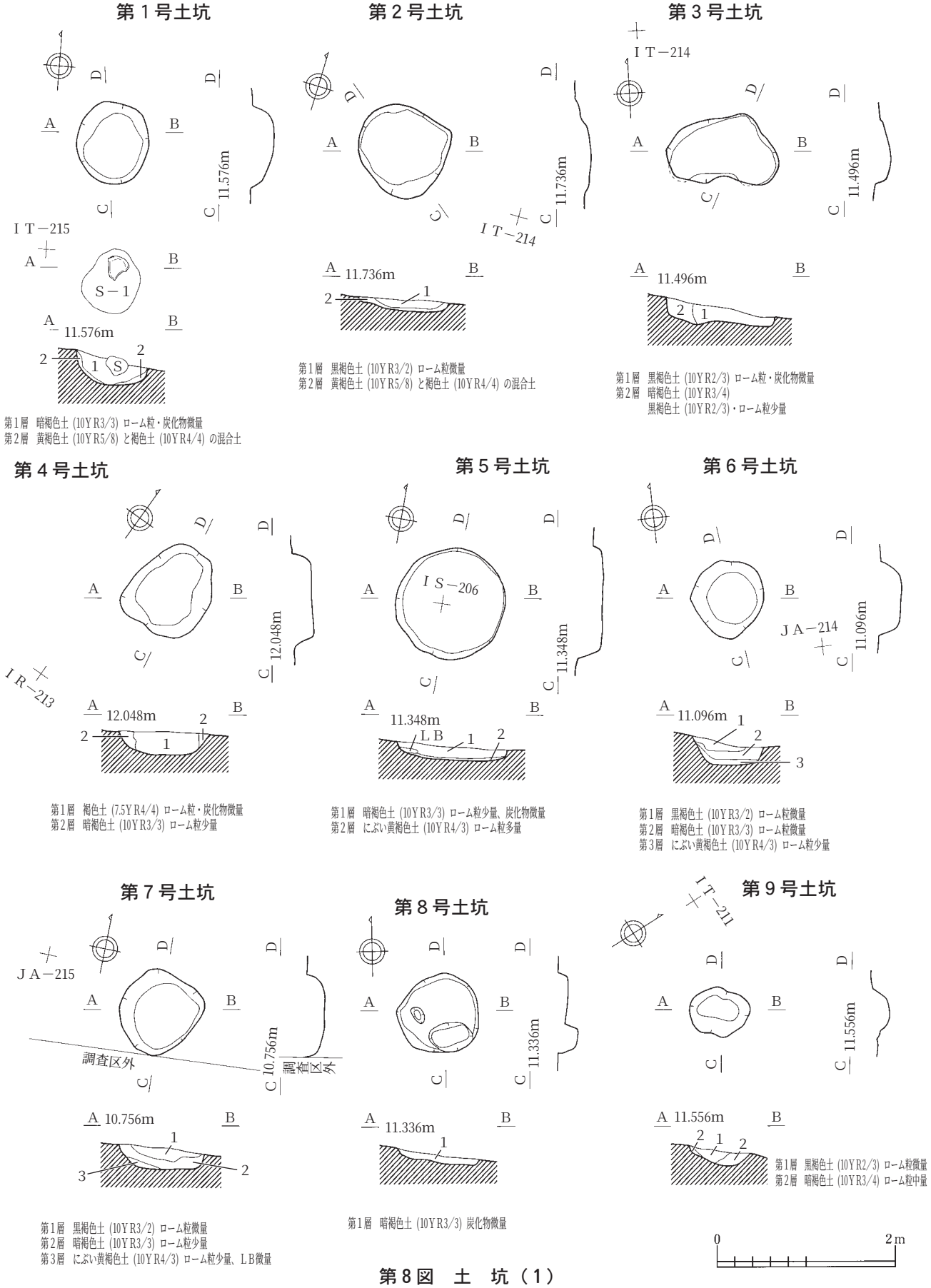
第８号小ピット（第９図）
[位置・確認層] ＩＳ－213、214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21㎝×17㎝、底面は長径13㎝、深さは９㎝である。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 丸みを帯びる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 覆土より第Ⅱ群土器（第13図95）が出土している。
[時期] 出土土器より縄文時代前期前半以降と思われる。

第９号小ピット（第９図）
[位置・確認層] ＩＳ－214グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径25㎝、底面は長径18㎝、深さは10㎝である。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。北側から南側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 覆土より磨製石斧が１点（第15図11）出土している。
[時期] 不明である。

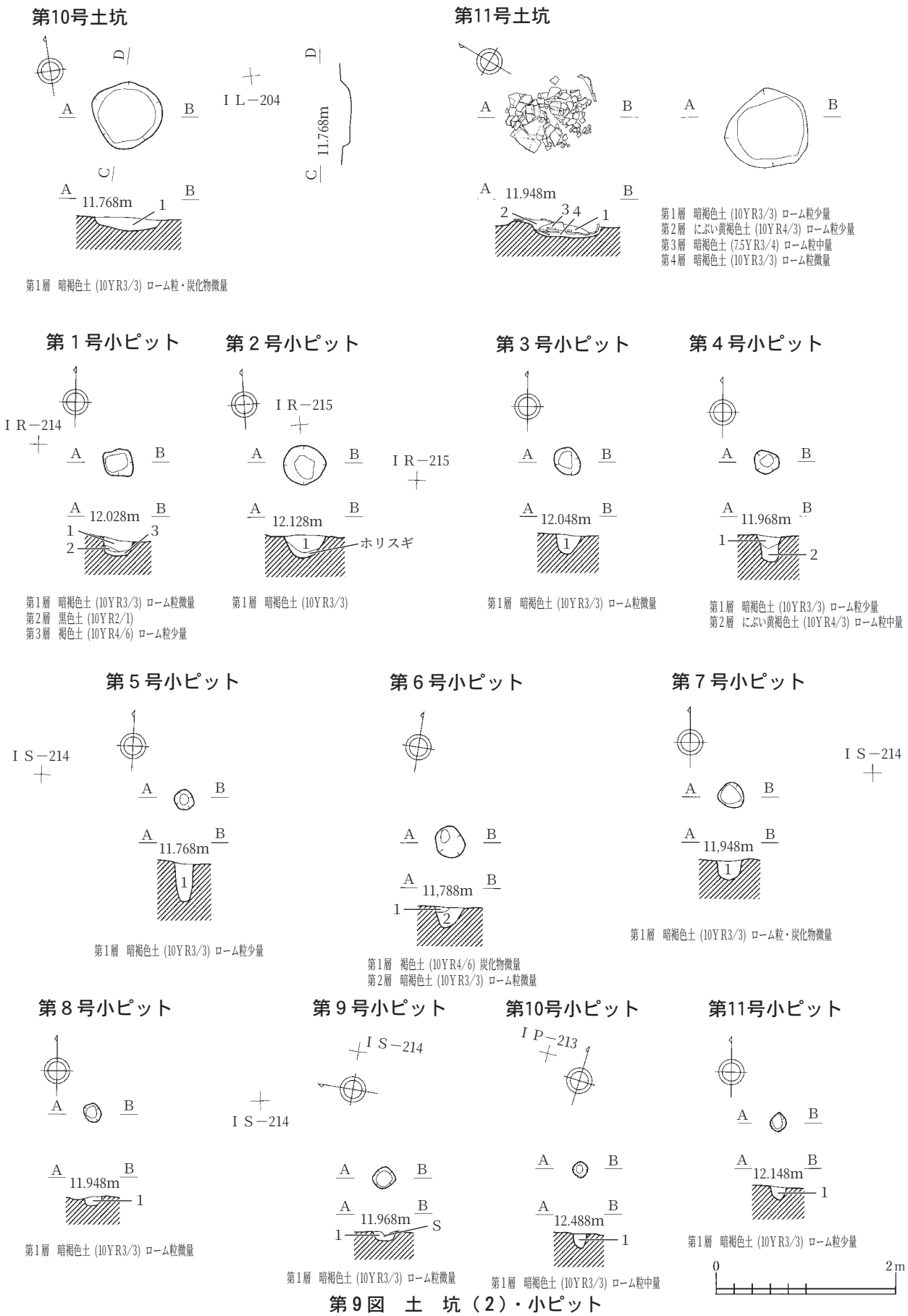
第10号小ピット（第９図）
[位置・確認層] ＩＱ－213グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18㎝、底面は長径９㎝、深さは16㎝である。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

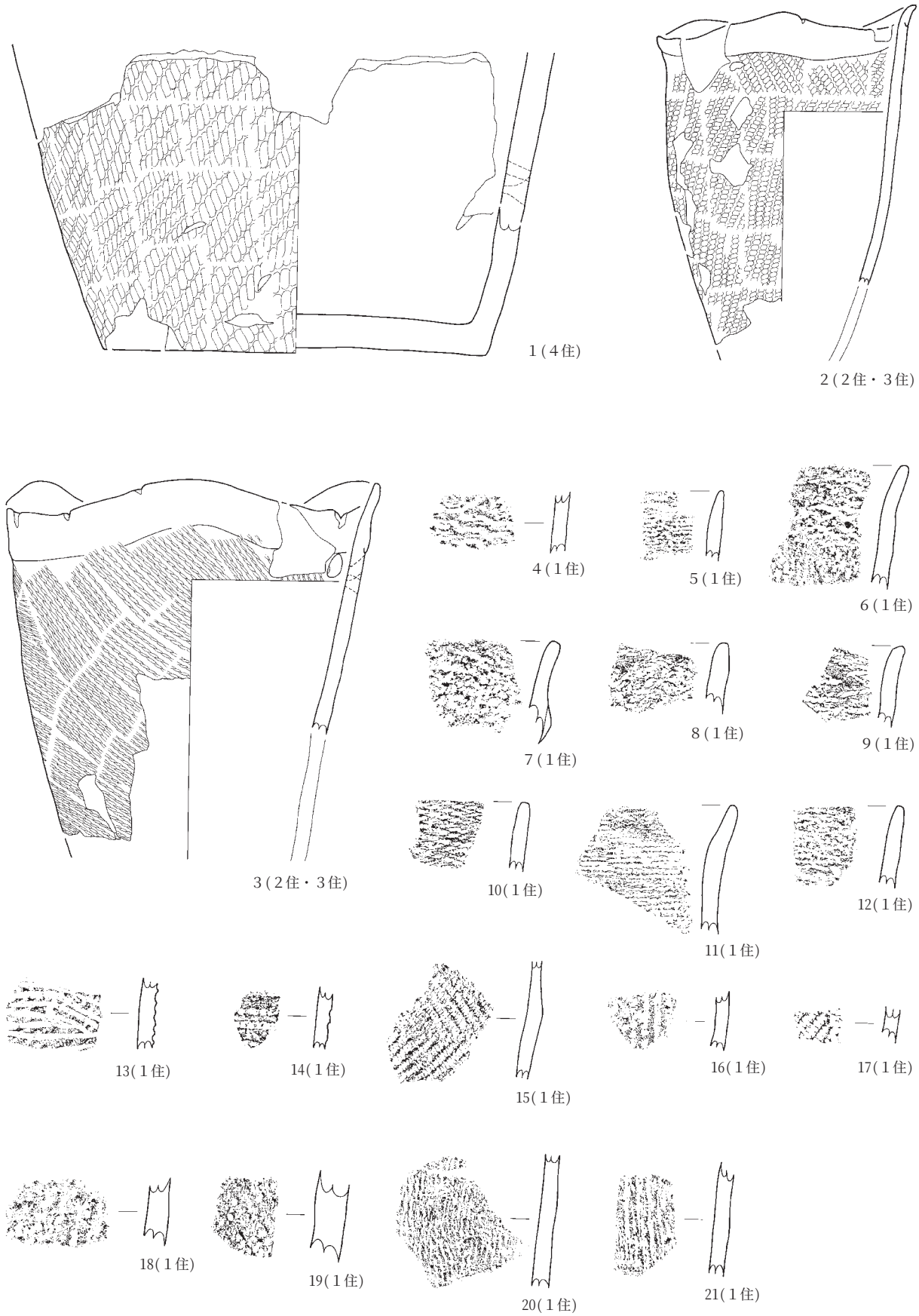
第11号小ピット（第９図）
[位置・確認層] ＩＲ－212グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は長径21㎝、底面は長径17㎝、深さは13㎝である。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。


第１号土坑
ＩＴ－215
S－1
11.576m
第１層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物微量
第２層　黄褐色土 (10YR5/8) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
第２号土坑
ＩＴ－214
11.736m
第１層　黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量
第２層　黄褐色土 (10YR5/8) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
第３号土坑
ＩＴ－214
11.496m
第１層　黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物微量
第２層　暗褐色土 (10YR3/4)
黒褐色土 (10YR2/3)・ローム粒少量
第４号土坑
ＩＲ－213
12.048m
第１層　褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量
第２層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第５号土坑
ＩＳ－206
11.348m
第１層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量
第２層　にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒多量
第６号土坑
ＪＡ－214
11.096m
第１層　黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量
第２層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第３層　にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量
第７号土坑
ＪＡ－215
調査区外
10.756m
第１層　黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量
第２層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第３層　にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、ＬＢ微量
第８号土坑
11.336m
第１層　暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物微量
第９号土坑
ＩＴ－211
11.556m
第１層　黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
第２層　暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量
0
2m

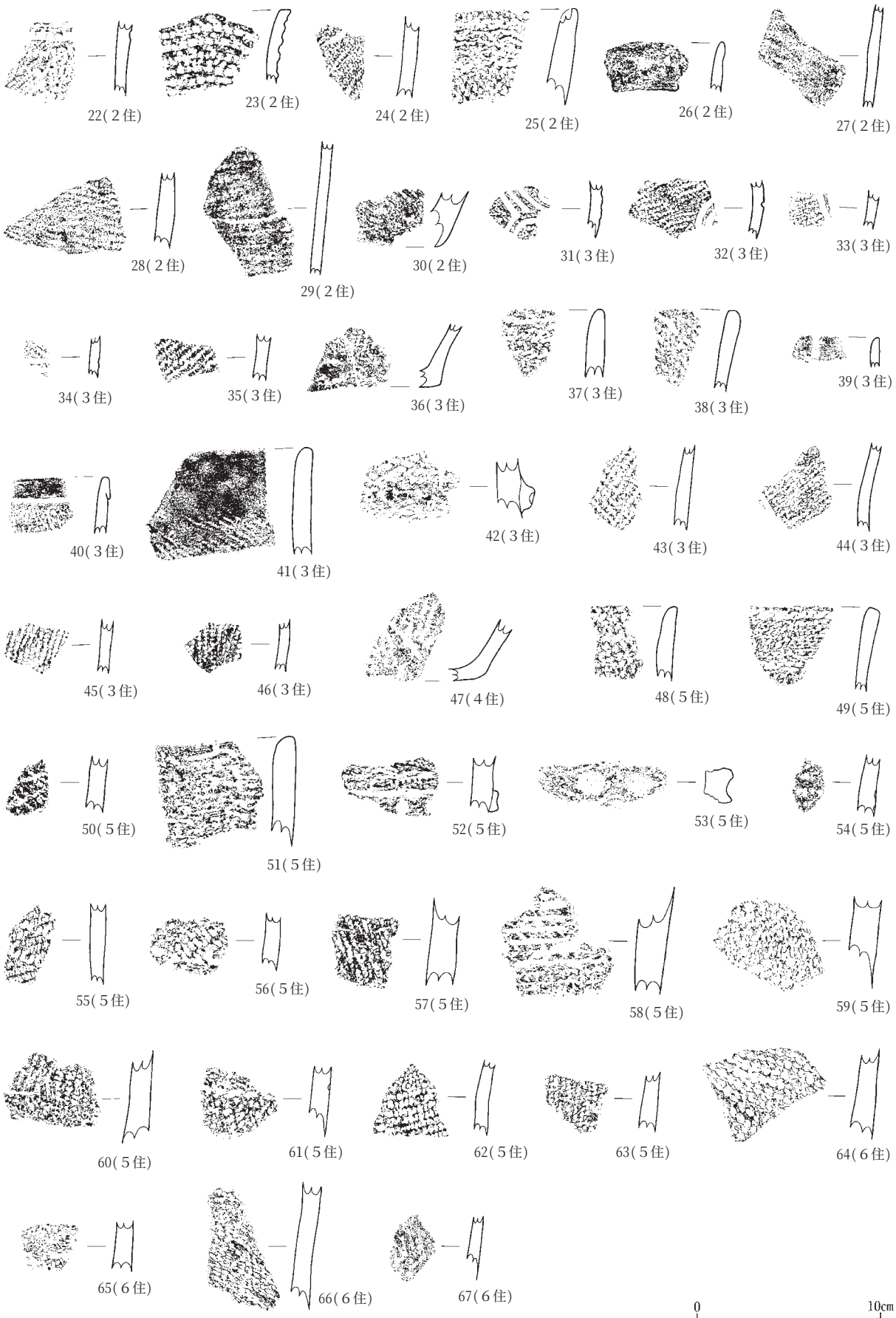
第８図　土　坑（１）


第10号土坑
D
A
B
C
ＩＬ－204
11.768m
1
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物微量
第11号土坑
11.948m
2
3 4
1
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第2層　にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量
第3層　暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量
第4層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第１号小ピット
ＩＲ－214
12.028m
3
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第2層　黒色土 (10YR2/1)
第3層　褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量
第２号小ピット
ＩＲ－215
12.128m
ホリスギ
第1層　暗褐色土 (10YR3/3)
第３号小ピット
12.048m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第４号小ピット
11.968m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第2層　にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒中量
第５号小ピット
ＩＳ－214
11.768m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第６号小ピット
11,788m
第1層　褐色土 (10YR4/6) 炭化物微量
第2層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第７号小ピット
ＩＳ－214
11,948m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物微量
第８号小ピット
11.948m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第９号小ピット
ＩＳ－214
ＩＳ－214
11.968m
S
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第10号小ピット
ＩＰ－213
12.488m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量
第11号小ピット
12.148m
第1層　暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
0
2m

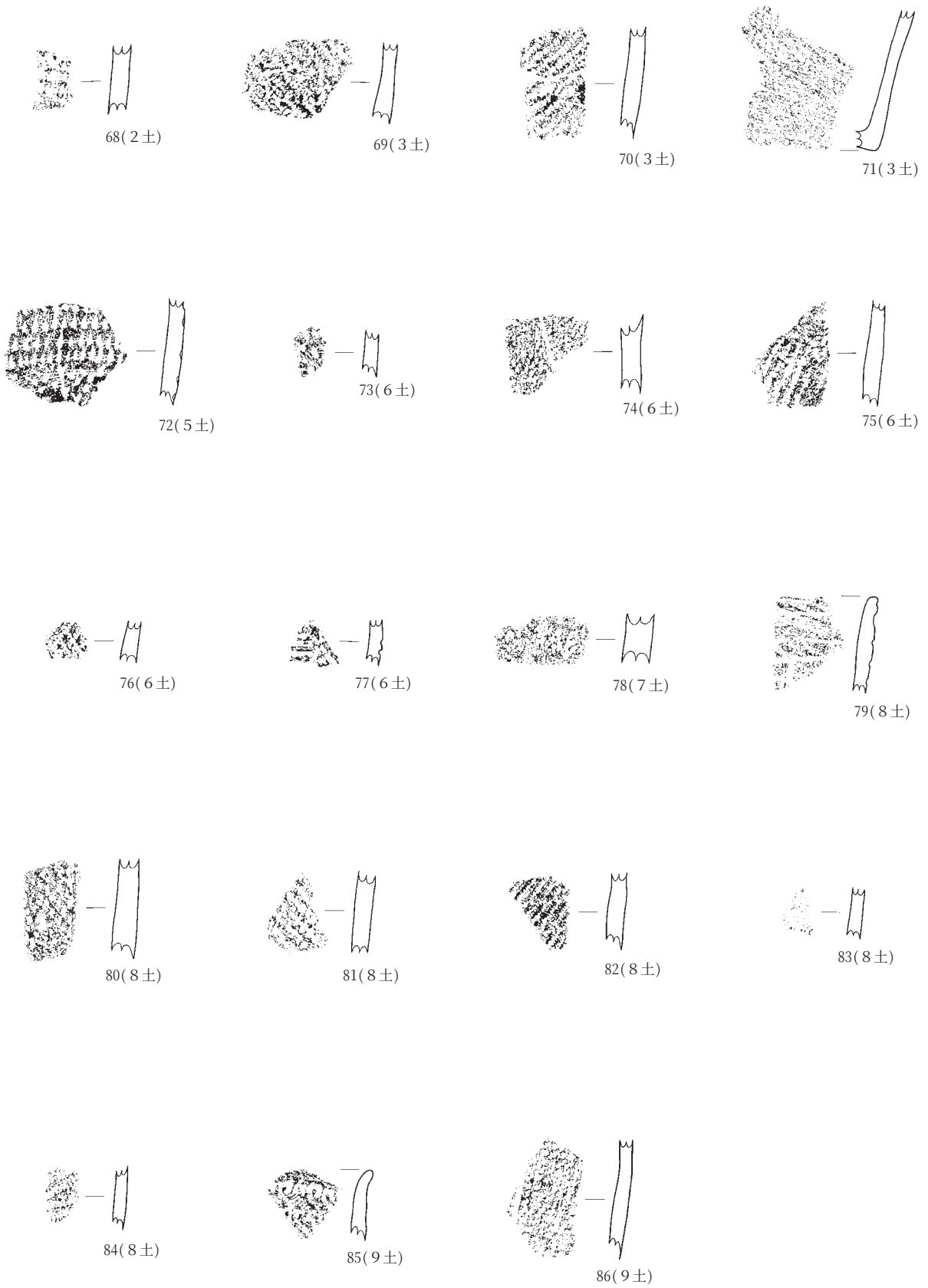
第９図　土　坑（２）・小ピット



第10図　遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（１）

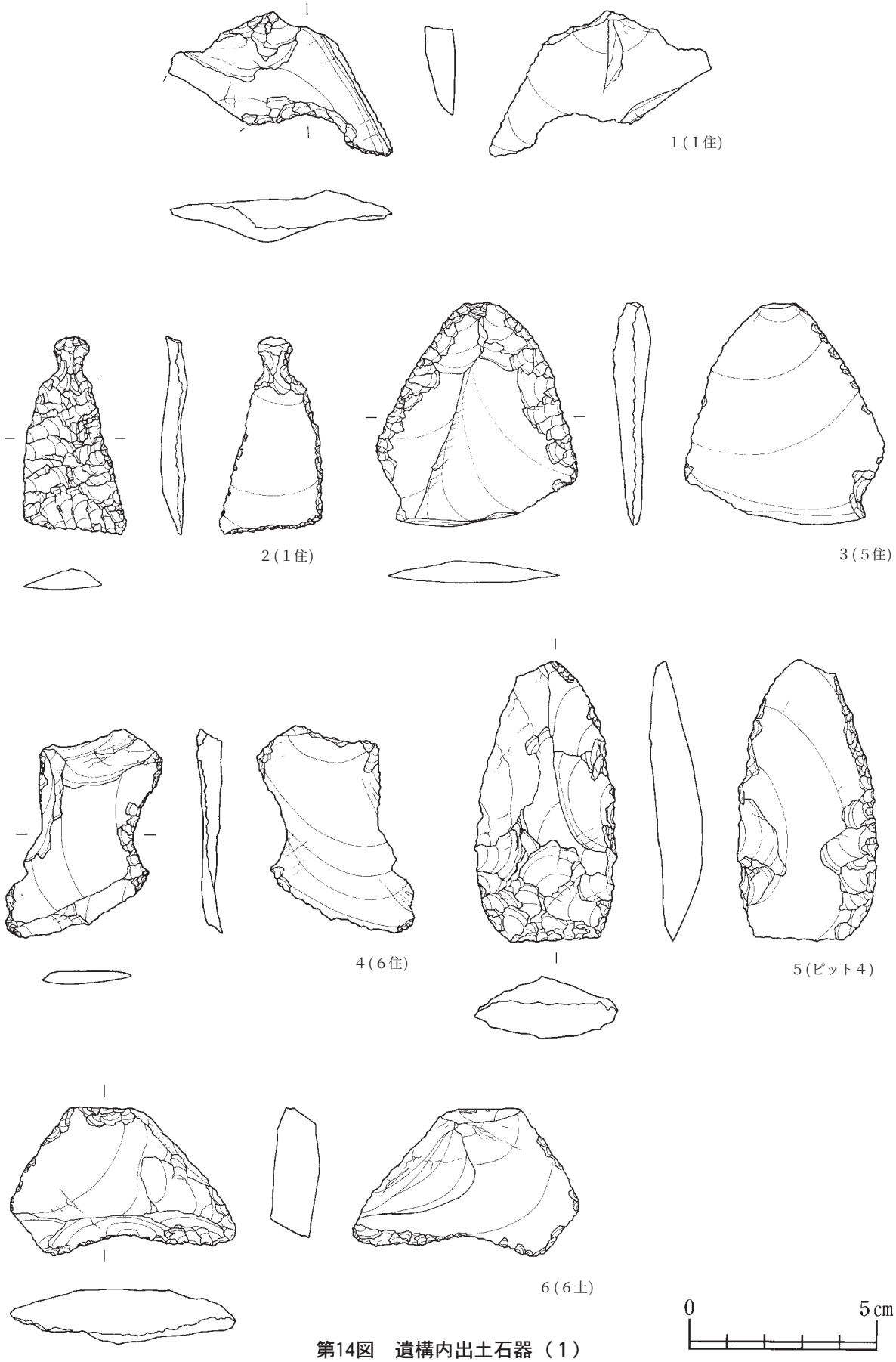


第11図　遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（２）

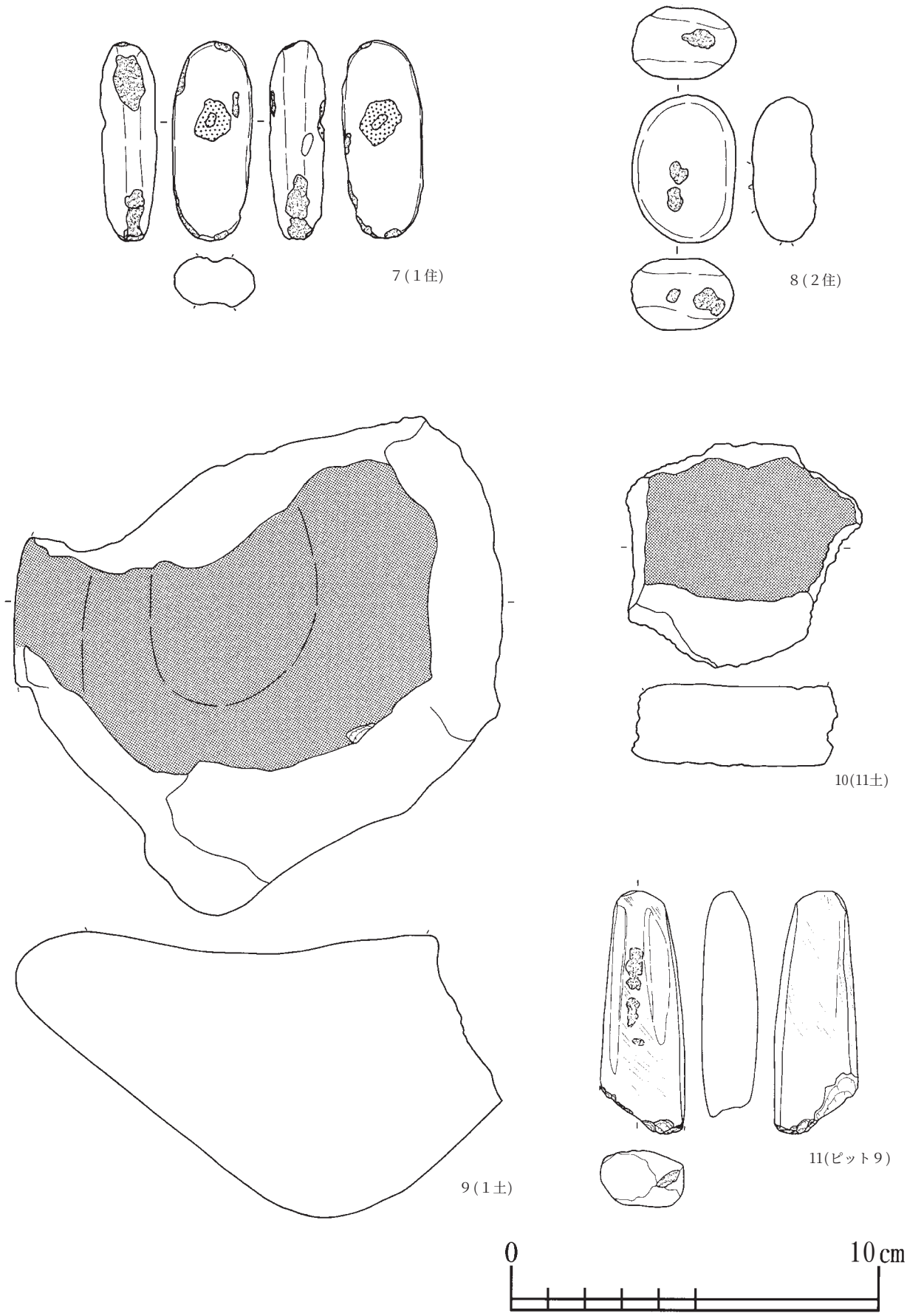


第12図　遺構内出土土器（土坑・小ピット）（１）

第13図　遺構内出土土器（土坑・小ピット）（２）



第14図　遺構内出土石器（1）



第15図　遺構内出土石器（２）

第２節　出土遺物

１．土器

本遺跡で遺構内外より出土した土器は下記のように分類した。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器
第Ⅱ群土器　縄文時代前期の土器
　　１　縄文時代前期前半の土器
　　２　縄文時代前期後半の土器
第Ⅲ群土器　縄文時代中期の土器

土器は、遺構内外出土を合わせ、段ボール箱換算で13箱が出土している。うち、第Ⅱ群２類土器が最も多数であり、第Ⅱ群１類土器及び第Ⅲ群土器がそれに次ぐ出土である。

第Ⅰ群土器(第16図２)

１点のみの出土である。胴部片と思われる。貝殻腹縁刺突文をほぼ横位平行に連続し施している。早期中葉の土器と思われる。

第Ⅱ群土器

１　縄文時代前期前半の土器(第10図13、14、16、第11図22、23、55、第12図68～70、72、77、85、第13図95、第16図３～10、12～19、第17図20～43、第18図44～61)

おおむね前期前半の早稲田６類土器と思われるものである。

第16図３～10、12～16は、口縁部片である。半裁竹管状工具の押引による沈線を数条平行に施している。12、13は、口縁部が波状を呈するが、口縁に沿った沈線文下に充填するようにほぼ横位の沈線文を施している。地文には、横位にＬＲ縄文が施されている。第16図17は、口縁部最上に弧状に、またその下に斜位に沈線文が施されている。第16図18は口縁部に竹管状工具の端部を刺突している。

第16図19は、口縁部にＬＲ縄文によるループ文が４条横位に施されている。

第17図20～41は、胴部片である。第17図20～29は、押引沈線文と単節縄文によるループ文や縄端回転文が施されている。第17図33～40は、単節縄文によるループ文や縄端回転文が横位に施されている。第17図31、32は、半裁竹管状工具による刺突文が横位、横位及び斜位に施されている。

第17図42、43、第18図44～61は底部片である。いずれも尖底と思われる。第18図44、46、53、54、56、57、59は押引沈線文を横位に、第17図43、第18図47、55、60、61は縦位に、第18図45は斜位及び横位にそれぞれ施している。第18図48～52、54、57、58は、地文に単節縄文が第18図57のみ縦位に、他は横位に施される。

２　縄文時代前期後半の土器(第10図４～12、15、17～21、第11図24、25、30、36、38、42、47～54、56～67、第12図71、73～76、78、80～84、86、第16図１、第18図62～67、第19図68～86、第20図87～94)

おおむね前期後半の円筒下層式土器と思われるものである。

第18図62～67は、口縁部片である。第18図62、64～67は、口縁部に結節回転文を横位に施して

いる。地文には、ＲＬ縄文やＲＬＲ縄文を横位、斜位に施している。第18図63は、地文にＲＬ縄文を横位に施し、また、ＲＬ原体を横位、縦位に押圧し口縁部としている。円筒下層ａ式土器と思われる。

第19図68～84は、口縁部片である。第19図68は、口縁部に結節回転文を横位に施している。地文には単軸絡条体第１類の回転文が縦位に施される。第19図69～71は、口縁部に結節回転文を施し、区画文として隆帯文を横位に施している。第19図69、70には、太い隆帯が施されている。隆帯外面には、横位のＲＬＲ原体押圧、指頭押圧が施される。地文には、ＲＬＲ縄文が横位ないし斜位に施される。第19図72～84は、口縁部に単軸絡条体の回転文が横位に施される。単軸絡条体は、第１類、第５類、第６類、第６Ａ類が見られる。地文には、縦走、斜走するＲＬ縄文やＲＬＲ縄文が施されるもの、単軸絡条体回転文が縦位に施されるものがある。第19図72～75、77、79～82には、区画として隆帯が施される。第18図82の隆帯上下には、横位に沈線文が施される。おおむね前期中葉の円筒下層ｂ式土器と思われる。

第19図85、86は、口縁部片である。口縁部にＬ、ＬＲ原体を横位に押圧している。おおむね前期末葉の円筒下層ｄ$_1$式土器と思われる。

第20図87、88は、口縁部片である。波状を呈する。口縁部に、縄、絡条体の押圧の他、橋状把手、ボタン状貼付が施される。おおむね前期末葉の円筒下層ｄ$_2$式土器ないし中期初頭の土器と思われる。

第20図89～94は、円筒下層式土器と思われるものである。第20図89は波状を呈する口縁部片である。地文は、斜走するＲＬＲ縄文が施される。第20図90は、横位の隆帯文下に横位の沈線文と結節回転文が施されている。第20図91は、胴部に斜位の単軸絡条体回転文が施されている。第20図92は、皿ないし浅鉢を呈すると思われる器形を有する。第20図93、94は、底面にＲＬＲ縄文、絡条体回転文が施されている。

第Ⅲ群土器(第10図１～３、第11図26～29、31～35、37、39～41、43～46、第13図87～94、第16図11、第20図95～102、第21図103～121)

第20図95は、口縁部片である。口唇部に横位隆帯が施され、Ｌ原体を縦位に押圧した刻目が見られる。口縁部には、Ｌ、Ｒ原体を３条組み合わせた横位及び鋸歯状の押圧が施される。円筒上層ａ式土器と思われる。

第20図96～102、第21図103～104は、波状を呈する口縁部片である。いずれも口唇部及び隆帯外面に、ＬないしＲ原体押圧による縦位の刻目が施される。口縁部には、隆帯の他、Ｌ、Ｒ原体による馬蹄状、弧状の連続した押圧や、数条を一組とした横位や隆帯に沿った押圧が施される。胴部施文が確認できるものは、横位にＲＬ縄文や、単節縄文による結束第一種、結束第二種を施している。

第21図105、107、108は、口縁部片である。第21図105は、隆帯を上部は波状にその下部は横位に施文し、外面にはＬ原体押圧による刻目が見られる。口唇断面は、肥大せず丸みを帯びている。第21図107、108は、口縁部に縄端による連続した刺突文が見られる。おおむね円筒上層ｂ式土器と思われる。

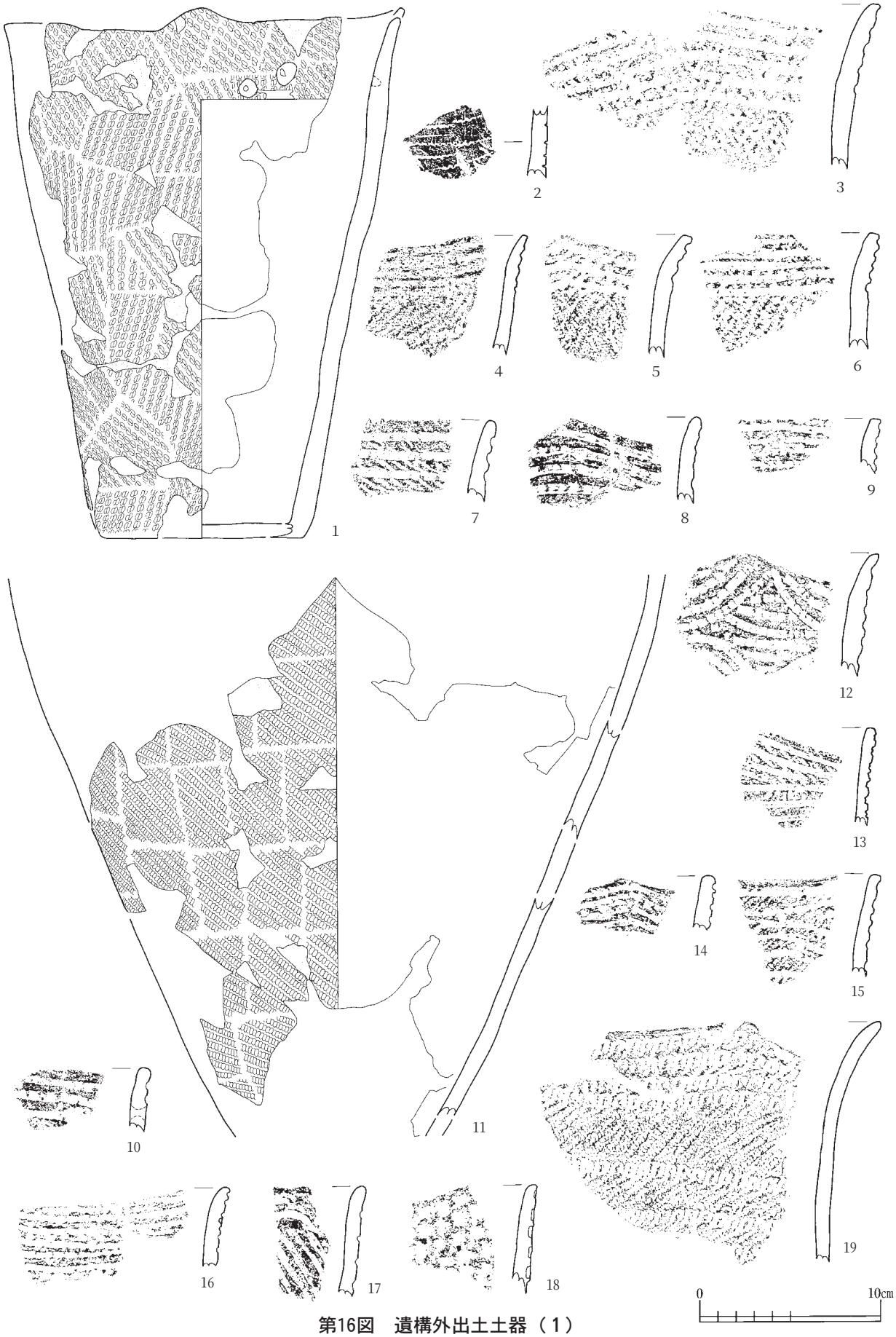
第21図106は口縁部片、第21図109は、胴部片である。いずれも胴部に単節縄文による横位の結束第一種を施している。また、第21図106の口唇部には外面にＬ原体押圧を施す横位の隆帯を施している。円筒上層式土器と思われる。

第11図31は、胴部片である。２、３条の平行沈線文により渦巻文を構成するものと思われる。榎林式土器と思われる。

第13図91は、折返し口縁下に竹管状工具による円形刺突が施され、胴部には、２条の沈線による縦位

の長楕円形文が連続して施されている。また、上部が内傾する器形を有する。第13図92、第21図114、115は、沈線により懸垂文が施されている。最花式土器と思われる。

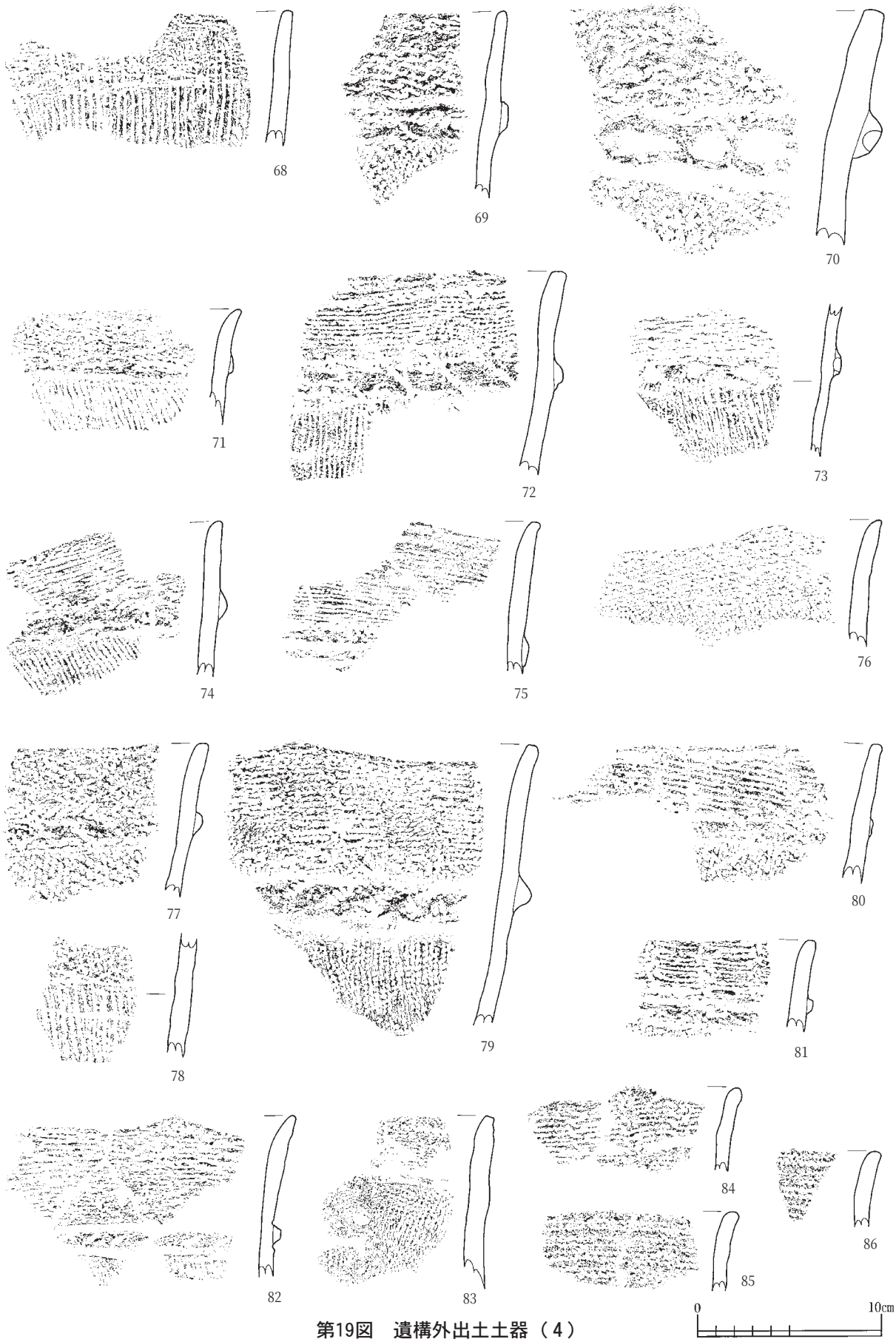
第10図２、３は、波状を呈する折返口縁下に縦位、横位のＲＬ縄文、右下がりの絡条体回転文を施している。第13図87は横位のＲＬ縄文を施しており、中位が膨らみ上部が内傾する器形を有する。第13図90は、平坦な折返口縁を有し、ＲＬ縄文を横位に施している。また、第13図87、90は第11号土坑において最花式土器と共伴している。第11図32、33は、弧状の沈線が施されている。第13図88、89、第21図111～113は、口縁部片である。折返口縁下に胴部施文として横位ないし斜位の単節縄文が施される。第21図117～121は、胴部片である。横位の単節縄文や横位にＬ原体を回転施文している。第21図120は、上部が無文である。これらは最花式土器ないし中期末葉の土器と思われる。



第16図　遺構外出土土器（1）

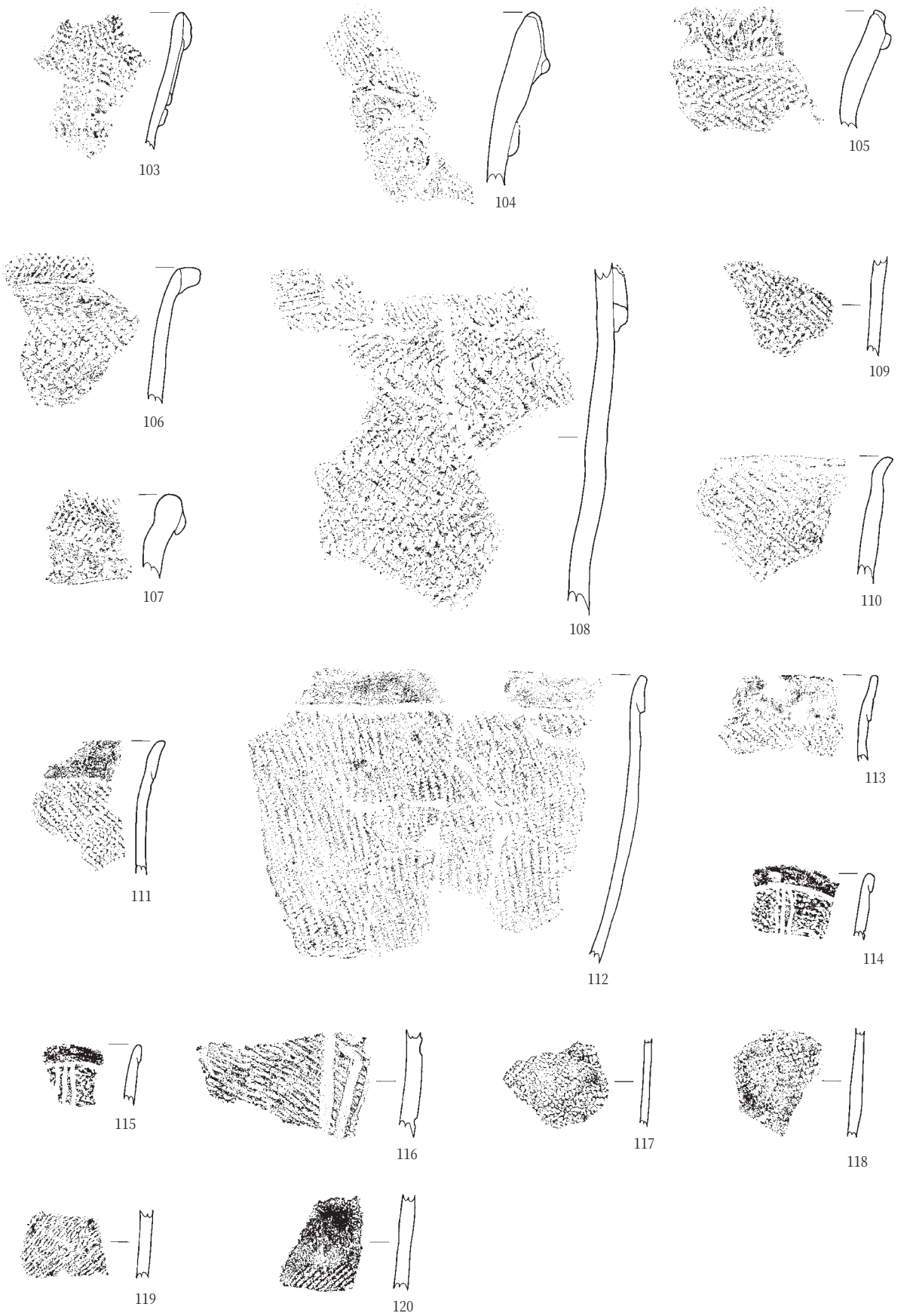
第17図　遺構外出土土器（2）

第18図　遺構外出土土器（３）



第19図　遺構外出土土器（４）

第20図　遺構外出土土器（５）



第21図　遺構外出土土器（６）

2．石　器

本遺跡で遺構内外より出土した石器は、下記のとおりである。遺構内より18点、遺構外より223点、計241点が出土している。(赤鉄鉱を除く)

・石鏃・石槍・石錐・石匙・石箆・不定形石器・その他の剥片石器・剥片・石核・磨製石斧・石錘
・敲磨器類・半円状扁平打製石器・石皿

石鏃(第22図１～４)
４点出土している。第22図１～３は、無茎凹基である。第22図３は、やや荒い調整が見られる。第22図４は、一部欠損しているが、円基もしくは尖基と思われる。

石槍(第22図５～７)
３点出土している。第22図５、６は、細長い形状である。端部には摩滅痕が認められる。第22図７は、幅広い形状である、器体全面に調整が見られる。また、茎部を有する。

石錐(第23図８、９)
２点出土している。第22図８は素材の周縁及び刃部に調整が認められる。第23図９は、素材の形状を利用し、突出部を作り、その後錐部のみに調整が認められる。

石匙(第14図２、第23図10～13、第24図14～19、第25図20～25、第26図26～29)
28点出土している。第14図２、第23～26図10～27は縦形、第26図28、29は横形である。縦型のものには、細身で両側縁が直線的なもの(第24図14～16、18、19)、細身で両側縁が曲線的なもの(第24図17)、第25図25)、細身で片側の側縁が直線的、もう一方の側縁が曲線的なもの(第23図10、12、13)、幅広で両側縁が直線的なもの(第25図21～23)、幅広で両側縁が曲線的なもの(第26図27)、幅広で、欠損等の影響かもしれないが抉りの見られるもの(第25図20、24)などが見られる。また、摘み部が幅広いもの(第26図26)が見られる。横型は、欠損品と思われるもの(第26図29)を含め２点が出土している。

石箆(第14図５、第26図30、31、第27図32～37、第28図38～40)
12点出土している。両面に調整が認められるもの(第26～28図30、32、34、38～40)、背面の調整が側縁のみに認められるもの(第14図５、第26、27図31、33、35～37)が見られる。

不定形石器(第14図１、３、４、６、第28図41、42、第29図43～48、第30図49)
91点出土している。腹面ないし腹面及び背面全面に粗い調整を施し、側縁に刃部調整を行うもの(第28図41、42)も見られるが、その他は、縁辺部に刃部調整のみを行うものである。

その他の剥片石器
３点出土している。全面に荒い調整が認められるものの、刃部調整が見られないものを本類とした。

使用痕剥片(第30図50、51)

55点出土している。使用痕と思われる微細剥離の認められるものである。

二次加工剥片(第30図52、53)

2点出土している。刃部調整ではない二次調整のみが側縁等に認められるものである。

磨製石斧(第15図11、第31図54)

3点出土している。第15図11、第31図54は、欠損品である。

石錘(第31図55)

1点出土している。自然礫の長軸方向両側縁に抉りが認められる。

敲磨器類(第15図7、8、第31図56～61、第32図62～66)

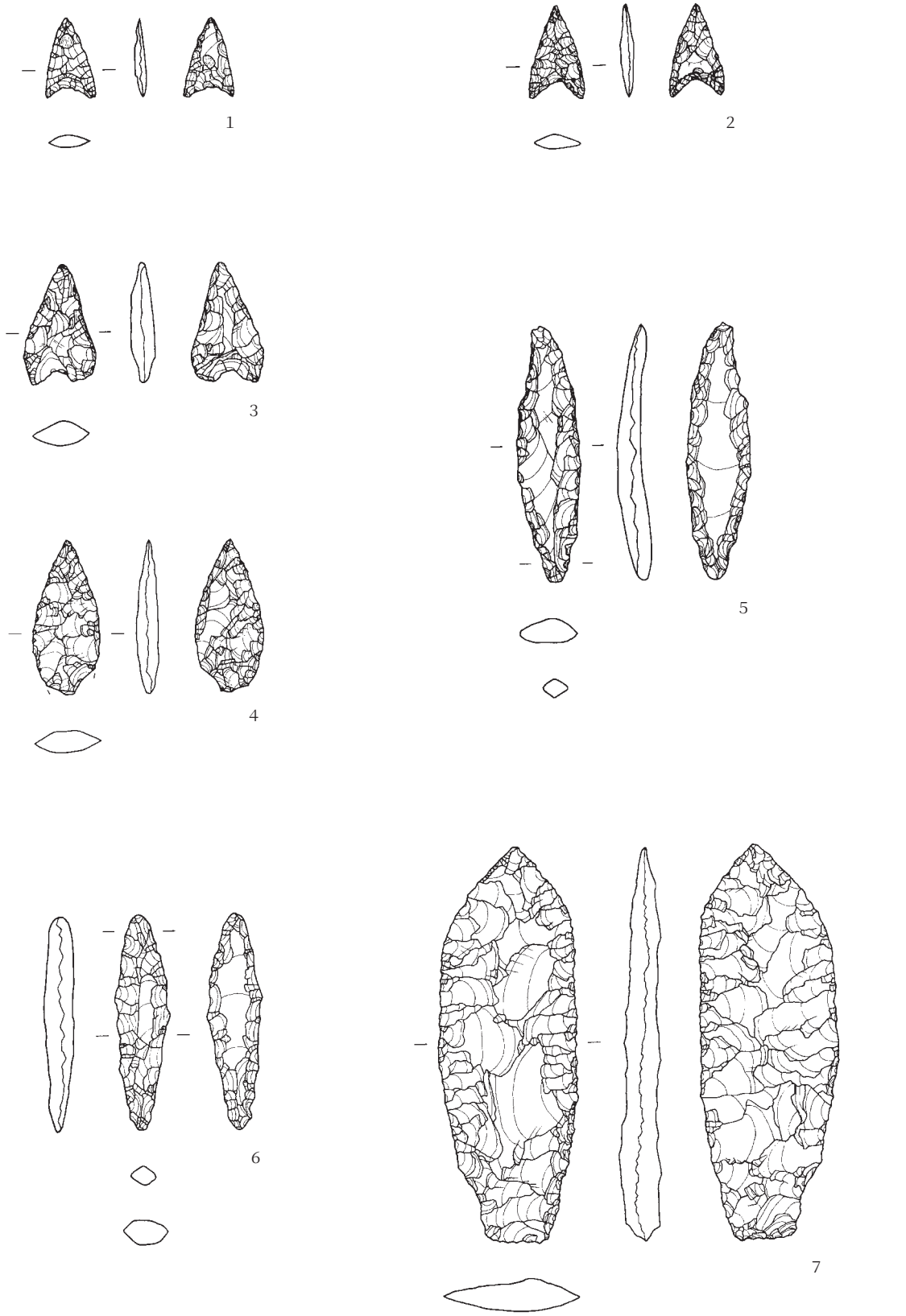
15点の出土である。礫側縁に磨痕のみが認められるもの(第31図56～61)、礫の端部に敲打痕のみが認められるもの(第32図64)、礫の側縁及び端部に敲打痕のみが認められるもの(第32図63)、側面及び端部に敲打痕のみが認められるもの(第15図8、第32図62)、側面中央に敲打痕のみが認められるもの(第32図66)、磨痕、敲打痕、凹痕が複合して認められるもの(第15図7、第32図65)などが見られる。

半円状扁平打製石器(第32図67、第33図68～71)

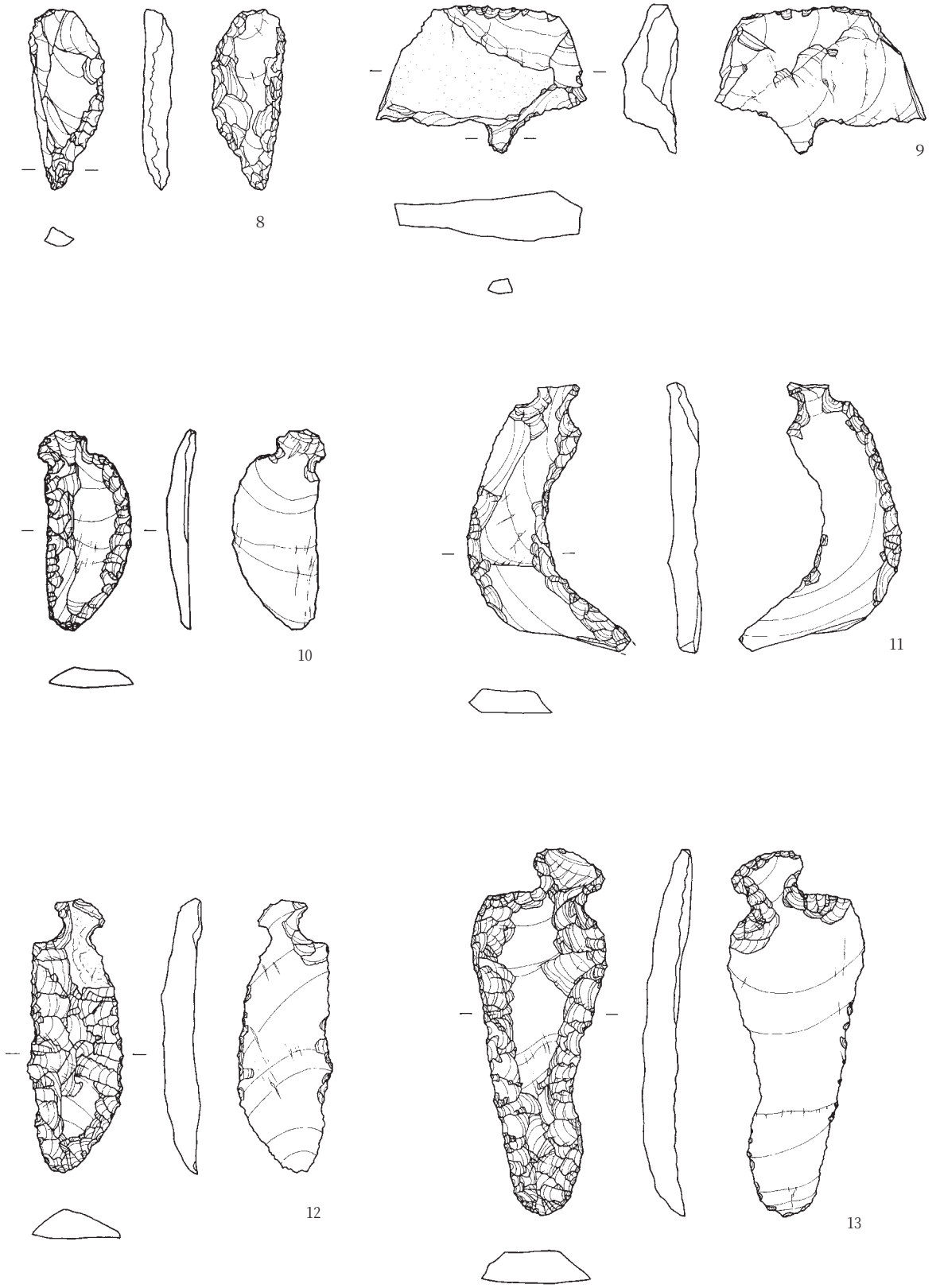
5点出土している。いずれも欠損品である。底辺にのみ磨痕が認められるもの(第32図67、第33図70)と、底辺及び上辺に磨痕の認められるもの(第33図68、69)とがある。また、大半が縦位方向の欠損なのに対し、第33図71は横位方向の欠損が認められる。

石皿(第15図9、10、第33図72、73)

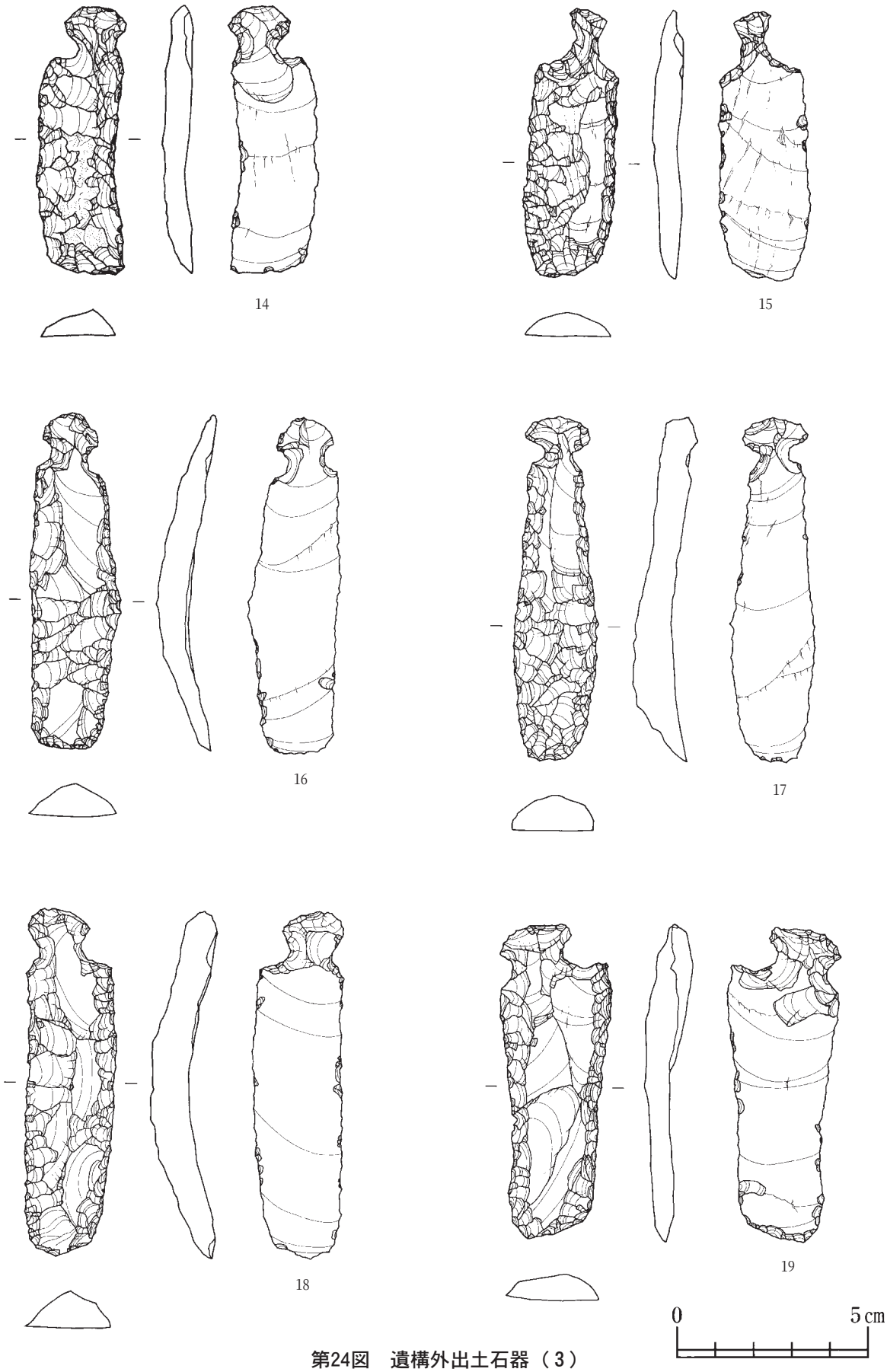
4点が出土している。いずれも欠損品であるあるが、第33図72は、凹痕を有し、破損後、敲磨器に転用されたものと思われる。



第22図　遺構外出土石器（1）

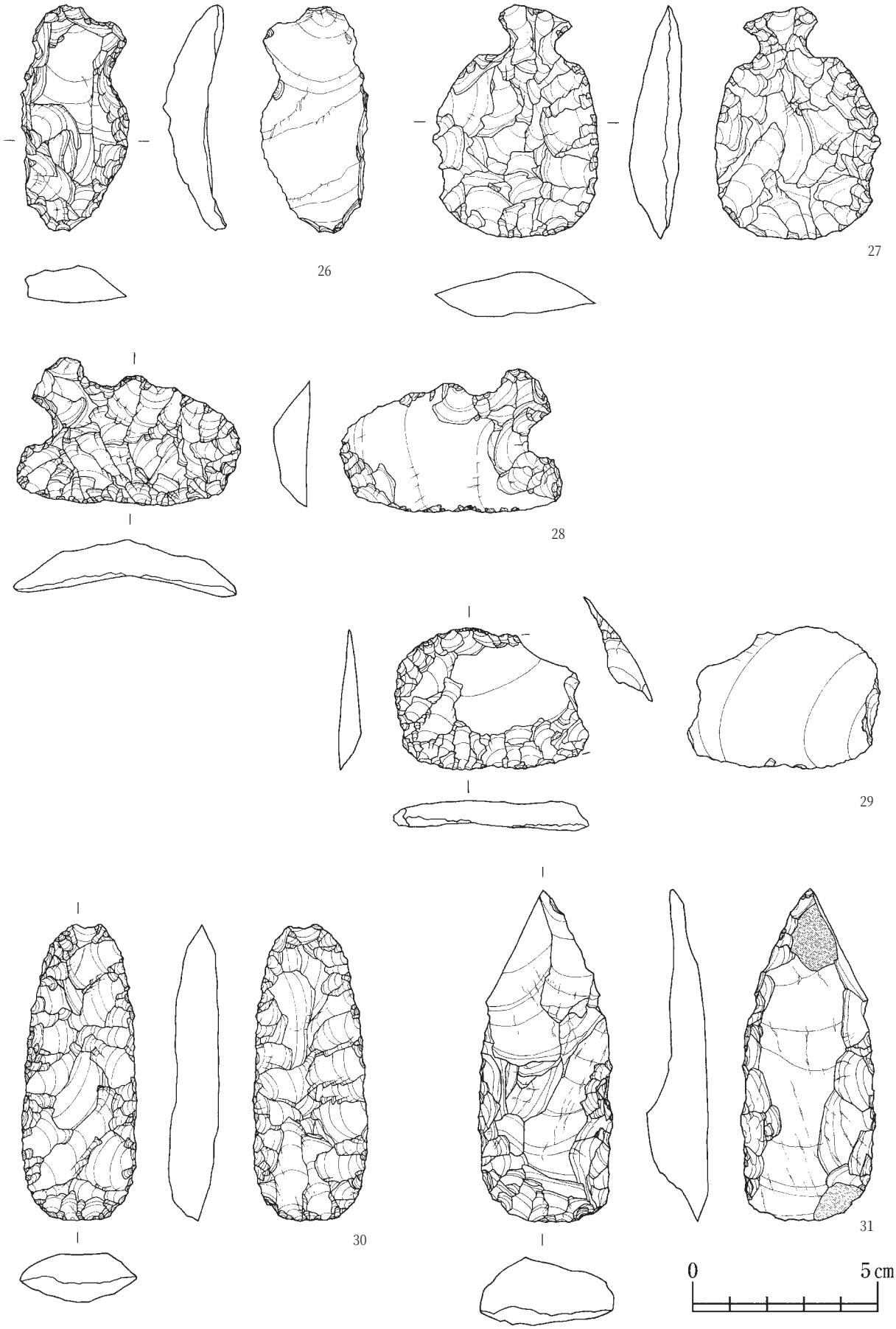


第23図　遺構外出土石器（２）

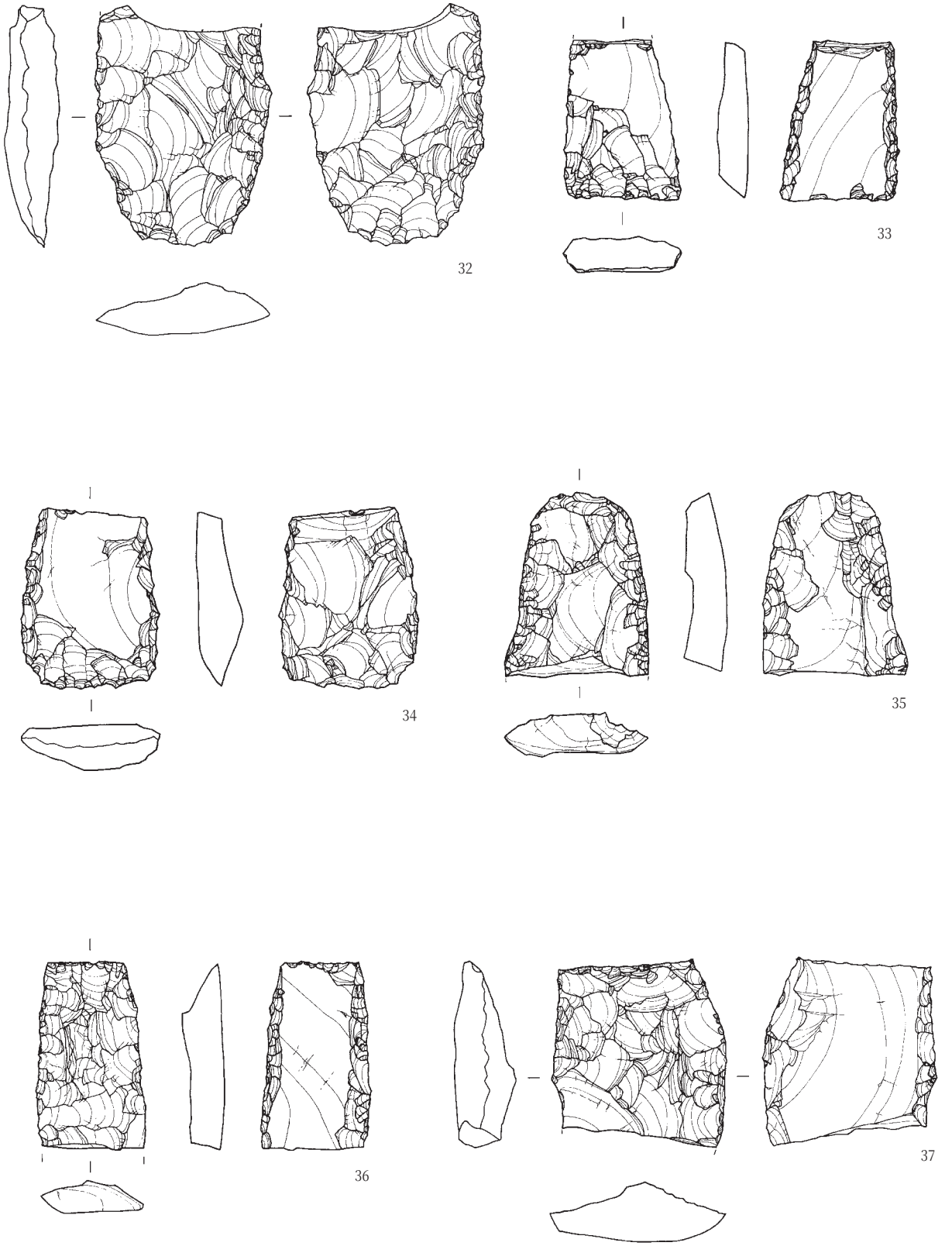


第24図　遺構外出土石器（３）

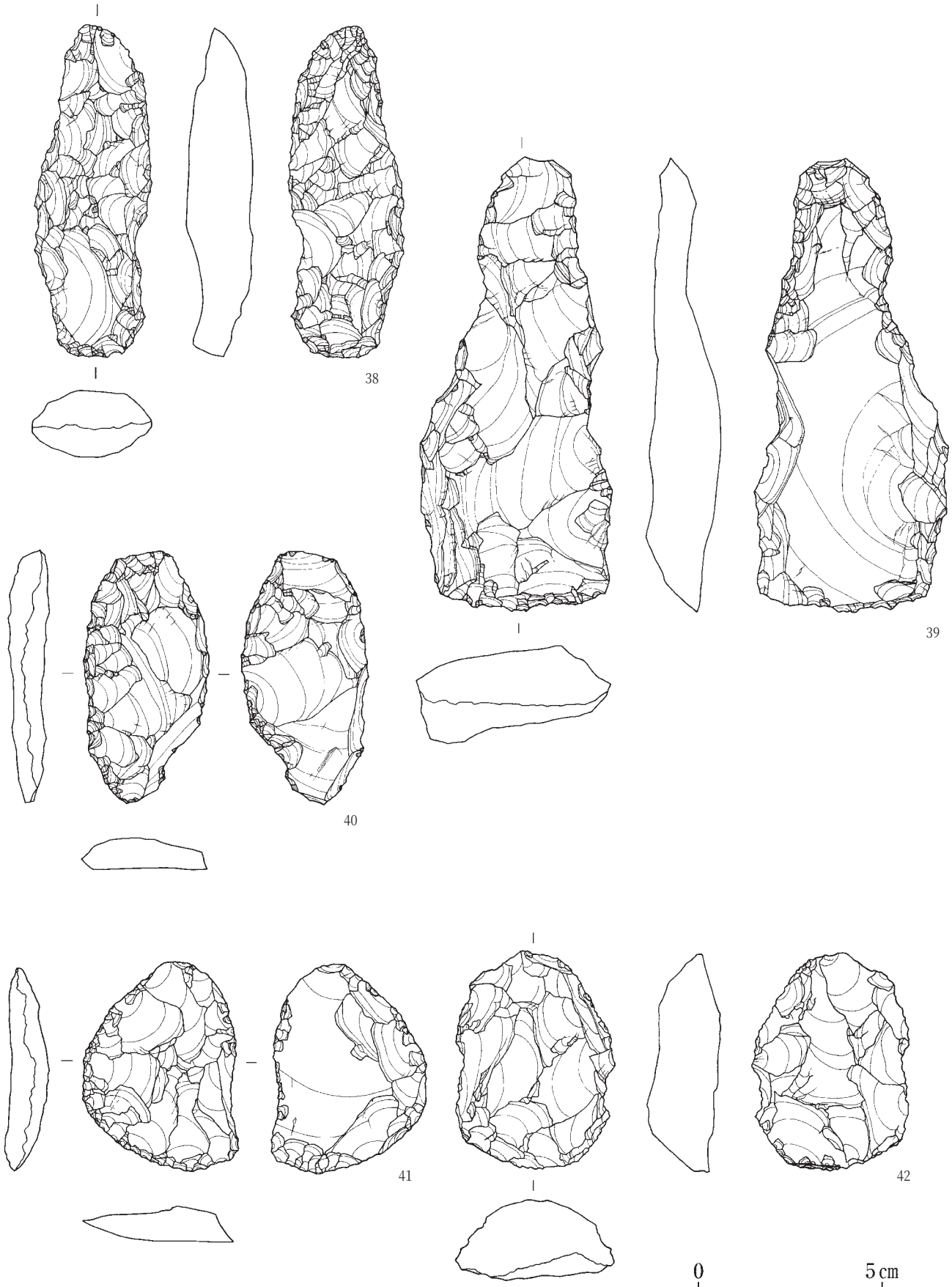
第25図　遺構外出土石器（４）



第26図　遺構外出土石器（５）

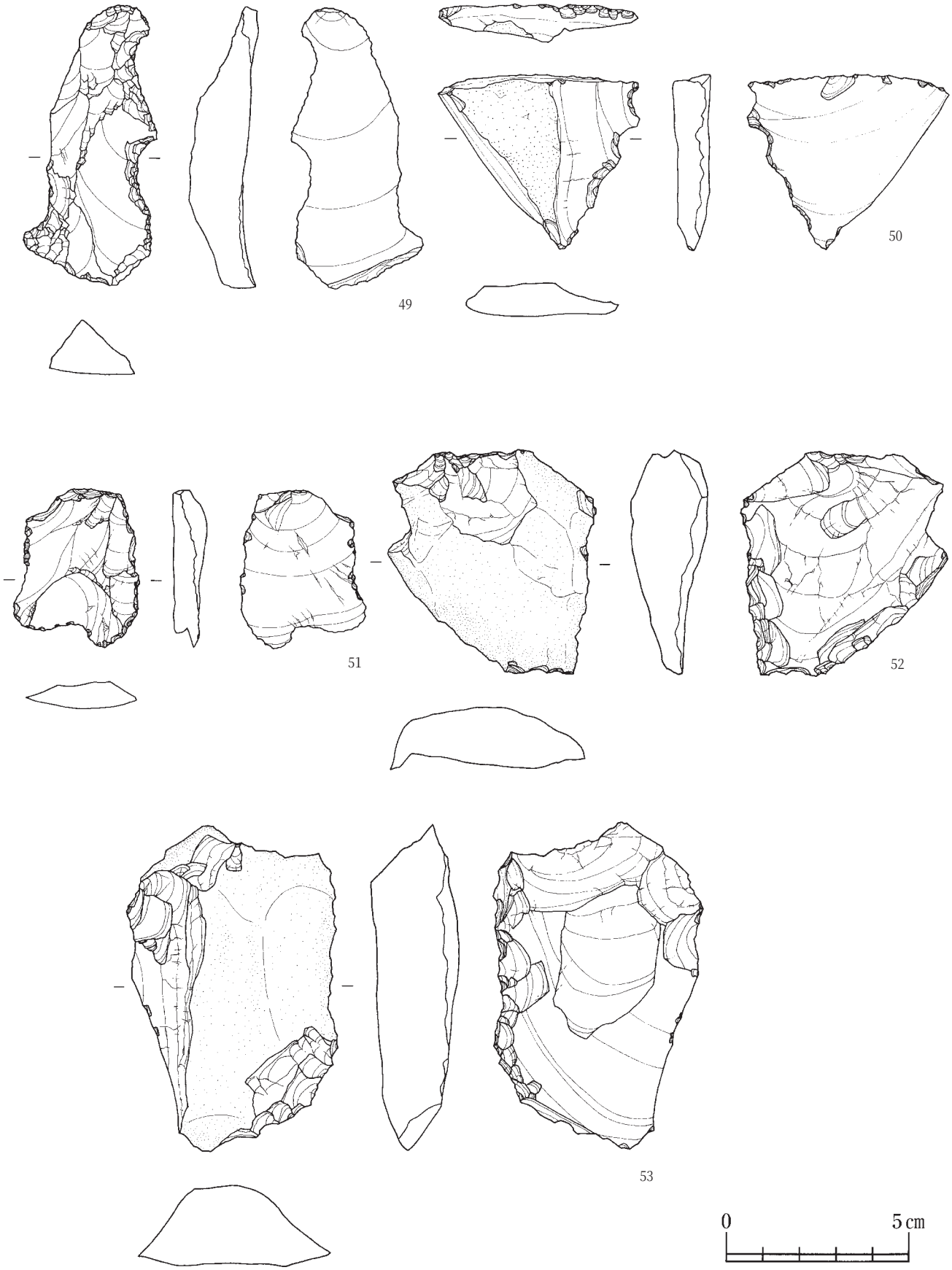


第27図　遺構外出土石器（６）

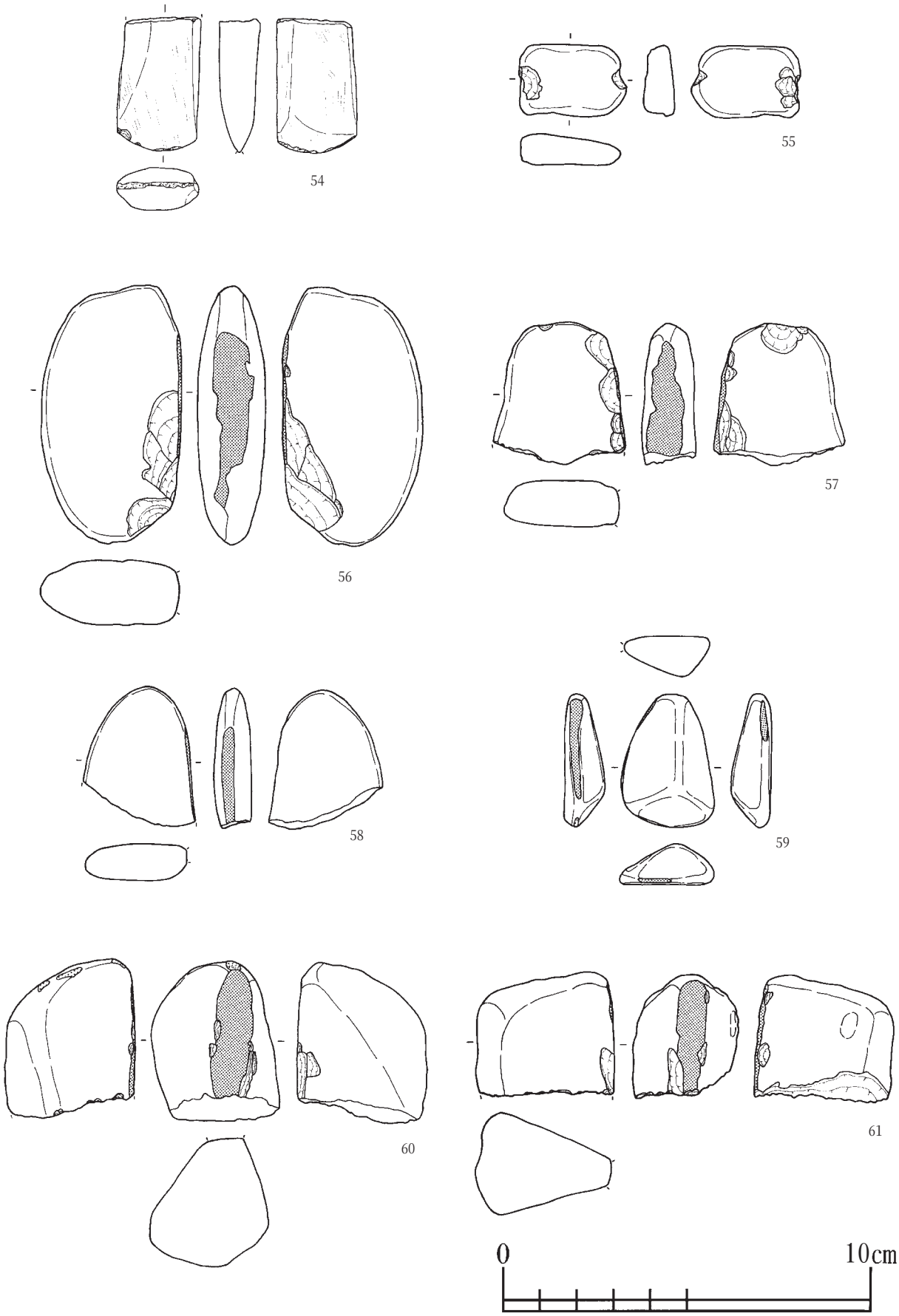


第28図　遺構外出土石器（７）

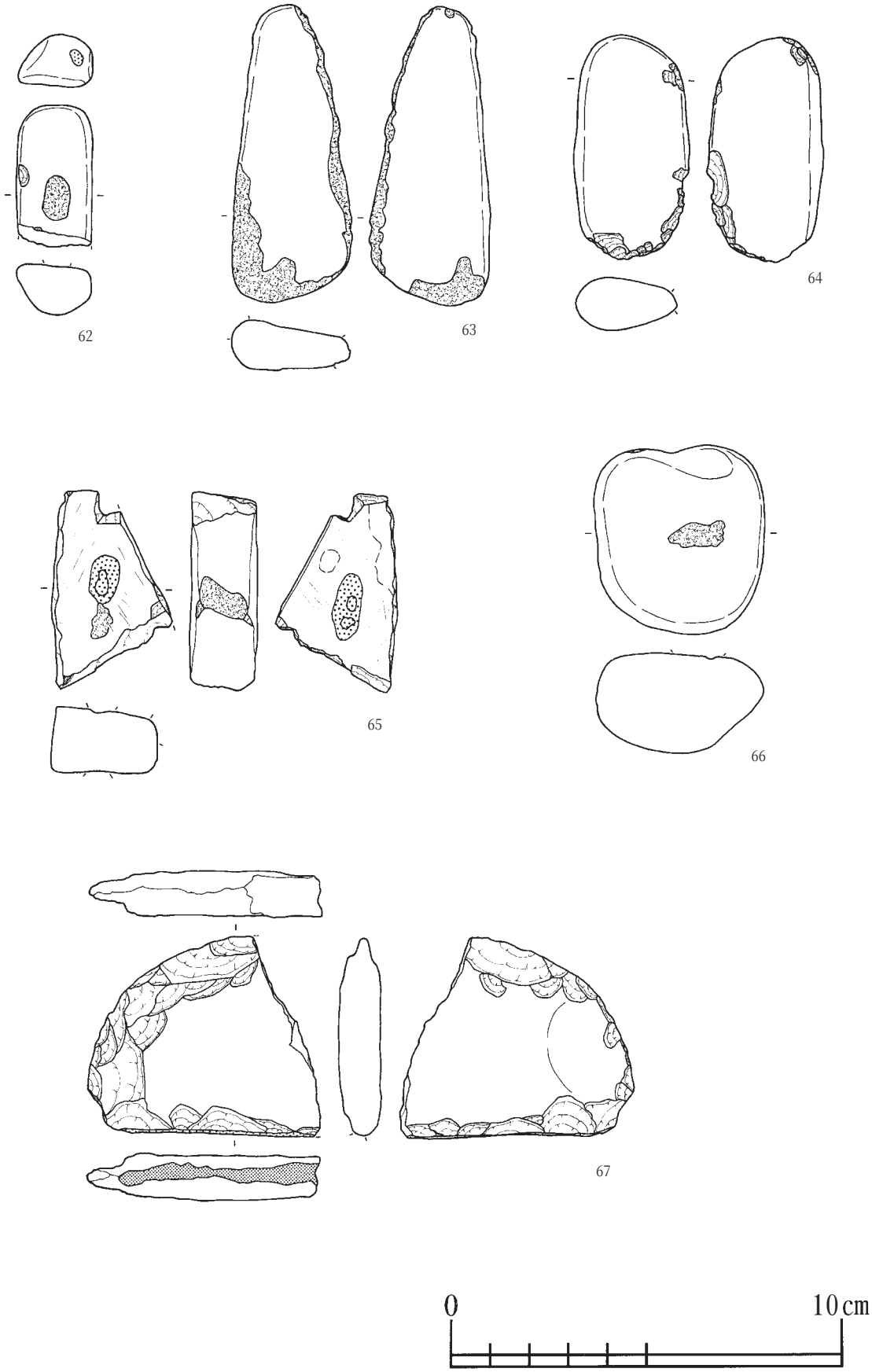
第29図　遺構外出土石器（８）



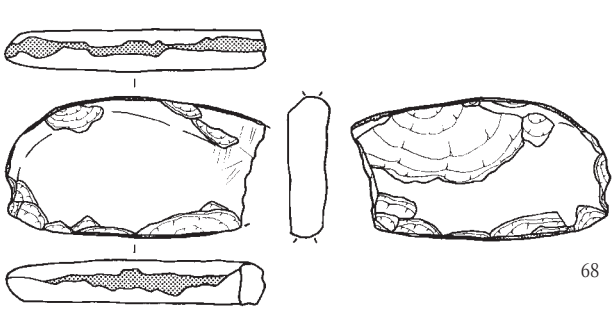
第30図　遺構外出土石器（９）

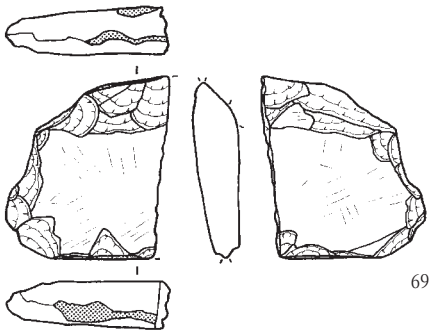


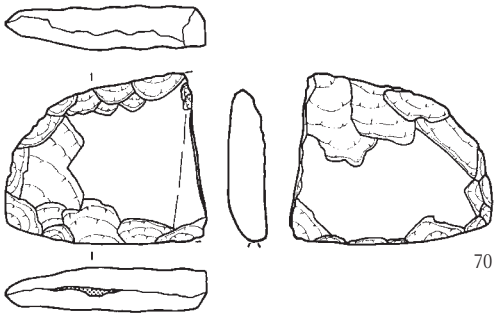
第31図　遺構外出土石器（10）

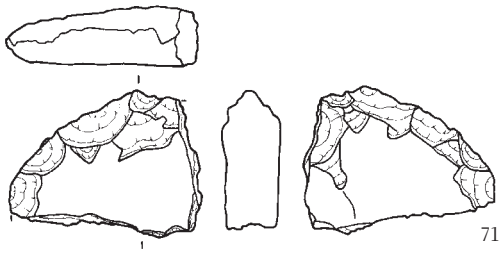


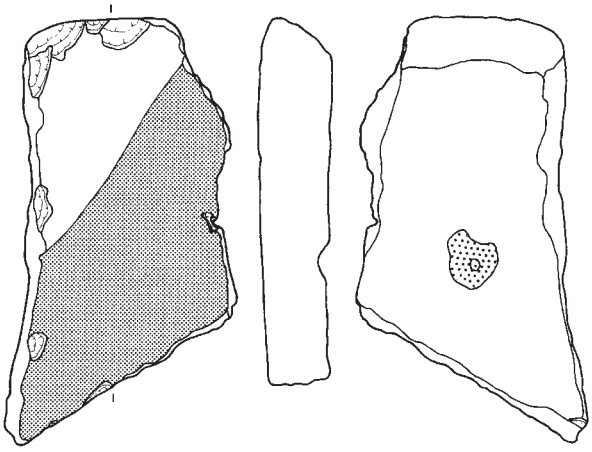
第32図　遺構外出土石器（11）

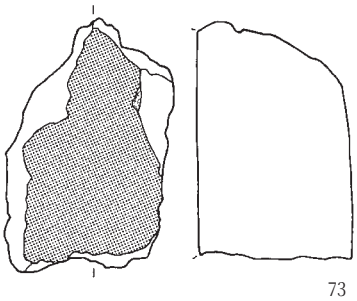












第33図　遺構外出土石器（12）

第１表　遺構内出土土器観察表

図版番号	遺構名	層位	器形	部位	文　　様	分類
10－1	4住	第1層	深鉢	胴～底	胴・LR(縦)	Ⅲ
10－2	2住 覆土 3住・炉	第1層	深鉢	口～胴	口縁・折り返し口縁、RL(縦)、胴・RL(斜)	Ⅲ
10－3	2住 覆土 3住・炉	第1層	深鉢	口～胴	口縁・折り返し口縁、胴・RL(斜)	Ⅲ
10－4	1住 ピット2	第1層	深鉢	？	R結回(横)	Ⅱ－2
10－5	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R単絡6A(横)	Ⅱ－2
10－6	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R結回(横)、胴・RLR(横)	Ⅱ－2
10－7	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R結回(横)	Ⅱ－2
10－8	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R結回(横)	Ⅱ－2
10－9	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R結回(横)	Ⅱ－2
10－10	1住	第1層	深鉢	口	口縁・RL単絡1(横)	Ⅱ－2
10－11	1住	第1層	深鉢	口	口縁・R単絡1(横)	Ⅱ－2
10－12	1住	第1層	深鉢	口	口唇・RLR(横)、口縁・R単絡5(横)	Ⅱ－2
10－13	1住	第1層	深鉢	胴	胴・押引沈線	Ⅱ－1
10－14	1住	第1層	深鉢	胴	胴・押引沈線	Ⅱ－1
10－15	1住	第1層	深鉢	胴	胴・結束第一種１(LR(前々多)・RL(前々多))	Ⅱ－2
10－16	1住	第1層	深鉢	底	底部・押引沈線	Ⅱ－1
10－17	1住	第1層	深鉢	胴	胴・LR(横)	Ⅱ－2
10－18	1住	第1層	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
10－19	1住	第1層	深鉢	胴	胴・RLR(横～斜)	Ⅱ－2
10－20	1住	第1層	深鉢	胴	胴・R単絡1(縦)	Ⅱ－2
10－21	1住	第1層	深鉢	胴	胴・R単絡1(縦)	Ⅱ－2
11－22	2住 ピット3	第1層	深鉢	胴	胴・押引沈線、LR(前々多・ループ(横))	Ⅱ－1
11－23	2住	覆土	深鉢	口	口縁・押引沈線	Ⅱ－1
11－24	2住	覆土	深鉢	胴	胴・LR(横)	Ⅱ－2
11－25	2住	覆土	深鉢	口～胴	口縁・RLR押(横)、R結回、RLR(横)	Ⅱ－2
11－26	2住	覆土	深鉢	口	口縁・無文	Ⅲ
11－27	2住	覆土	深鉢	胴	胴・LR(縦)	Ⅲ
11－28	2住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(縦)	Ⅲ
11－29	2住	覆土	深鉢	胴	胴・LR(斜)	Ⅲ
11－30	2住	覆土	深鉢	底	底部・RLR	Ⅱ－2
11－31	3住・炉	覆土	深鉢	胴	胴・沈線、LR(斜)	Ⅲ
11－32	3住・炉	覆土	深鉢	胴	胴・沈線、LR(斜)	Ⅲ
11－33	3住・炉	覆土	深鉢	胴	胴・沈線、LR(斜)	Ⅲ
11－34	3住・炉	覆土	深鉢	胴	胴・沈線、LR(横)	Ⅲ
11－35	3住・炉	覆土	深鉢	胴	胴・結束第一種１(LR・LR)	Ⅲ
11－36	3住	第2層	深鉢	胴～底	胴～底・LR(斜)	Ⅱ－2
11－37	3住	覆土	深鉢	口	口縁・RL押(横)	Ⅲ
11－38	3住	覆土	深鉢	口	口縁・RLR(横)	Ⅱ－2
11－39	3住	覆土	深鉢	口	口縁・無文	Ⅲ
11－40	3住	覆土	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、無文	Ⅲ
11－41	3住	覆土	深鉢	口～底	口～胴・無文、LR(縦)	Ⅲ
11－42	3住	覆土	深鉢	口	口縁・RLR(横)、貼付隆帯(刺突(棒状工具))	Ⅱ－2
11－43	3住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(横・縦)	Ⅲ
11－44	3住	覆土	深鉢	胴	胴・沈線、LR(横)	Ⅲ
11－45	3住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(縦)	Ⅲ
11－46	3住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(斜)	Ⅲ
11－47	4住	第1層	深鉢	底	底LR(斜)	Ⅱ－2
11－48	5住	覆土	深鉢	口	口縁・RLR(斜)	Ⅱ－2
11－49	5住	覆土	深鉢	口～胴	RLR押(横)、R単絡1(横)、胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
11－50	5住	覆土	深鉢	口	口縁・R単絡5(横)	Ⅱ－2
11－51	5住	覆土	深鉢	口	口縁・R単絡6A(横)	Ⅱ－2
11－52	5住	覆土	深鉢	口	口縁・R単絡5(横)、貼付隆帯(刺突(棒状工具))	Ⅱ－2
11－53	5住	覆土	深鉢	口	口縁・貼付隆帯(指頭押圧、R単絡1(横))	Ⅱ－2
11－54	5住	覆土	深鉢	口	口縁・刺突(棒状工具)	Ⅱ－2
11－55	5住	覆土	深鉢	胴	胴・LR(ループ(横))	Ⅱ－1
11－56	5住	覆土	深鉢	口	胴・LRL(横)	Ⅱ－2
11－57	5住	覆土	深鉢	胴	胴・RRL(斜)	Ⅱ－2
11－58	5住	覆土	深鉢	口	口縁・R単絡1・(横)、地文、RLR(斜)	Ⅱ－2
11－59	5住	覆土	深鉢	口	口縁・RLR(横・斜)	Ⅱ－2
11－60	5住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
11－61	5住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
11－62	5住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(斜)	Ⅱ－2
11－63	5住	覆土	深鉢	胴	胴・RL(斜)	Ⅱ－2
11－64	6住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(横)	Ⅱ－2
11－65	6住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(横)	Ⅱ－2
11－66	6住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(横)	Ⅱ－2
11－67	6住	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
12－68	2土	第1層	深鉢	胴	胴・RL(前々多(斜))	Ⅱ－1
12－69	3土	第1層	深鉢	胴	胴・RL(ループ(横))	Ⅱ－1
12－70	3土	第1層	深鉢	胴	胴・LR(縄端(横))	Ⅱ－1
12－71	3土	第1層	深鉢	底	底部・RLR(横)	Ⅱ－2
12－72	5土	覆土	深鉢	胴	胴・刺突(半裁竹管状工具)	Ⅱ－1
12－73	6土	第2層	深鉢	胴	胴・RL(斜)	Ⅱ－2
12－74	6土	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(横)	Ⅱ－2
12－75	6土	覆土	深鉢	胴	胴・LR(縦)	Ⅱ－2
12－76	6土	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(横)	Ⅱ－2
12－77	6土	覆土	深鉢	胴	胴・押引沈線	Ⅱ－1
12－78	7土	第2層	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
12－79	8土	覆土	深鉢	口	口縁・沈線	Ⅲ
12－80	8土	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
12－81	8土	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
12－82	8土	覆土	深鉢	胴	胴・LR(前々多(横))	Ⅱ－2
12－83	8土	覆土	深鉢	胴	胴・LR(斜)	Ⅱ－2
12－84	8土	覆土	深鉢	胴	胴・LR(前々多(縦))	Ⅱ－2
12－85	9土	覆土	深鉢	口	口縁・LR(前々多・ループ(横))	Ⅱ－1
12－86	9土	覆土	深鉢	胴	胴・RLR(斜)	Ⅱ－2
13－87	11土	覆土	深鉢	口～底	口～胴・RL(横)、RL(横)	Ⅲ
13－88	11土	覆土	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、RL(横)	Ⅲ
13－89	11土	覆土	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、LR(前々多(横))	Ⅲ
13－90	11土	覆土	深鉢	口～胴	口縁・折り返し口縁、胴・RL(直前多(横))	Ⅲ
13－91	11土	覆土	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、沈線(懸垂文)、刺突(竹管状工具)、RL(横)	Ⅲ
13－92	11土	覆土	深鉢	胴	胴・沈線(懸垂文)	Ⅲ
13－93	11土	覆土	深鉢	胴	胴・LR(横)	Ⅲ
13－94	11土	覆土	深鉢	胴～底	RL(横)	Ⅲ
13－95	ピット8	覆土	深鉢	口	口縁・押引沈線	Ⅱ－1

第２表　遺構内出土石器計測表

図版番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　　種
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量		
14－1	1住	06502001	第1層	48.5	59.0	13.0	14.5	珪・頁	不定形
14－2	1住	06502002	第1層	52.0	27.0	6.5	7.6	珪・頁	石匙
	1住	06502003	第1層	19.0	31.0	6.0	4.4	珪・頁	不定形
	1住	06502004	第1層	32.0	32.0	8.0	6.7	珪・頁	不定形
	1住	06502005	第1層	34.0	45.0	8.0	14.3	珪・頁	不定形
	1住	06502006	第1層	38.0	61.0	16.0	37.6	珪・頁	不定形
15－7	1住	06502007	第1層	107.0	44.0	31.0	192.0	砂	敲磨器類
	1住	06502246	第1層	52.0	46.0	43.0	72.5	珪・頁	石核

図版番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　　種
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量		
15－8	2 住	06502008	覆土	80.0	56.0	39.0	260.0	珪・頁	敲磨器類
14－3	5 住	06502009	覆土	59.0	53.0	10.0	22.8	珪・頁	不定形
14－4	6 住	06502010	第1層	55.0	41.5	3.5	10.1	珪・頁	不定形
	6 住	06502011	第1層	36.0	34.0	11.6	13.0	珪・頁	不定形
14－6	6 土	06502012	覆土	39.0	60.0	14.5	34.1	珪・頁	不定形

図版番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　　種
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量		
15－9	1土	06502013	覆土	270.0	268.0	153.0	1380.0	珪・頁	石皿
15－10	11土	06502014	覆土	122.0	128.0	45.0	970.0	安	石皿
14－5	ピット 4	06502015	覆土	74.0	38.0	17.0	39.6	珪・頁	石篦
	ピット 4	06502016	覆土	39.0	60.0	14.5	34.1	珪・頁	不定形
15－11	ピット 9	06502017	覆土	132.0	46.0	31.0	310.0	輝・凝	磨製石斧

第３表　遺構外出土土器観察表

図版番号	遺構名	層位	器形	部位	文　　様	分類	備　考
16－1	JC－207	IV	深鉢	口～底	口～胴・RLR(横・斜)	II－2	貫通孔有2個所
16－2	JB－213	I	深鉢	胴	胴・貝殻側線押圧	I	
16－3	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・押引沈線、LR(前々多・ループ、(横))	II－1	
16－4	JA－212	I	深鉢	口		II－1	
16－5	JC－214	IV	深鉢	口	口縁・押引沈線、LR(ループ、(横))	II－1	
16－6	JB－211	IV	深鉢	口	口縁・押引沈線、LR(前々多、(横・一部縦))	II－1	
16－7	JA－213	I	深鉢	口	口縁・押引沈線、LR(横)	II－1	
16－8	JA－211	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	
16－9	JB－214	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	貫通孔有
16－10	JA－212	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	
16－11	JA－212	IV	深鉢	胴	胴・RL(横)	III	
16－12	JA－213	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	
16－13	JB－211	I	深鉢	口	口縁・沈線(半裁竹管状工具)	II－1	
16－14	JB－214	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	
16－15	JA－212	IV	深鉢	口	口縁・押引沈線、RL	II－1	
16－16	JA－213　J B－213	I	深鉢	口	口縁・押引沈線、刺突(半裁竹管状工具)	II－1	
16－17	JA－211	I	深鉢	口	口縁・押引沈線	II－1	
16－18	JB－210	IV	深鉢	口	口縁・刺突(半裁竹管状工具)	II－1	
16－19	JA－212	IV	深鉢	口	口縁・LR(前々多・縄端、(横))	II－1	
17－20	JB－213	I	深鉢	胴	胴・刺突(竹管状工具)、押引沈線、LR(前々多・ループ、(横))	II－1	
17－21	JA－212	IV	深鉢	底	底部・RL(縄端、(横))、押引沈線	II－1	
17－22	JB－213	I	深鉢	胴	胴・押引沈線、LR(縄端、(横))	II－1	
17－23	JB－209	IV	深鉢	胴	胴・押引沈線、LR	II－1	
17－24	JA－212	I	深鉢	胴	胴・押引沈線、刺突(竹管状工具)、LR	II－1	
17－25	JB－214	I	深鉢	胴	胴・押引沈線、刺突(竹管状工具)、LR	II－1	
17－26	JB－213	I	深鉢	胴	胴・刺突(竹管状工具)、押引沈線、LR(ループ、(横))	II－1	
17－27	JA－212	I	深鉢	胴	胴・押引沈線、RL(横)	II－1	貫通孔有
17－28	JC－212	IV	深鉢	胴	胴・押引沈線	II－1	
17－29	JC－210	I	深鉢	胴	胴・押引沈線、R単絡1(縦)	II－1	
17－30	IO－213	IV	深鉢	胴	胴・沈線	II－1	
17－31	JA－211	I	深鉢	胴	胴・刺突(半裁竹管状工具)	II－1	
17－32	JB－207	I	深鉢	胴	胴・刺突(半裁竹管状工具)	II－1	
17－33	JA－212	I	深鉢	胴	胴・LR(ループ、(横))	II－1	
17－34	JA－211 JB－212	I	深鉢	胴	胴・RL(前々多・ループ、(横))	II－1	貫通孔有
17－35	JB－211	IV	深鉢	胴	胴・LR(ループ、(横))	II－1	
17－36	JA－212	I	深鉢	胴	胴・RL(ループ、(横))	II－1	
17－37	JA－212	IV	深鉢	胴	胴・LR(ループ、(横))	II－1	
17－38	JA－211	I	深鉢	胴	胴・LR(ループ、(横))	II－1	
17－39	JA－212	I	深鉢	胴	胴・RL(ループ、(横))	II－1	
17－40	JB－210	IV	深鉢	胴	胴・LR(ループ、(横))	II－1	
17－41	IO－213	IV	深鉢	胴	胴・RL(縄端、(横))	II－1	
17－42	JA－212	I	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
17－43	JB－211	IV	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
18－44	JC－208	I	深鉢	底	底部・沈線	II－1	
18－45	JB－214	I	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	

図版番号	遺構名	層位	器形	部位	文　　様	分類	備　考
18－46	JA－212	I	深鉢	底	尖底部・押引沈線	II－1	尖底
18－47	JA－211	IV	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
18－48	JA－212	IV	深鉢	底	底部・LR(横)	II－1	尖底
18－49	IN－210	IV	深鉢	底	底部・RL(横)	II－1	尖底
18－50	JC－210	I	深鉢	底	底部・LR(縄端、(横))	II－1	
18－51	JA－212	IV	深鉢	底	底部・LR(横)	II－1	尖底
18－52	JA－213	I	深鉢	底	底部・RL(横)	II－1	尖底
18－53	JA－212	I	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
18－54	JA－212	IV	深鉢	底	底部・押引沈線、RL(横)	II－1	尖底
18－55	JA－212	IV	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
18－56	JA－212	I	深鉢	底	底部・押引沈線	II－1	尖底
18－57	JA－212	I	深鉢	底	底部・沈線、RL(縦)	II－1	尖底
18－58	JA－212	IV	深鉢	底	底部・LR(横)	II－1	尖底
18－59	JA－212	I	深鉢	底	尖底部・押引沈線	II－1	尖底
18－60	JB－214	I	深鉢	底	尖底部・押引沈線	II－1	尖底
18－61	JA－212	IV	深鉢	底	尖底部・押引沈線	II－1	尖底
18－62	JB－210	I	深鉢	口～底	口縁・RLR押(横)、胴・RL(横・縦)、底面・RL	II－2	
18－63	JC－207	IV	深鉢	口	口唇・RLR(横)、口縁・RLR押(横・縦)、RLR(横)、胴・RLR(横)	II－2	
18－64	JB－211	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)、胴・RLR(横)	II－2	
18－65	JB－211	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)、胴・RLR(斜)	II－2	
18－66	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)	II－2	
18－67	JC－210	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)、胴・RL(斜)	II－2	
19－68	IS－214	I	深鉢	口	口縁・R結回(横)、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－69	JC－214	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)、貼付隆帯(RLR押、(横))、胴・RLR(斜)	II－2	
19－70	JB－209	IV	深鉢	口	口唇・RLR(横)、口縁・R結回(横)、貼付隆帯(指頭押圧)、胴・RLR(斜)	II－2	
19－71	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・R結回(横)、貼付隆帯、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－72	JC－209	IV	深鉢	口	口唇・R単絡1(横)、口縁・LR押(横)、R単絡1(横)、貼付隆帯(R単絡1押、(横))、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－73	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・R単絡6A(横)、貼付隆帯(刺突(棒状工具))、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－74	JC－208	IV	深鉢	口	口唇・L単絡1(横)、口縁・RLR押(横)、L単絡1(横)、貼付隆帯、胴・L単絡1(縦)	II－2	
19－75	IS－214	I	深鉢	口	口縁・RLR押(横)、R単絡1(横)、貼付隆帯(RLR押、(横))	II－2	
19－76	IR－210	IV	深鉢	口	口縁・R単絡5(横)、胴・RL(横)	II－2	
19－77	JC－207	IV	深鉢	口	口縁・R単絡6(横)、RLR押(横)、貼付隆帯(刺突(棒状工具))、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－78	JC－208	IV	深鉢	胴	口縁・R単絡5(横)、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－79	JB－207	I	深鉢	口	口唇・R単絡1(横)、口縁・LR押(横)、R単絡6A(横)、貼付隆帯(R単絡6A押、(斜))、胴・L＋R単絡1(縦)	II－2	
19－80	IS－214	I	深鉢	口	口縁・R単絡1(横)、貼付隆帯(外面施文不明)、胴・RLR(横)	II－2	
19－81	JC－208	IV	深鉢	口～胴	R単絡6A(横)、RLR押(横)、貼付隆帯(RLR、(横))、胴・RLR(斜)	II－2	
19－82	JB－207	I	深鉢	口	口縁・R単絡6A(横)、沈線、貼付隆帯(沈線、(斜))、胴・R単絡1(縦)	II－2	
19－83	JC－207	IV	深鉢	口	口縁・LR(前々多)押(横)、R単絡1(横)、胴・R単絡1(縦・斜)	II－2	
19－84	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・R単絡6A(横)	II－2	
19－85	JC－214	IV	深鉢	口	口唇・RL押(縦)、口縁・L押(横)、LR押(横)	II－2	
19－86	JC－214	IV	深鉢	口	口唇・RL押(横)、口縁・LR押(横)	II－2	
20－87	JB－214	I	深鉢	口	口唇・RL押(縦)、口縁・LR押(横)、RL押(横)、R単絡1押(横)、橋状把手(LR、(横))	II－2	
20－88	JA－213	I	深鉢	口	口唇・R押(縦)、口縁・隆帯(ボタン状、突起部加飾)、LR(横)	II－2	
20－89	JC－208	IV	深鉢	口	口縁・RLR(斜)	II－2	
20－90	JB－208	I	深鉢	胴	R結回、沈線、貼付隆帯－2	II－2	

図版番号	遺構名	層位	器形	部位	文　　様	分類	備　考
20－91	JC－208	Ⅰ	深鉢	胴	胴・R単絡1(斜)	Ⅱ－2	
20－92	JC－207	Ⅳ	深鉢	胴～底	胴・R単絡1(縦)	Ⅱ－2	
20－93	JC－207	Ⅳ	深鉢	胴～底	胴・RL(横)、底・RL	Ⅱ－2	
20－94	JB－209	Ⅰ	深鉢	底	底部・R単絡1	Ⅱ－2	
20－95	JB－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(縦)、口縁・L＋R押(鋸歯状、(横))	Ⅲ	
20－96	JB－214	Ⅰ	深鉢	口	口唇・R押(縦)、L単絡1押(短線)、隆帯(L押圧による刻目)	Ⅲ	
20－97	JC－210	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、口縁・隆帯(L押、(刻目))、L押(馬蹄状)、胴・RL(横)	Ⅲ	
20－98	JC－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・l 押(刻目)、隆帯(L押、(刻目)、L押(馬蹄状)、胴・結束第一種(LR・RL)	Ⅲ	
20－99	JC－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、隆帯(L押、(刻目)、L押(馬蹄状)	Ⅲ	
20－100	JB－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、隆帯(L押(刻目)、L押(波状、馬蹄状)	Ⅲ	
20－101	JC－214	Ⅳ	深鉢	口	口唇・R押(刻目)、口縁・隆帯(R押、(刻目))、R押(馬蹄状)	Ⅲ	
20－102	JC－214	Ⅳ	深鉢	口	口縁・隆帯(L押、(刻目))、L押(馬蹄状)、胴・結束第二種(LR・RL)	Ⅲ	
21－103	JC－214	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、隆帯(L押(刻目))、L押	Ⅲ	
21－104	JC－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、隆帯(L押(刻目))、L押(波状)	Ⅲ	
21－105	JA－212	Ⅰ	深鉢	口	口唇・隆帯(L押(刻目、波状))、結束第一種(LR・RL)	Ⅲ	
21－106	JB－214	Ⅳ	深鉢	口	口唇・隆帯(L押(刻目))、口縁・結束第一種(LR・RL)	Ⅲ	

図版番号	遺構名	層位	器形	部位	文　　様	分類	備　考
21－107	JC－211	Ⅳ	深鉢	口	口唇・L押(刻目)、口縁・隆帯、L押(刻目)、L縄端押圧	Ⅲ	
21－108	JC－211	Ⅳ	深鉢	口～胴	口縁・縄端押圧、L押(横)、隆帯(L押、(刻目))、胴・結束第一種(LR・RL)	Ⅲ	
21－109	JB－211	Ⅳ	深鉢	胴	胴・結束第一種・(LR・RL)	Ⅲ	
21－110	JB－211	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、RL(横)	Ⅲ	21－113と同一個体
21－111	JC－208	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、RL(横)	Ⅱ	
21－112	JC－208	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、RL(前々多、(斜))	Ⅲ	21－113と同一個体
21－113	JC－208	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、RL(横)	Ⅲ	
21－114	JB－211	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、沈線(懸垂文)	Ⅲ	
21－115	JA－211	Ⅳ	深鉢	口	口縁・折り返し口縁、沈線(懸垂文)	Ⅲ	
21－116	JB－214	Ⅰ	深鉢	胴	胴・沈線、l	Ⅲ	
21－117	IP－213	Ⅳ	深鉢	胴	胴・RL(前々多、(縦・斜)	Ⅲ	
21－118	IP－213	Ⅳ	深鉢	胴	胴・LR(横)	Ⅲ	
21－119	JB－211	Ⅳ	深鉢	胴	胴・ l (横)	Ⅲ	
21－120	JB－213	Ⅰ	深鉢	胴	胴・ l	Ⅲ	

第４表　遺構外出土石器計測表

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
22－1	JA－212	06502018	Ⅰ	20.0	12.0	3.0	0.5	珪・頁	石鏃	
22－2	JB－214	06502019	Ⅳ	22.5	13.5	3.5	0.8	珪・頁	石鏃	
22－3	JA－212	06502020	Ⅰ	30.0	18.0	6.0	3.0	珪・頁	石鏃	
22－4	JB－208	06502021	Ⅰ	38.0	16.0	6.0	3.2	珪・頁	石鏃	
22－5	JC－214	06502022	Ⅳ	64.0	16.0	8.5	7.1	珪・頁	石槍	
22－6	JA－211	06502023	Ⅳ	53.0	13.0	8.0	4.7	珪・頁	石槍	
22－7	JA－212	06502024	Ⅰ	98.0	34.5	6.5	34.3	珪・頁	石槍	
	JB－210	06502025	Ⅰ	40.0	37.0	9.0	12.4	珪・頁	石槍	
23－8	JA－212	06502026	Ⅰ	45.0	19.0	70.0	6.4	珪・頁	石錐	
23－9	lA－212	06502027	Ⅰ	37.0	53.0	13.0	24.8	珪・頁	石錐	
23－10	JA－212	06502028	Ⅰ	50.0	23.0	5.0	5.8	珪・頁	石匙	
23－11	JA－212	06502029	Ⅰ	67.0	41.0	7.0	14.5	珪・頁	石匙	
23－12	JB－211	06502030	Ⅰ	68.0	24.0	7.0	12.9	珪・頁	石匙	
23－13	JC－208	06502031	Ⅳ	91.0	34.0	7.0	25.3	珪・頁	石匙	
24－14	lN－210	06502032	Ⅳ	69.0	24.0	7.0	13.2	珪・頁	石匙	
24－15	JC－207	06502033	Ⅳ	70.0	24.5	6.0	14.0	珪・頁	石匙	
24－16	JB－208	06502034	Ⅰ	88.0	24.0	9.0	16.8	珪・頁	石匙	
24－17	JC－207	06502035	Ⅳ	90.0	22.0	11.0	21.7	珪・頁	石匙	
24－18	JC－211	06502036	Ⅳ	90.0	24.0	10.0	23.6	珪・頁	石匙	両側辺裏面側に使用光沢
24－19	JB－209	06502037	Ⅰ	82.0	29.0	10.0	23.7	珪・頁	石匙	
25－20	JB－207	06502038	Ⅰ	71.0	46.0	7.0	18.6	珪・頁	石匙	
25－21	JB－209	06502039	Ⅰ	55.0	28.0	8.0	11.6	珪・頁	石匙	
25－22	JB－209	06502040	Ⅰ	55.0	33.5	6.0	14.2	珪・頁	石匙	右側辺裏面側に使用光沢
25－23	JB－207	06502041	Ⅰ	57.0	36.0	7.0	12.0	珪・頁	石匙	
25－24	JC－207	06502042	Ⅳ	69.0	36.0	8.0	19.6	珪・頁	石匙	
25－25	JC－209	06502043	Ⅳ	66.0	28.0	10.0	16.6	珪・頁	石匙	
26－26	lS－213	06502044	Ⅰ	61.0	29.0	12.0	22.8	珪・頁	石匙	
26－27	JB－208	06502045	Ⅰ	62.5	45.0	14.0	34.5	珪・頁	石匙	
26－28	JB－209	06502046	Ⅰ	39.0	60.0	9.0	23.3	珪・頁	石匙	刃部裏面側に使用光沢
26－29	JB－210	06502047	Ⅳ	52.0	38.0	8.0	16.4	珪・頁	石匙	石匙様光沢あり
	JA－213	06502048	Ⅰ	50.0	27.0	7.0	9.5	珪・頁	石匙	
	JA－212	06502049	Ⅰ	35.0	23.0	7.0	4.3	珪・頁	石匙	
	JA－212	06502050	Ⅰ	24.0	28.0	9.0	6.7	珪・頁	石匙	
	JA－212	06502051	Ⅰ	48.0	26.0	9.0	12.8	珪・頁	石匙	
	JB－209	06502052	Ⅰ	42.0	27.0	6.0	4.3	珪・頁	石匙	
	JB－208	06502053	Ⅰ	51.0	21.0	4.0	4.5	珪・頁	石匙	
	JA－212	06502054	Ⅳ	40.0	36.0	7.0	7.2	珪・頁	石匙	

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
	JC－207	06502055	Ⅳ	50.0	30.0	8.0	10.2	珪・頁	石匙	
26－30	JB－208	06502056	Ⅰ	80.0	31.0	12.0	36.6	珪・頁	石篦	
26－31	JB－214	06502057	Ⅰ	89.0	36.0	18.0	51.3	珪・頁	石篦	
27－32	JA－212	06502058	Ⅰ	61.0	46.0	13.0	35.8	珪・頁	石篦	
27－33	JB－214	06502059	Ⅰ	41.0	30.0	9.0	14.4	珪・頁	石篦	
27－34	JB－210	06502060	Ⅳ	46.0	36.0	13.0	22.2	珪・頁	石篦	
27－35	JB－211	06502061	Ⅰ	47.0	37.0	10.0	21.9	珪・頁	石篦	
27－36	JB－214	06502062	Ⅰ	48.0	28.0	10.0	16.2	珪・頁	石篦	
27－37	JA－212	06502063	Ⅳ	45.0	48.0	15.0	32.9	珪・頁	石篦	
28－38	JB－209	06502064	Ⅳ	90.0	32.0	19.0	53.3	珪・頁	石篦	
28－39	JB－210	06502065	Ⅳ	123.0	53.0	22.0	122.5	珪・頁	石篦	
28－40	IN－206	06502066	Ⅰ	68.0	34.0	11.0	26.2	珪・頁	石篦	
	JA－212	06502067	Ⅰ	36.0	37.0	15.0	18.0	珪・頁	石篦	
	JA－210	06502068	Ⅰ	34.0	26.0	8.0	10.2	珪・頁	石篦	
	JB－213	06502069	Ⅰ	34.0	26.0	8.0	9.4	珪・頁	石篦	
	JB－211	06502070	Ⅰ	32.0	30.0	11.0	10.7	珪・頁	石篦	
28－41	JA－209	06502071	Ⅰ	57.0	42.0	12.0	27.5	珪・頁	不定形	
28－42	JB－209	06502072	Ⅳ	59.0	44.0	19.5	57.7	珪・頁	不定形	
29－43	JA－210	06502073	Ⅳ	66.0	34.0	10.0	22.5	珪・頁	不定形	
29－44	JB－209	06502074	Ⅰ	56.5	42.0	11.0	14.9	珪・頁	不定形	
29－45	JA－211	06502075	Ⅰ	54.5	29.0	12.0	16.3	珪・頁	不定形	左側辺表面側に使用光沢
29－46	JC－208	06502076	Ⅳ	75.0	58.5	13.0	28.1	珪・頁	不定形	
29－47	JB－209	06502077	Ⅳ	109.5	46.0	16.0	51.9	珪・頁	不定形	
29－48	JA－212	06502078	Ⅰ	64.0	34.0	14.0	25.4	珪・頁	不定形	
30－49	JB－208	06502079	Ⅳ	76.5	36.0	18.5	30.0	珪・頁	不定形	
	JA－213	06502080	Ⅰ	35.0	23.0	5.0	4.8	珪・頁	不定形	
	JA－213	06502081	Ⅰ	65.0	45.0	14.0	29.1	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502082	Ⅰ	32.0	14.0	5.0	1.9	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502083	Ⅰ	18.0	24.0	8.0	3.6	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502084	Ⅰ	25.0	24.0	6.0	4.0	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502085	Ⅰ	37.0	33.0	14.0	12.8	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502086	Ⅰ	22.0	25.0	12.0	7.1	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502087	Ⅰ	21.0	26.0	7.0	3.0	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502088	Ⅰ	22.0	27.0	4.0	2.5	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502089	Ⅰ	18.0	20.0	5.0	1.7	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502090	Ⅰ	18.0	18.0	3.0	0.9	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502091	Ⅰ	64.0	30.0	12.0	23.1	珪・頁	不定形	

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
	JA－212	06502092	Ⅰ	21.0	31.0	7.0	4.5	珪・頁	不定形	
	JA－211	06502093	Ⅰ	55.0	40.0	20.0	28.9	珪・頁	不定形	
	JA－209	06502094	Ⅰ	34.0	27.0	10.0	9.4	珪・頁	不定形	焼けハジケ
	JA－209	06502095	Ⅰ	27.0	37.0	13.0	13.7	珪・頁	不定形	
	JA－209	06502096	Ⅰ	61.0	37.0	19.0	38.3	珪・頁	不定形	
	JB－214	06502097	Ⅰ	30.0	31.0	7.0	6.3	珪・頁	不定形	
	JB－214	06502098	Ⅰ	35.0	29.0	10.0	12.0	珪・頁	不定形	
	JB－214	06502099	Ⅰ	40.0	43.0	9.0	16.5	珪・頁	不定形	
	JB－214	06502100	Ⅰ	29.0	31.0	7.0	5.6	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502101	Ⅰ	28.0	26.0	7.0	4.1	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502102	Ⅰ	25.0	18.0	4.0	1.8	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502103	Ⅰ	35.0	31.0	8.0	8.8	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502104	Ⅰ	36.0	46.0	10.0	8.7	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502105	Ⅰ	73.0	30.0	7.0	33.8	珪・頁	不定形	
	JB－212	06502106	Ⅰ	43.0	26.0	7.0	6.6	珪・頁	不定形	
	JB－212	06502107	Ⅰ	40.0	35.0	7.0	7.7	珪・頁	不定形	Rフレイク
	JB－212	06502108	Ⅰ	24.0	22.0	8.0	4.8	珪・頁	不定形	
	JB－211	06502109	Ⅰ	26.0	24.0	6.0	6.2	珪・頁	不定形	打面部分
	JB－211	06502110	Ⅰ	21.0	34.0	5.0	4.7	珪・頁	不定形	末端部
	JB－210	06502111	Ⅰ	35.0	33.0	11.0	10.9	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502112	Ⅰ	28.0	37.0	9.0	11.2	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502113	Ⅰ	34.0	41.0	7.0	7.1	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502114	Ⅰ	24.0	32.0	9.0	5.5	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502115	Ⅰ	29.0	32.0	7.0	5.4	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502116	Ⅰ	28.0	46.0	7.0	8.5	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502117	Ⅰ	38.0	56.0	7.0	31.3	珪・頁	不定形	
	JB－208	06502118	Ⅰ	34.0	24.0	13.0	9.4	珪・頁	不定形	
	JB－208	06502119	Ⅰ	45.0	46.0	10.0	18.0	珪・頁	不定形	
	JB－208	06502120	Ⅰ	36.0	45.0	10.0	14.4	珪・頁	不定形	
	JB－208	06502121	Ⅰ	44.0	50.0	14.0	26.5	珪・頁	不定形	
	JB－207	06502122	Ⅰ	48.0	28.0	9.0	10.4	珪・頁	不定形	
	JB－207	06502123	Ⅰ	32.0	29.0	8.0	6.2	珪・頁	不定形	
	JB－207	06502124	Ⅰ	63.0	66.0	13.0	43.2	珪・頁	不定形	
	ID－210	06502125	Ⅰ	30.0	37.0	5.0	3.7	珪・頁	不定形	
	IO－214	06502126	Ⅰ	39.0	34.0	6.0	8.7	珪・頁	不定形	打面部分
	JA－212	06502127	Ⅳ	19.0	32.0	8.0	5.0	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502128	Ⅳ	36.0	36.0	16.0	14.1	珪・頁	不定形	
	JA－212	06502129	Ⅳ	42.0	34.0	12.0	14.2	珪・頁	不定形	
	JB－213	06502130	Ⅳ	25.0	27.0	9.0	8.5	珪・頁	不定形	
	JB－211	06502131	Ⅳ	27.0	66.0	14.0	25.3	珪・頁	不定形	
	JB－211	06502132	Ⅳ	70.0	38.0	12.0	23.1	珪・頁	不定形	
	JB－211	06502133	Ⅳ	48.0	29.0	11.0	12.4	珪・頁	不定形	
	JB－211	06502134	Ⅳ	41.0	48.0	15.0	30.4	珪・頁	不定形	
	JB－210	06502135	Ⅳ	31.0	31.0	8.0	11.2	珪・頁	不定形	
	JB－208	06502136	Ⅳ	41.0	38.0	6.0	7.3	珪・頁	不定形	
	JC－211	06502137	Ⅳ	64.0	67.0	15.0	59.8	珪・頁	不定形	
	JC－209	06502138	Ⅳ	43.0	72.0	20.0	46.2	珪・頁	不定形	
	JC－208	06502139	Ⅳ	41.0	29.0	7.0	7.6	珪・頁	不定形	焼けハジケ
	JC－208	06502140	Ⅳ	67.0	62.0	12.0	40.0	珪・頁	不定形	
	JC－207	06502141	Ⅳ	42.0	39.0	18.0	18.3	玉	不定形	
	JC－207	06502142	Ⅳ	55.0	27.0	5.0	5.6	珪・頁	不定形	
	IM－210	06502143	Ⅳ	80.0	55.0	21.0	58.3	珪・頁	不定形	
	IM－210	06502144	Ⅳ	36.0	43.0	3.0	19.1	珪・頁	不定形	
	IP－213	06502145	Ⅳ	40.0	28.0	12.0	14.1	珪・頁	不定形	
	IQ－214	06502146	Ⅳ	43.0	35.0	12.0	13.4	珪・頁	不定形	
	IT－214	06502147	Ⅳ	28.0	23.0	4.0	2.0	珪・頁	不定形	
	IT－214	06502148	Ⅳ	27.0	35.0	9.0	6.5	珪・頁	不定形	

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
	表採	06502149		47.0	57.0	13.0	22.1	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502150	Ⅰ	20.0	39.0	12.0	6.1	珪・頁	不定形	
	JB－209	06502151	Ⅰ	26.0	27.0	8.0	5.4	珪・頁	不定形	
	JA－213	06502247	Ⅰ	45.0	44.0	16.0	25.3	珪・頁	その他の剥片石器	
	JA－210	06502248	Ⅰ	33.0	28.0	14.0	15.6	珪・頁	その他の剥片石器	
	JB－209	06502249	Ⅰ	37.0	40.0	15.0	18.4	珪・頁	その他の剥片石器	
30－50	JA－212	06502152	Ⅰ	48.0	55.0	10.0	20.8	珪・頁	使用痕剥片	
30－51	JB－208	06502153	Ⅰ	43.0	34.0	8.0	15.5	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－213	06502154	Ⅰ	40.0	51.0	14.0	24.7	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502155	Ⅰ	29.0	49.0	10.0	12.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502156	Ⅰ	22.0	20.0	2.0	1.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502157	Ⅰ	25.0	21.0	6.0	2.5	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502158	Ⅰ	41.0	21.0	6.0	5.3	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502159	Ⅰ	35.0	15.0	4.0	1.5	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502160	Ⅰ	49.0	22.0	6.0	6.6	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502161	Ⅰ	38.0	31.0	5.0	5.9	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502162	Ⅰ	57.0	45.0	19.0	36.5	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502163	Ⅰ	31.0	31.0	10.0	9.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502164	Ⅰ	71.0	30.0	12.0	13.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502165	Ⅰ	64.0	52.0	12.0	30.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－211	06502166	Ⅰ	37.0	23.0	8.0	5.2	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－209	06502167	Ⅰ	34.0	40.0	11.0	16.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－209	06502168	Ⅰ	35.0	22.0	11.0	6.5	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－209	06502169	Ⅰ	37.0	27.0	15.0	12.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－214	06502170	Ⅰ	49.0	31.0	10.0	9.9	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－214	06502171	Ⅰ	57.0	31.0	11.0	12.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－213	06502172	Ⅰ	63.0	71.0	21.0	63.9	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－213	06502173	Ⅰ	55.0	39.0	9.0	20.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－212	06502174	Ⅰ	37.0	53.0	7.0	6.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－212	06502175	Ⅰ	26.0	33.0	7.0	5.2	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－211	06502176	Ⅰ	38.0	33.0	11.0	8.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－211	06502177	Ⅰ	42.0	43.0	15.0	25.7	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－211	06502178	Ⅰ	33.0	33.0	4.0	4.4	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－211	06502179	Ⅰ	20.0	30.0	4.0	2.2	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－211	06502180	Ⅰ	18.0	30.0	6.0	2.6	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502181	Ⅰ	19.0	37.0	3.0	2.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502182	Ⅰ	52.0	20.0	7.0	5.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502183	Ⅰ	46.0	40.0	9.0	11.9	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502184	Ⅰ	53.0	30.0	13.0	21.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502185	Ⅰ	53.0	42.0	12.0	13.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－208	06502186	Ⅰ	38.0	34.0	10.0	9.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－208	06502187	Ⅰ	47.0	34.0	15.0	12.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－208	06502188	Ⅰ	56.0	32.0	6.0	9.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－207	06502189	Ⅰ	27.0	51.0	18.0	17.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－207	06502190	Ⅰ	45.0	50.0	10.0	18.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－207	06502191	Ⅰ	36.0	52.0	15.0	25.6	珪・頁	使用痕剥片	
	IM－210	06502192	Ⅰ	27.0	20.0	18.0	4.4	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－212	06502193	Ⅳ	79.0	54.0	11.0	39.7	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－210	06502194	Ⅳ	52.0	30.0	18.0	9.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－209	06502195	Ⅳ	45.0	45.0	11.0	25.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JA－209	06502196	Ⅳ	87.0	34.0	11.0	27.1	珪・頁	使用痕剥片	
	JB－209	06502197	Ⅳ	30.0	27.0	5.0	5.8	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－211	06502198	Ⅳ	36.0	44.0	10.0	13.7	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－208	06502199	Ⅳ	62.0	85.0	7.0	34.4	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－207	06502200	Ⅳ	58.0	43.0	17.0	31.2	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－207	06502201	Ⅳ	38.0	25.0	7.0	5.4	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－207	06502202	Ⅳ	29.0	39.0	8.0	9.1	珪・頁	使用痕剥片	

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
	JC－207	06502203	Ⅳ	63.0	30.0	7.0	11.0	珪・頁	使用痕剥片	
	JC－207	06502204	Ⅳ	53.0	60.0	16.0	36.4	珪・頁	使用痕剥片	
	IP－213	06502205	Ⅳ	60.0	47.0	9.0	18.8	珪・頁	使用痕剥片	
	IT－214	06502206	Ⅳ	25.0	22.0	8.0	3.7	珪・頁	使用痕剥片	
30－52	JC－211	06502207	Ⅰ	61.0	57.0	17.0	58.0	珪・頁	二次加工剥片	
30－53	IC－214	06502208	Ⅳ	89.0	57.0	24.0	98.2	珪・頁	二次加工剥片	
31－54	JB－210	06502209	Ⅳ	77.0	45.0	22.0	130.0	輝・凝	磨製石斧	
	JA－209	06502210	Ⅰ	53.0	38.0	14.0	34.0	輝・凝	磨製石斧	
31－55	IT－208	06502211	Ⅳ	39.0	59.0	17.0	54.0	凝	石錘	
31－56	JB－214	06502212	Ⅰ	139.0	77.0	35.0	558.0	安	敲磨器類	
31－57	JB－214	06502213	Ⅰ	77.0	72.0	30.0	230.0	安	敲磨器類	
31－58	JB－209	06502214	Ⅰ	75.0	62.0	21.0	120.0	頁	敲磨器類	
31－59	JB－211	06502215	Ⅰ	72.0	51.0	22.0	96.0	閃	敲磨器類	
31－60	JB－209	06502216	Ⅰ	86.0	70.0	65.0	460.0	安	敲磨器類	
31－61	JB－211	06502217	Ⅳ	68.0	75.0	67.0	368.0	安	敲磨器類	
32－62	JA－212	06502218	Ⅰ	72.0	38.0	26.0	110.0	ﾃﾞｲｻｲﾄ	敲磨器類	
32－63	JB－211	06502219	Ⅳ	152.0	61.0	25.0	312.0	変・安	敲磨器類	
32－64	JC－207	06502220	Ⅰ	115.0	59.0	27.0	252.0	頁	敲磨器類	
32－65	JB－211	06502221	Ⅰ	101.0	62.0	34.0	232.0	泥	敲磨器類	
32－66	JA－212	06502222	Ⅰ	97.0	87.0	51.0	568.0	安	敲磨器類	
	JA－212	06502223	Ⅰ	45.0	52.0	33.0	90.0	ﾃﾞｲｻｲﾄ	敲磨器類	
	JA－211	06502224	Ⅳ	36.0	30.0	13.0	22.1	凝	敲磨器類	

整理番号	遺構毎遺物番号		層　位	最大計測値(mm、g)				石質	器　種	備　考
	出土地点	整理番号		長さ	幅	厚さ	重量			
	JB－214	06502225	Ⅰ	50.0	79.0	21.0	94.0	安	敲磨器類	
	JB－214	06502226	Ⅰ	69.0	51.0	37.0	134.0	安	敲磨器類	
32－67	JB－211	06502227	Ⅳ	102.0	120.0	22.0	340.0	安	半円	
33－68	JC－214	06502228	Ⅳ	52.0	104.0	17.0	166.0	安	半円	
33－69	JC－209	06502229	Ⅳ	73.0	66.0	19.0	120.0	安	半円	
33－70	JC－208	06502230	Ⅳ	68.0	81.0	15.0	130.0	安	半円	
33－71	IN－210	06502231	Ⅳ	59.0	77.0	24.0	132.0		半円	
33－72	JC－211	06502232	Ⅳ	17.0	93.0	30.0	642.0	凝	石皿	
33－73	JA－210	06502233	Ⅳ	101.0	69.0	63.0	594.0	溶・疑	石皿	
	JB－212	06502234	Ⅰ	79.0	55.0	44.0	208.0	珪・頁	石核	
	JB－209	06502235	Ⅰ	38.0	52.0	32.0	45.4	珪・頁	石核	
	JB－209	06502236	Ⅰ	68.0	36.0	43.0	79.4	珪・頁	石核	
	JB－208	06502237	Ⅰ	31.0	41.0	38.0	41.1	珪・頁	石核	
	JB－210	06502238	Ⅳ	44.0	70.0	51.0	182.5	珪・頁	石核	
	JB－214	06502239	Ⅰ	44.0	52.0	35.0	104.0	赤	赤鉄鉱	
	JB－213	06502240	Ⅰ	61.0	33.0	21.0	40.0	赤	赤鉄鉱	
	JB－213	06502241	Ⅰ	56.0	41.0	46.0	110.0	赤	赤鉄鉱	
	JB－213	06502242	Ⅰ	109.0	92.0	73.0	638.0	赤	赤鉄鉱	
	JB－213	06502243	Ⅰ	32.0	31.0	27.0	28.0	赤	赤鉄鉱	
	JB－212	06502244	Ⅰ	28.0	25.0	14.0	9.6	赤	赤鉄鉱	
	JB－211	06502245	Ⅰ	58.0	35.0	35.0	72.0	赤	赤鉄鉱	

ま　と　め

近野遺跡は、青森市大字安田字近野、三内字丸山に所在する。地形的には、青森市西部の丘陵地北東端部の段丘面上に位置する。

当委員会では、宅地分譲地の造成工事に先立ち、本遺跡の東端に相当する標高９～13mの低位段丘上において調査面積1,614㎡の発掘調査を実施した。調査区は、全体として南西側から北東側へ緩やかに下る斜面であるが、調査区東側では、沢地に下る若干急な斜面が見られる。調査区は、休耕畑地という状況であったためか、大半が第Ⅴ層、第Ⅵ層まで撹乱を受けていた。縄文時代の遺物を含む第Ⅳ層は、調査区東側で主に確認しており、調査区西側では、部分的な確認に留まる。

調査の結果、竪穴式住居跡６軒、土坑11基、小ピット11基を検出した。また、出土した遺物には、縄文時代早期中葉～中期末葉の土器、石器がある。出土量としては、ダンボール箱換算で15箱が出土した。

竪穴式住居跡は、調査区西側から中央部にかけて分布する。平面形は、隅丸長方形１軒を除き、ほぼ円形ないし楕円形が基調である。北西－南東の長軸方向のもの４軒、その他が2軒である。規模は、約２～3.5mに収まる。また、柱穴は、２本主柱のものが5軒と多数であった。時期の詳細不明なものが多いが、第３号竪穴式住居跡の土器片囲炉では、最花式土器及びほぼ併行と思われる土器が用いられていた。また、第２号竪穴式住居跡覆土出土土器と第３号竪穴式住居跡の土器片囲炉の土器には、接合関係が見られた。

土坑は、８基が調査区ＩS～ＪＣ－212～214グリッドに位置し比較的まとまって分布している。平面形は、円形ないし楕円形で、断面形は、緩やかに立ち上がる皿状のものが多数である。袋状、フラスコ状のものは、確認していないが、上部削平の影響もあるものと思われる。確認面における規模は、約0.5～1.5mに収まる。時期は、不明なものが多いものの、第11号土坑では、覆土より最花式土器等中期末葉の土器が複数個体出土している。

小ピットは、９基がＩＳ、ＩＴ－214、215グリッドに集中している。柱穴の用途が想定されるものもあり、竪穴式住居跡等の柱穴だったものもあるのかもしれないが、時期を含めて詳細は不明である。

土器は、縄文時代早期中葉から中期末葉のものが出土しているが、主体を占めるものは、縄文時代前期中葉の円筒下層ａ、ｂ式土器である。それに次いで前期前半の早稲田６類土器や中期末葉の最花式土器等が出土している。第Ⅰ層及び調査区東側の第Ⅳ層から出土しているが、第Ⅳ層においても点在する破片の状況で出土している。出土状況における時期差等は把握できなかった。

石器は、調整痕、使用痕の見られないフレークや原礫を除いて遺構内外の合計で241点が出土した。遺構外出土のものは、土器と同様大半が第Ⅰ層及び調査区東側の第Ⅳ層から出土している。器種は、石鏃、石槍、石匙、石錐、石箆、不定形石器、磨製石斧、石錘、敲磨器類、半円状扁平打製石器、石皿等が出土している。

調査区は本遺跡の東端にあたり、標高も10m前後と低い地点であるが、集落跡と判断できる。しかし、調査区の周囲においては、東側で沖館川の支流と思われる沢が確認されており、これは調査区の北側及び西側にも存在するものと推測される。また、調査区外南側、現在の総合運動公園内においては、これまでの調査で縄文時代後期の遺物包含層や平安時代の集落が主として確認されている。そのため、調査区内の集落の範囲は、南から南西方向側にまだ多少は広がるかもしれないが、広範囲とはならず小規模

なものに留まるものと考えられる。

最後になりましたが、現地調査から整理、報告書刊行に至るまで、ご指導、ご協力を賜りました関係各位に感謝の意を表する次第であります。また、埋蔵文化財保護の主旨をご理解して下さり、終始、ご家族の皆様共々大変快く調査に御協力いただきました 手 塚　宇一郎 氏に深くお礼申し上げます。

引用・参考文献

青森県教育委員会　1974　『中の平遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第25集

青森県教育委員会　1977　『三内澤部遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第41集

青森県教育委員会　1975　『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅱ)』 青森県埋蔵文化財調査報告書第22集

青森県教育委員会　1997　『近野遺跡Ⅴ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第216集

青森県教育委員会　1999　『安田(２)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第255集

青森県教育委員会　1999　『三内丸山(６)遺跡Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第257集

青森県教育委員会　1999　『三内丸山(５)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第269集

青森県教育委員会　2000　『三内丸山(６)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第279集

青森県教育委員会　2001　『栄山(３)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第294集

青森県教育委員会　2001　『安田(２)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第303集

青森県教育委員会　2001　『三内丸山(６)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第307集

青森県教育委員会　2002　『近野遺跡Ⅵ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第315集

青森県教育委員会　2002　『安田(２)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第321集

青森県教育委員会　2002　『三内丸山(６)遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第327集

青森市教育委員会　1962　『三内霊園遺跡調査概報告』 青森市の文化財１

青森市教育委員会　1970　『三内丸山遺跡調査概報告』 青森市の文化財４

青森市教育委員会　1993　『三内丸山(２)遺跡発掘調査概報』 青森市埋蔵文化財調査報告書第18集

青森市教育委員会　1994　『小三内遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第23集

青森市教育委員会　1994　『三内丸山(２)・小三内遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第24集

青森市教育委員会　1995　『市内遺跡詳細分布調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第25集

青森市教育委員会　1997　『市内遺跡詳細分布調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第31集

青森市教育委員会　1998　『市内遺跡詳細分布調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第39集

青森市教育委員会　2001　『市内遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第59集

青森市教育委員会　2002　『大矢沢野田(１)遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第61集

青森市教育委員会　2002　『市内遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第64集

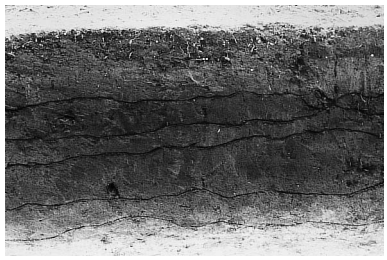
青森市蛍沢遺跡発掘調査団　1979　『蛍沢遺跡』

三　宅　徹　也　1989　「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』１　小学館

村　越　　潔　1974　『円筒土器文化』　雄山閣

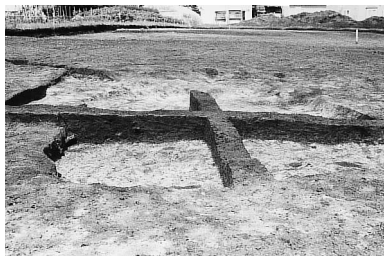
調査前風景（ＮＥ→）

基本層序１セクション（N→）

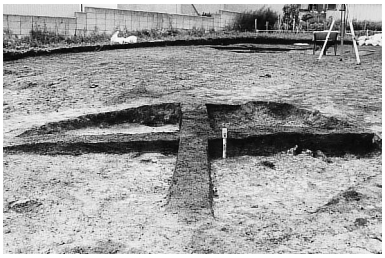

基本層序２セクション（N→）

基本層序３セクション（E→）

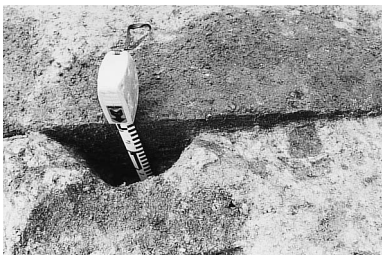
基本層序４セクション（S→）

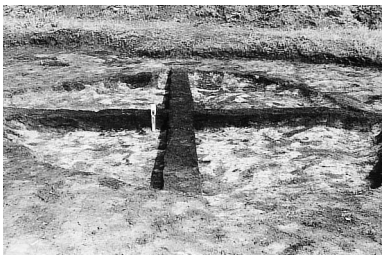

第１号竪穴式住居跡セクション（ＳＥ→）

第１号竪穴式住居跡完掘（E→）


第２号竪穴式住居跡セクション（E→）

第２号竪穴式住居跡完掘（E→）


第２号竪穴式住居跡内ピット１、２セクション（E→）

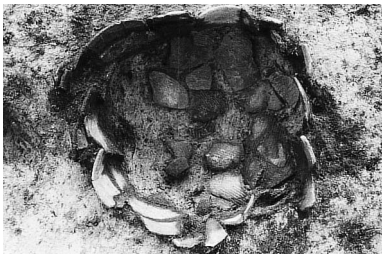

第３号竪穴式住居跡セクション（S→）

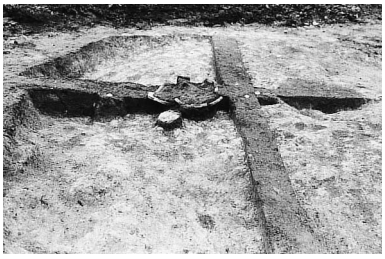
第３号竪穴式住居跡検出状況（S→）

第３号竪穴式住居跡完掘（S→）

第３号竪穴式住居跡内土器片囲炉確認（E→）

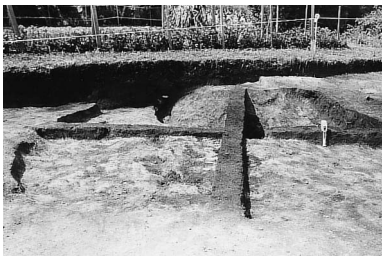
第３号竪穴式住居跡内土器片囲炉セクション（ＮＥ→）


第３号竪穴式住居跡内土器片囲炉検出状況（E→）

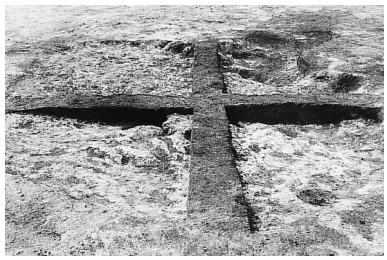

第４号竪穴式住居跡セクション（E→）

第４号竪穴式住居跡完掘（W→）

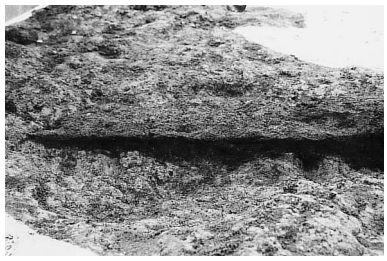
写真１　調査前風景・基本層序・竪穴式住居跡（１）


第５号竪穴式住居跡セクション（Ｅ→）

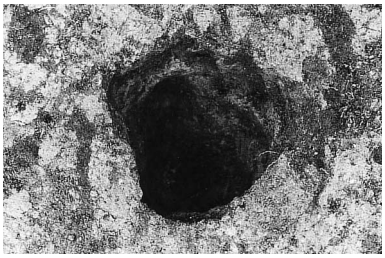
第５号竪穴式住居跡完掘（Ｅ→）

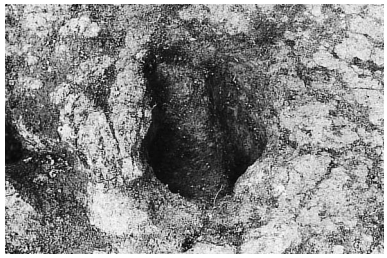

第６号竪穴式住居跡セクション（Ｎ→）

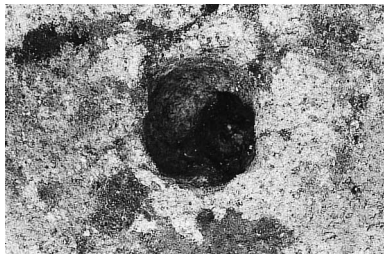
第６号竪穴式住居跡完掘（Ｅ→）


第６号竪穴式住居跡内ピット１、２セクション（ＮＥ→）

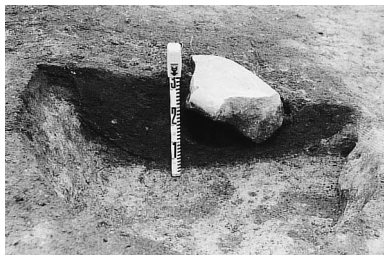
第６号竪穴式住居跡内ピット１、２完掘（ＮＥ→）

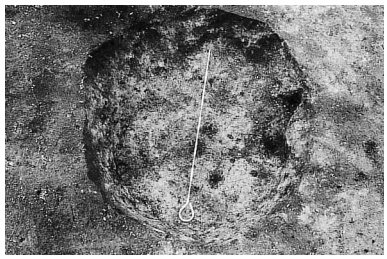

第６号竪穴式住居跡内ピット３完掘（Ｅ→）

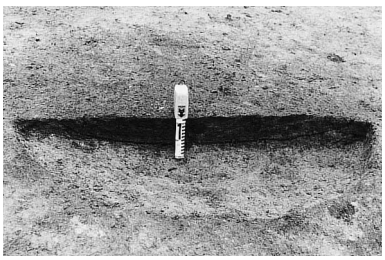

第６号竪穴式住居跡内ピット４完掘（ＮＥ→）

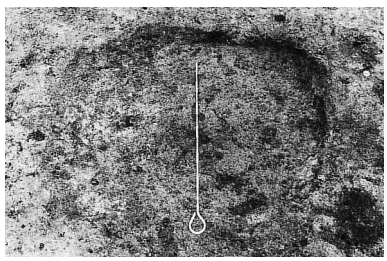

第６号竪穴式住居跡内ピット５完掘（Ｅ→）

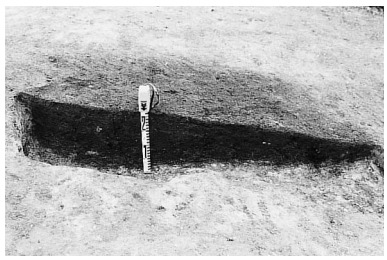
第６号竪穴式住居跡内ピット７完掘（Ｅ→）


第１号土坑セクション（Ｓ→）

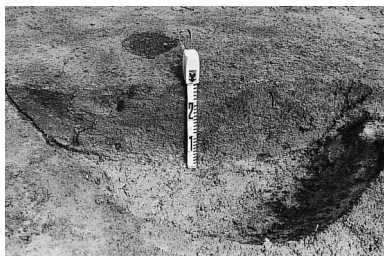

第１号土坑完掘（Ｓ→）


第２号土坑セクション（Ｓ→）


第２号土坑完掘（Ｓ→）


第３号土坑セクション（Ｓ→）

第３号土坑完掘（Ｓ→）


第４号土坑セクション（Ｓ→）

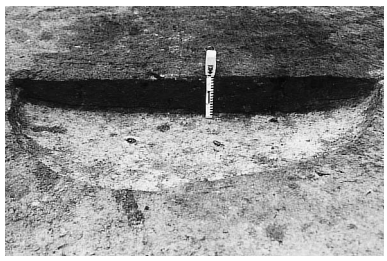
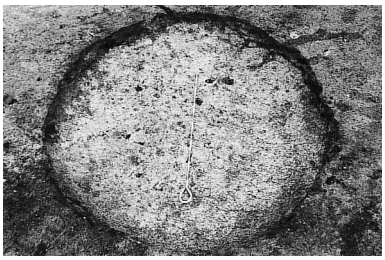
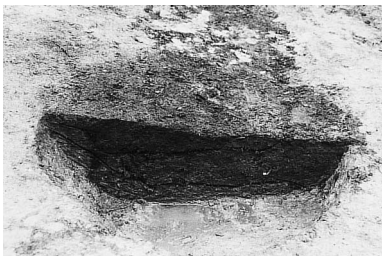
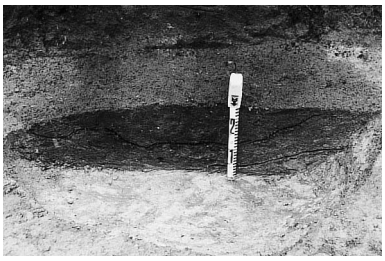

第５号土坑セクション（Ｎ→）

写真２　竪穴式住居跡（２）・土坑（１）


第５号土坑完掘（Ｓ→）

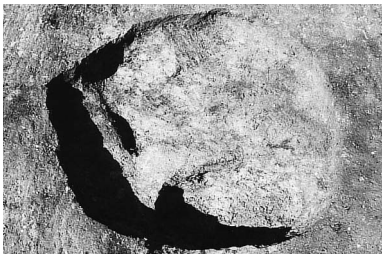

第６号土坑セクション（Ｓ→）

第６号土坑完掘（Ｓ→）

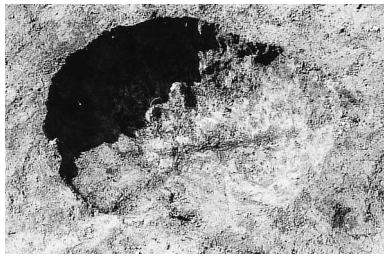

第７号土坑セクション（Ｎ→）

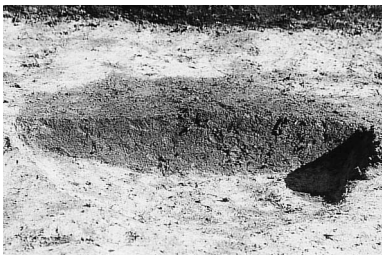
第７号土坑完掘（Ｎ→）

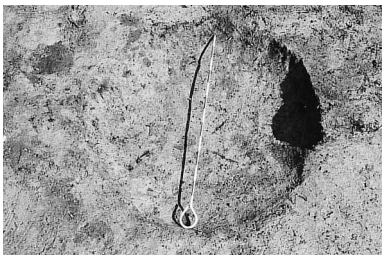
第８号土坑セクション（Ｓ→）


第８号土坑完掘（Ｓ→）

第９号土坑セクション（ＳＥ→）

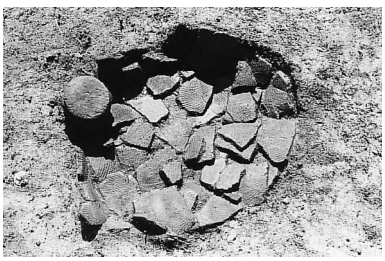

第９号土坑完掘（ＳＥ→）

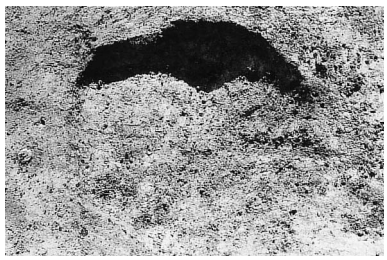

第10号土坑セクション（Ｓ→）

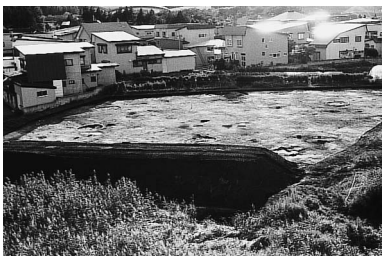

第10号土坑完掘（Ｓ→）

第11号土坑確認（Ｅ→）

第11号土坑セクション（Ｅ→）


第11号土坑遺物出土状況（Ｅ→）


第11号土坑完掘（Ｅ→）


調査風景（Ｅ→）

調査風景（ＳＥ→）

調査風景（Ｓ→）

写真３　土坑（２）・調査風景

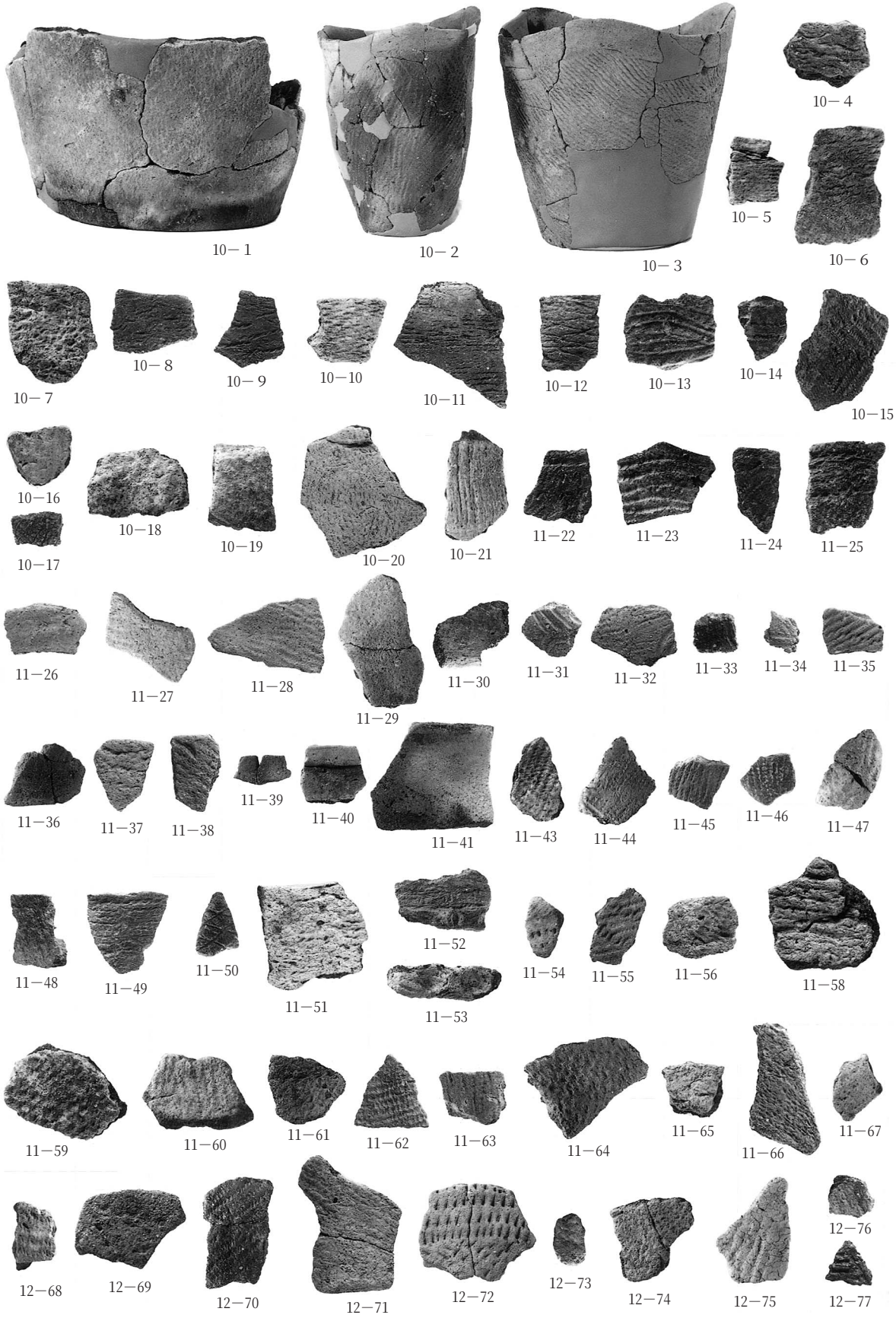


写真４　遺構内出土土器（１）

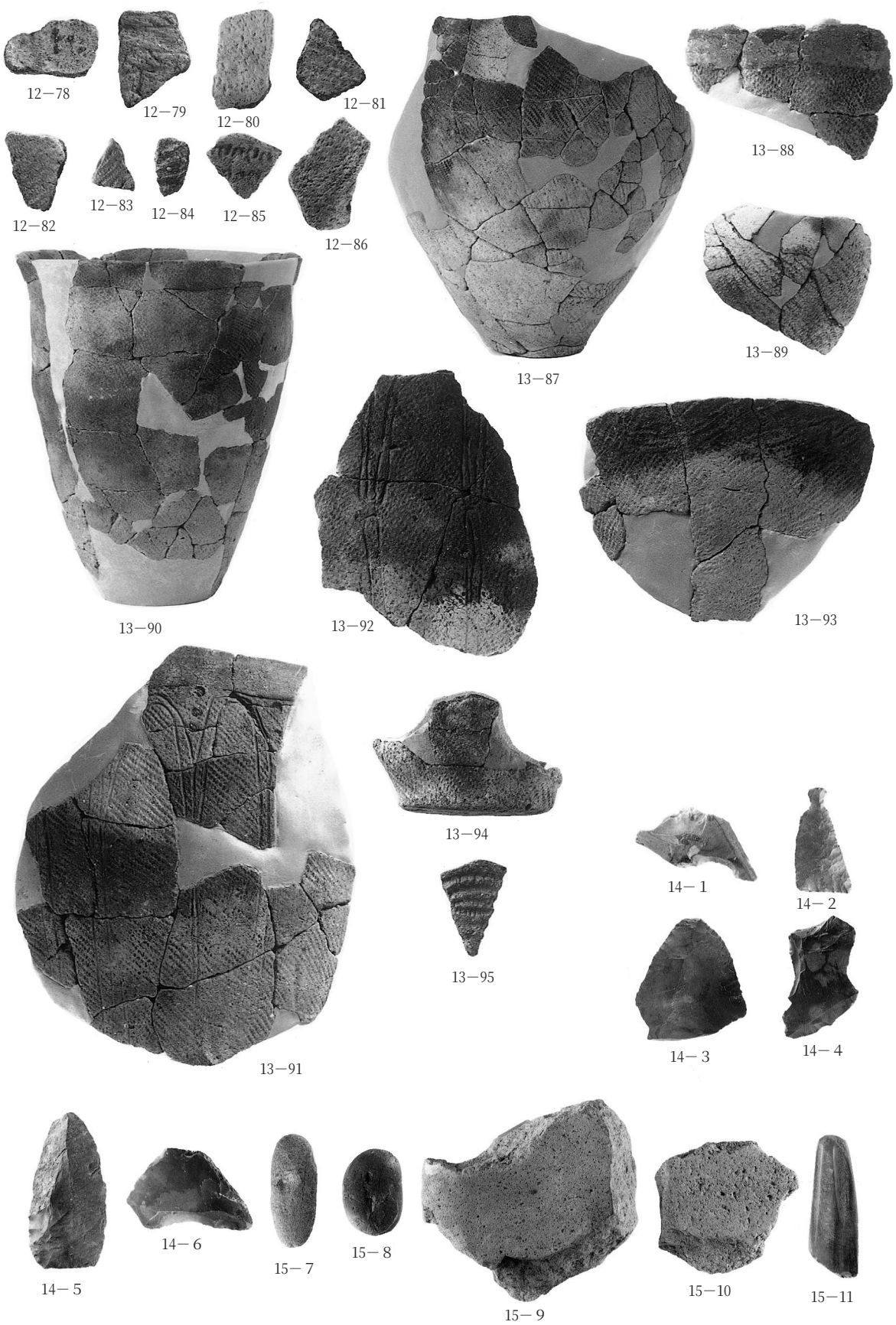


写真５　遺構内出土土器（２）・石器（１）

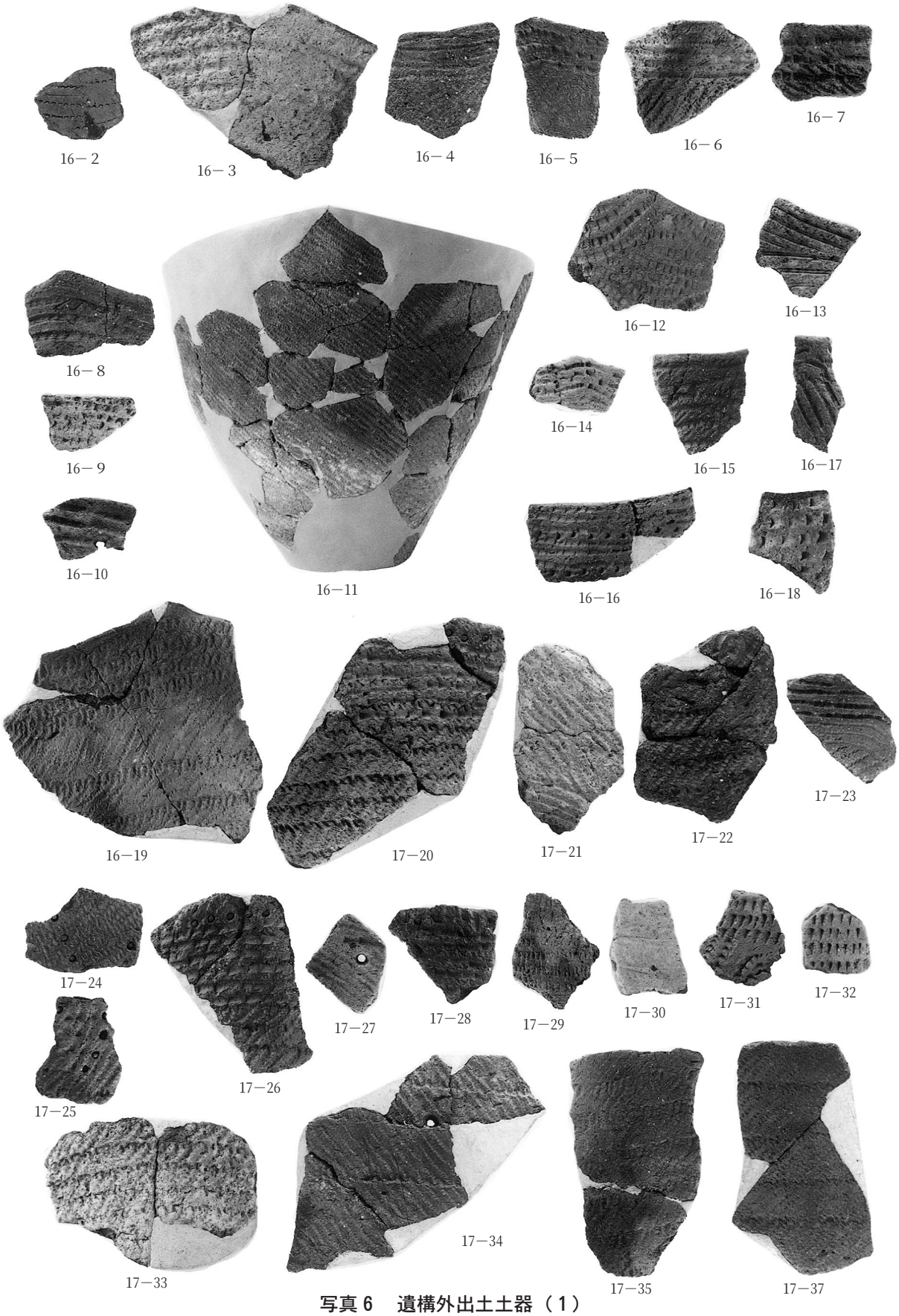


写真 6　遺構外出土土器（1）

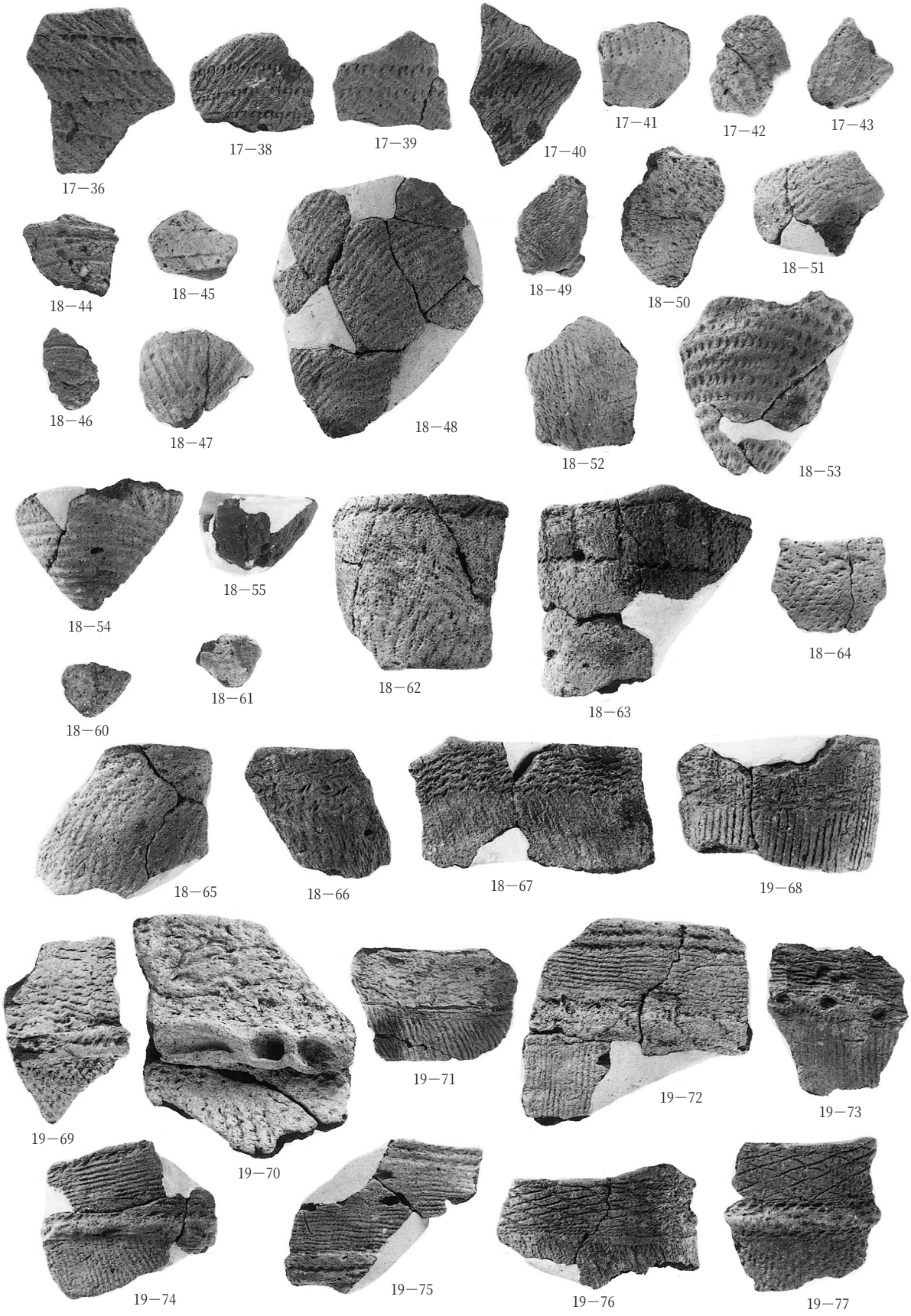


写真７　遺構外出土土器（２）

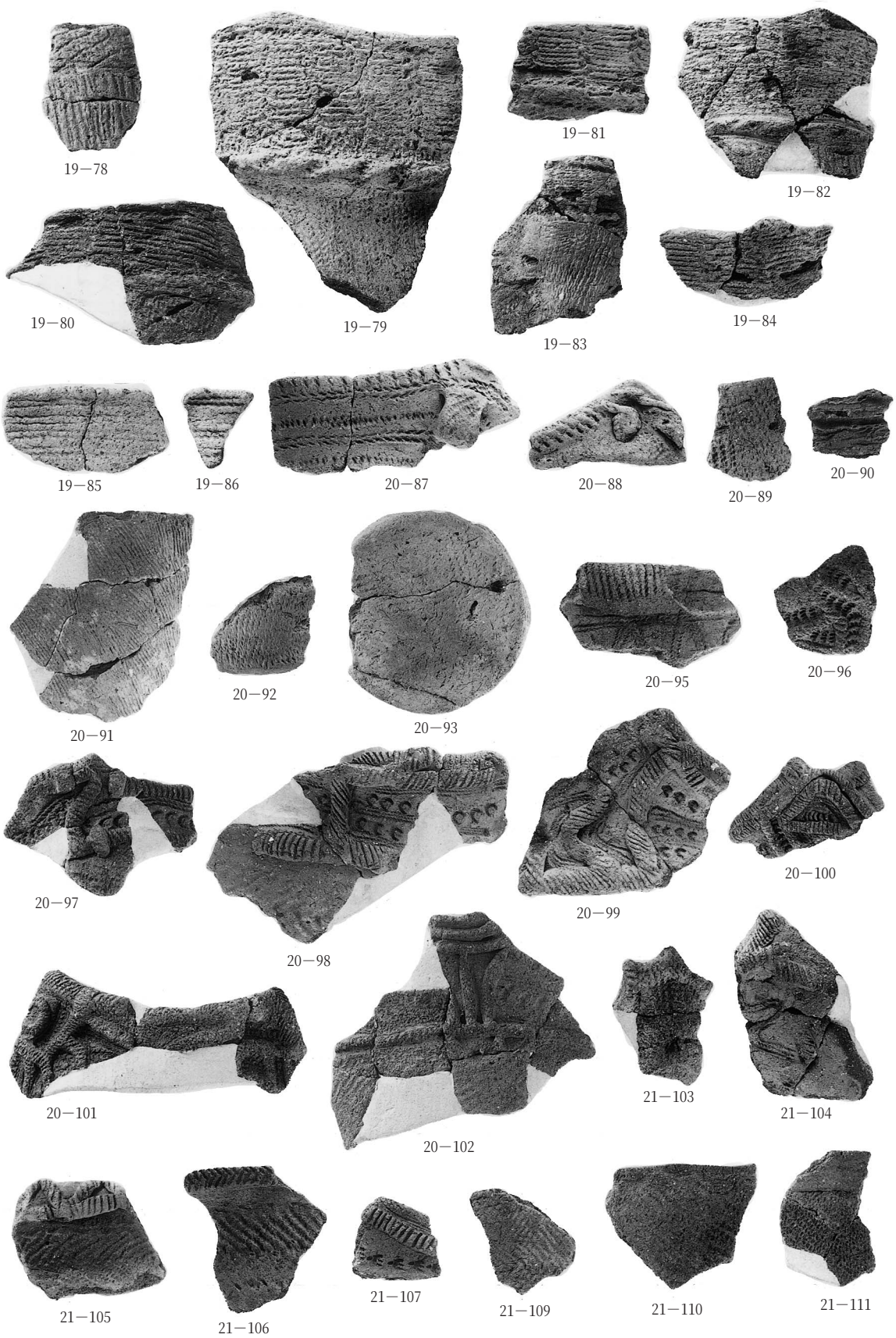


写真８　遺構外出土土器（３）

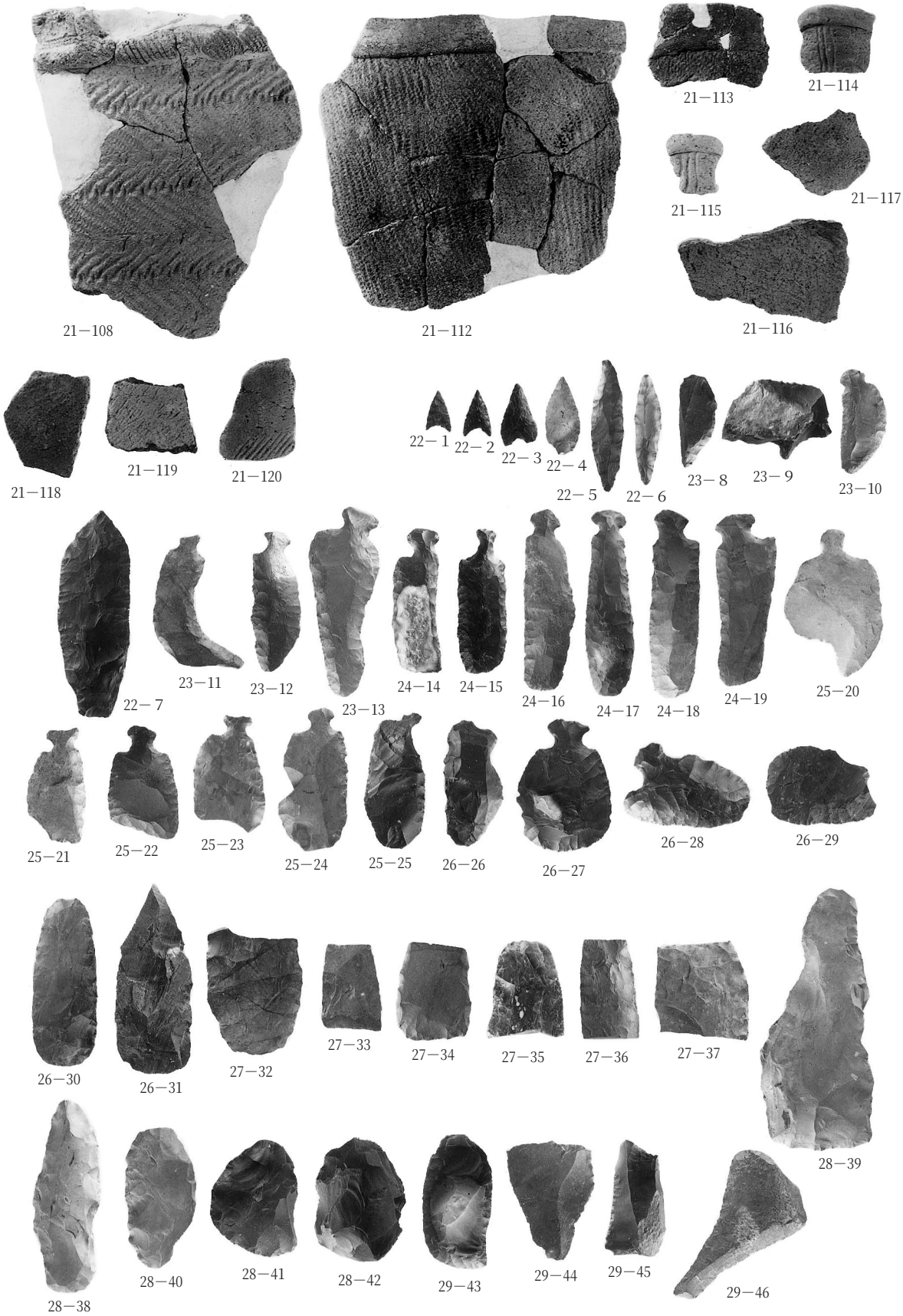


写真９　遺構外出土土器（４）・石器（１）

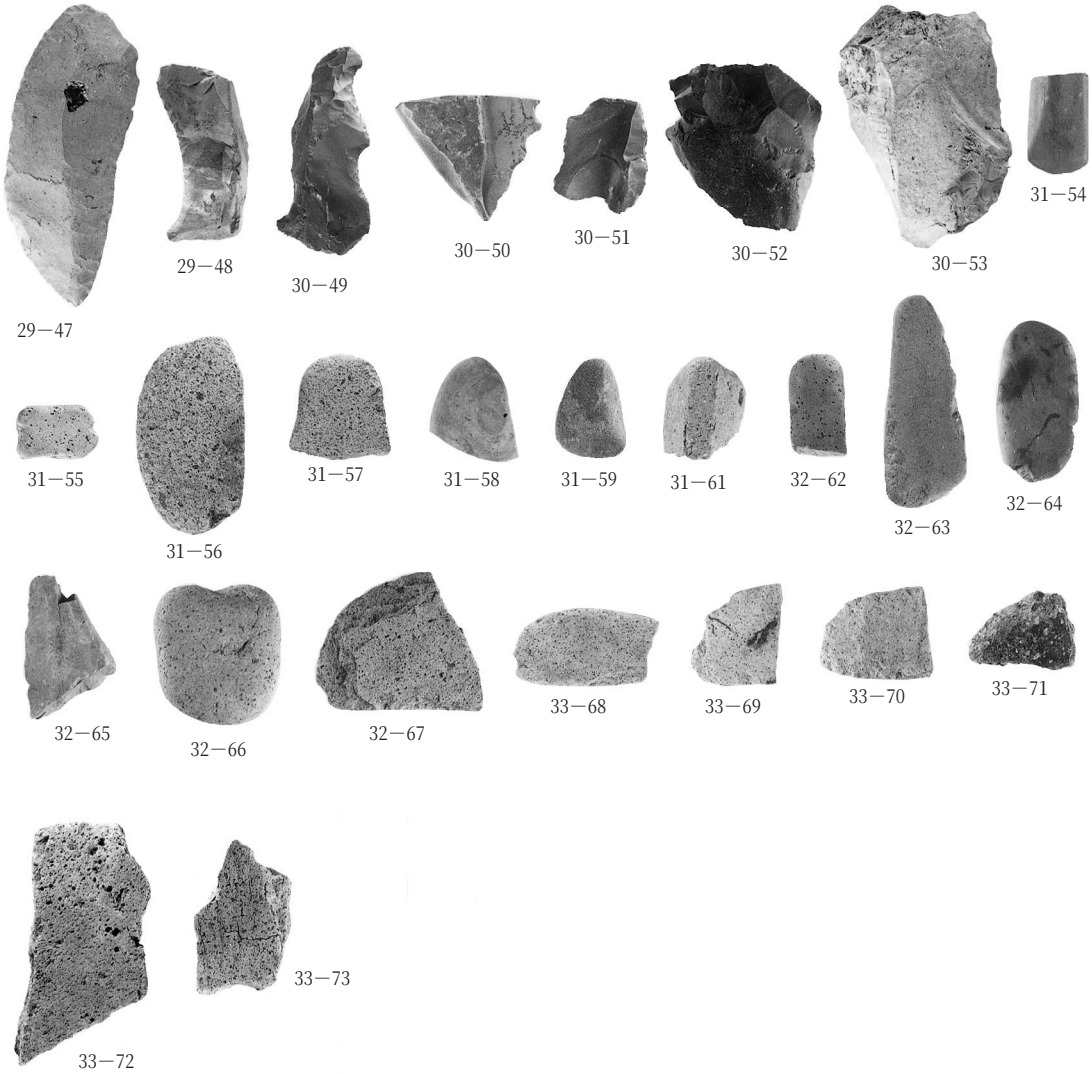


写真10　遺構外出土石器（２）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちかのいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	近野遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第68集
編著者名	小野貴之
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒030-8555　青森県青森市中央一丁目22-5　ＴＥＬ017-734-1111
発行年月日	西暦2003年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測値系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
近野（ちかの）	青森市大字安田字近野（あおもりしおおあざやすだあざちかの） 276－1	02201	01065	40° 48′ 27″	140° 42′ 12″	20020726 ～ 20020918	1,614	民間事業（分譲宅地開発）に係る事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
近野（ちかの）	集落跡	縄文	竪穴式住居跡　６軒 土坑　11基 小ピット　11基	縄文土器 石器	

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1　1962　『三内霊園遺跡調査概報』
〃　2　1965　『四ツ石遺跡調査概報』
〃　3　1967　『玉清水遺跡調査概報』
〃　4　1970　『三内丸山遺跡調査概報』
〃　5　1971　『野木和遺跡調査報告書』
〃　6　1971　『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃　7　1971　『大浦遺跡調査報告書』
〃　8　1973　『孫内遺跡発掘調査報告書』
1979　『蛍沢遺跡』
1983　『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財　1983　『山野峠遺跡』
〃　1985　『長森遺跡発掘調査報告書』
〃　1986　『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃　1987　『横内城跡発掘調査報告書』
〃　1988　『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃　第16集　1991　『山吹(１)遺跡発掘調査報告書』
〃　第17集　1992　『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃　第18集　1993　『三内丸山(２)遺跡発掘調査概報』
〃　第19集　1993　『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第20集　1993　『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃　第21集　1994　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第22集　1994　『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第23集　1994　『三内丸山(２)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第24集　1995　『横内遺跡・横内(２)遺跡発掘調査報告書』
〃　第25集　1995　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第26集　1995　『桜峯(２)遺跡発掘調査報告書』
〃　第27集　1996　『桜峯(１)遺跡発掘調査概報』
〃　第28集　1996　『三内丸山(２)遺跡発掘調査報告書』
〃　第29集　1996　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第30集　1996　『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃　第31集　1997　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第32集　1997　『桜峯(１)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第33集　1997　『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃　第34集　1997　『葛野(２)遺跡発掘調査報告書』
〃　第35集　1997　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第36集　1998　『桜峯(１)遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃　第37集　1998　『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃　第38集　1998　『野木遺跡発掘調査報告書』
〃　第39集　1998　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第40集　1998　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第41集　1998　『野木遺跡発掘調査概報』
〃　第42集　1998　『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃　第43集　1999　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第44集　1999　『葛野(２)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第45集　1999　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃　第46集　1999　『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃　第47集　1999　『稲山遺跡発掘調査概報』
〃　第48集　2000　『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃　第49集　2000　『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第50集　2000　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃　第51集　2000　『桜峯(１)・雲谷山吹(３)遺跡発掘調査報告書』
〃　第52集　2000　『大矢沢野田(１)遺跡調査報告書』
〃　第53集　2000　『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第54集　2001　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第55集　2001　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃　第56集　2001　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃　第57集　2001　『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃　第58集　2001　『大矢沢野田(１)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第59集　2001　『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第60集　2002　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃　第61集　2002　『大矢沢野田(１)遺跡発掘調査報告書』
〃　第62集　2002　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第63集　2002　『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃　第64集　2002　『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第65集　2003　『雲谷山吹(４)～(７)遺跡発掘調査報告書』
〃　第66集　2003　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第67集　2003　『深沢(３)遺跡発掘調査報告書』
〃　第68集　2003　『近野遺跡発掘調査報告書』
〃　第69集　2003　『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃　第70集　2003　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』

青森市埋蔵文化財調査報告書第68集

近野遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成15年3月31日

発　　行　青森市教育委員会
〒030-8555 青森市中央一丁目22-5
TEL 017-734-1111

印　　刷　青森コロニー印刷
〒030-0943 青森市幸畑字松元62-3
TEL 017-738-2021